

令和5(2023)年度

年 報

第19巻

全仁会グループ

令和5(2023)年度

年 報

第19巻

全仁会グループ



発刊によせて

社会医療法人全仁会 理事長

高尾 聡一郎



令和5年度を振り返りますと、5月から新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染症法上の分類が2類相当から5類に移行されたことで、社会活動が徐々にコロナ前の状況へ戻り始めたことが、我々医療従事者にとって大きな出来事だったのではないのでしょうか。それに伴い、これまでオンラインや動画配信形式で実施していた全仁会の4本柱、「看護セミナー」「神経セミナー」「のぞみの会」「全仁会研究発表大会」を、対面形式で開催することができました。

また、地区文化祭や倉敷天領夏祭りへの参加など、地域とのつながりも徐々に取り戻しつつあることを実感した一年でありました。

令和6年度は、「一歩前へ～新時代へ共に歩む～」とスローガンを定めています。この言葉には、職員一人ひとりが主体性を持ち、新たな時代の課題へ共に挑む決意を込めています。研究によると、幸福感の高い社員は創造性や生産性が向上し、業務効率や安全性が大幅に改善することが示されています。当院では、職員がやりがいを持ち、成長できる環境を整えることで、患者さんに寄り添う医療の実現を目指しています。職員満足度の向上は、健全な経営の礎であり、地域に求められる病院への指針でもあると考えています。

一方、日本は超高齢社会という歴史的な課題に直面しています。2040年には国民の約35%が65歳以上になるとされ、労働力不足や社会保障の持続可能性が喫緊の課題です。更に、国際情勢の不安定化やエネルギー・物価高騰などの外部環境も、医療提供に大きな影響を及ぼしています。このような不確実な時代において、変化を恐れず、新たな挑戦を続けることが重要です。

我々医療人には、働き方改革や医療DXの推進、そして地域に根差した持続可能な医療体制の構築が求められています。これからも新たな時代の変化に対応し、全職員が一丸となり、一歩ずつ前進し、地域社会の未来を支える病院であり続けるために努力してまいります。

この年報がその一助になれば幸いです。

令和6年7月

発刊によせて

社会医療法人全仁会 倉敷平成病院 院長

高尾 芳樹



まずは、令和5年度の年報を発刊できることに御礼申し上げます。

ここで令和5年度（2023年度）全仁会の出来事を振り返ってみたいと思います。

令和5年（2023年）

- 4月：新任医師1名（リハビリテーション科1名）を含む49名が入職
看護師募集サイトリニューアル
- 5月：新型コロナウイルス5類移行に伴い入院患者さんへの面会制限緩和
回復期リハビリ病棟で園芸療法開始
- 6月：地域医療連携センター 部屋拡張・ケアサポート科 サービス棟4階へ移転
- 7月：第50回倉敷天領祭り「OH！代官ばやし踊り」参加
- 8月：新任医師（婦人科1名、整形外科1名）入職
- 9月：第33回看護セミナー「医療者のメンタルヘルスケア～人生100年時代を担うために～」開催
- 10月：第35回消火技術訓練大会 男子チーム3位入賞
第36回神経セミナー「ここまで進んだ！神経疾患の最新治療」開催
- 11月：第58回のぞみの会「元気で人生100年時代の地域医療～全仁会の継続ケア～」規模を縮小して5年ぶりに病院開催（参加人数限定200名）
第30回全仁会研究発表大会「全仁会の未来のために～今私たちにできるSDGs～」ハイブリッド開催
新任医師（脳神経外科1名）入職

令和6年（2024年）

- 1月：新任医師（脳ドックセンター 1名）入職
医学雑誌 電子書籍へ移行

昨年は、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したことに伴い、それまで中止していたイベントを再開したり、オンライン形式から対面形式に戻して開催したりするなど、感染対策に留意しながらも直接患者さんや地域の方々と触れ合う機会が増え、全仁会グループ全体に活気が戻った一年となりました。また、多くの新任医師の入職や、医学雑誌の電子書籍化を進めるなど、大きく前進した一年でもありました。

今年も多くの新任医師を迎え、すでに外来診療や手術などでその手腕を存分に発揮していただいています。

これからも、「救急から在宅まで何時いかなる時でも対応します」という理念のもと、地域の医療・介護を支える一端を担うべく、全仁会グループ一丸となって努めてまいります。

令和6年7月

救急から在宅まで 何時いかなる時でも対応します

—— 限らない QOL を求めて ——

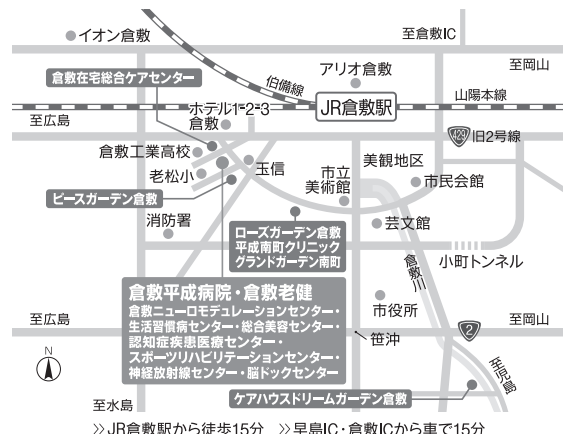
クオリティ オブ ライフ
Quality of Life 人生の充実

- 臨床・教育・研究分野で患者本位の国際的水準の病院を目指します
- 急性期から在宅医療まで質の高い効率的な継続的医療を目指します
- 生活習慣病予防を基礎に予防医学を確立します
- 患者本位四原則のもとに質の高いチーム医療を目指します
- 患者さまの安全に配慮し、尊厳を尊重し、患者本位の原則を守り、患者さまに選ばれる病院を目指します

患者本位四原則

- 患者さまのニーズを第一に最短でよくなる**正しい目標**を設定し、全人的に対応し、科学的根拠のある医療を行う
- 治療効果を上げるため**正しい配置**につき、統合された質の高いチーム医療による患者本位の最善の医療を追求する
- 共に学び合う仲間を作り切磋琢磨し、全仁会医療人として個々のレベルを向上させ、**正しい機能**を発揮する
- 日々研鑽を惜しまず、わかりやすい、やさしい医療サービスを提供し、患者さまから**正しい評価**を受ける

全仁会グループ概要



全仁会グループ

社会医療法人 全仁会 社会福祉法人 全仁会 有限会社 医療福祉研究所ヘイセイ

倉敷平成病院

内科・脳神経内科・脳神経外科・脳卒中内科・整形外科・消化器科・循環器科・呼吸器科・耳鼻咽喉科・形成外科・皮膚科・眼科・総合診療科・リハビリテーション科・放射線科・麻酔科・和漢診療科・歯科

倉敷ニューロモデュレーションセンター

脳神経外科（DBS：脳深部刺激療法・SCS：脊髄刺激療法）

倉敷生活習慣病センター

糖尿病・代謝内科

総合美容センター

美容外科・形成外科・婦人科・乳腺甲状腺科

認知症疾患医療センター

スポーツリハビリテーションセンター

神経放射線センター

平成脳ドックセンター

岡山県倉敷市老松町 4-3-38 〒710-0826 TEL 086-427-1111 FAX 086-427-8001

倉敷老健

岡山県倉敷市老松町 4-3-38 〒710-0826 TEL 086-427-1111 FAX 086-427-1196

倉敷在宅総合ケアセンター

- ・訪問看護ステーション
- ・ホームヘルプステーション
- ・ショートステイ
- ・通所リハビリ
- ・予防リハビリ
- ・ケアプラン室
- ・高齢者支援センター
- ・ヘイセイ鍼灸治療院

岡山県倉敷市老松町 4-4-7 〒710-0826 TEL 086-427-0110 FAX 086-427-8002

複合型介護施設 ピースガーデン倉敷

- ・地域密着型特別養護老人ホーム
- ・ショートステイ
- ・グループホーム
- ・デイサービス

岡山県倉敷市白楽町 40 〒710-0824 TEL 086-423-2000 FAX 086-423-0990

平成南町クリニック

岡山県倉敷市南町 4-38 〒710-0823 TEL 086-434-1122 FAX 086-434-1010

住宅型有料老人ホーム ローズガーデン倉敷

岡山県倉敷市南町 4-38 〒710-0823 TEL 086-435-2111 FAX 086-435-2118

サービス付き高齢者向け住宅 グランドガーデン南町

- ・特定施設入居者生活介護
- ・ヘルプステーション南町
- ・南町ケアプラン室

岡山県倉敷市南町 1-12 〒710-0823 TEL 086-435-2234 FAX 086-435-2224

ケアハウス ドリームガーデン倉敷

- ・ヘルプステーション

岡山県倉敷市八軒屋 275 〒710-0037 TEL 086-430-1111 FAX 086-430-1195

URL : <http://www.heisei.or.jp/> E-mail : heisei@heisei.or.jp

目 次

発刊によせて	2
全仁会グループの理念	4
全仁会グループ概要	5
目次	6
業績目録 第19巻 令和5（2023）年度	7
学会発表 一覧	8
学会発表 抄録	10
学会・研修会等参加	21
誌上発表 一覧	31
誌上発表 抄録	32
全仁会研究発表大会	34
外部講演	35
座長・挨拶	38
講演主催	39
講演共催	40
勉強会（職員向け）	41
勉強会・公開講座・健康教室（一般向け）	43
スポーツメディカルサポート	45
外部受け入れ実習	48
購入図書	50
職員旅行	52
部活動	53
委員会・会議 活動報告	55
数字で見る全仁会（全仁会実績）	71
倉敷平成病院 常勤医師	99
全仁会グループ 組織図	104
編集後記	106

業績目録 第19巻

令和5(2023)年度

学会発表 一覧 ●

学会発表 抄録

学会・研修会等参加 ●

誌上発表 一覧 ●

誌上発表 抄録

全仁会研究発表大会 ●

外部講演 ●

座長・挨拶 ●

講演主催 ●

講演共催 ●

勉強会(職員向け) ●

勉強会・公開講座・健康教室(一般向け) ●

スポーツメディカルサポート ●

外部受け入れ実習 ●

購入図書 ●

職員旅行 ●

部活動 ●



学会発表 一覧

番号は抄録のあるもの

年 月 日	演 題	発 表 者	学 会	場 所
2023. 4.28～29	Long-term follow-up of 12 patients treated with bilateral pallidal stimulation for tardive dystonia	Mure H・Mtigaki R・Miyamoto R・Miyake K・Matsuda Y・Koyama H・Takagi Y.	AASSFN 2023	大阪府立国際会議場（グランキューブ大阪）
2023. 5.11～14	歩行の運動学的特徴から口コモティブシンドロームの重症度を判別するモデルの作成	山崎 諒・井上 優 鄭 勳九・田中 亮 生田 祥也・安達 伸生	第96回日本整形外科学会学術総会	パシフィコ横浜
2023. 5.31 ～ 6. 3	ジストニアに対する定位脳手術ー最近の進歩とこれからの課題ー ①	牟礼 英生	第64回日本神経学会学術大会	幕張メッセ
2023. 6.16～18	超強化型老健から入院に至った症例の検討 ②	渡辺 明良・檀上 香 佐々木嘉信・阿部 俊衣 江口 美樹・武森三枝子 大浜 栄作	第65回日本老年医学会学術集会	パシフィコ横浜 ノース・アネックス
2023. 7.21～22	脊髄刺激療法（SCS）アボット社の特徴とハンズオン	牟礼 英生	第13回日本低侵襲・内視鏡脊髄神経外科学会	大阪大学コンベンションセンター
2023. 7.21～23	脳深部刺激療法と脊髄刺激療法を併用した患者に対するCEの関わり ③	高須賀功喜・樽井 慎 畠中 雅崇・牟礼 英生	第33回日本臨床工学会	JMSアステールプラザ
2023. 7.30 ～ 8. 3	Relationship between gait kinematics and fall risk in patients with Parkinson's disease	Yamasaki R・Inoue Y・Toda H.	XXIX Congress of International / Japanese Society of Biomechanics	福岡国際会議場
2023. 8. 6	運動器疾患における摂食嚥下障害の要因 ④	平垣義志也・大根 祐子	第54回日本リハビリテーション医学会中国・四国地方会	米子コンベンションセンター
2023. 9. 1～2	老健入所者のスキフレイルチェックリスト結果と関係する因子の検討 ⑤	小野 詠子・大浜 栄作 小田 真澄	第25回日本褥瘡学会学術集会	神戸コンベンションセンター
2023. 9. 2～3	発達障害のある学生に対する合理的配慮に基づいた臨床実習指導の経験	山下 昌彦	第36回中国ブロック理学療法士学会	コジマホール ディンクス西区 民文化センター
	歩行・バランス機能評価におけるパーキンソン病重症度別の最小可検変化量	山崎 諒・井上 優		
2023. 9.15～17	記憶障害からBPSDが出現している入院患者へのアプローチーメモリーノートを用いての統一対応ー ⑥	森永ゆりこ・吉川 由起 涌谷 陽介	第12回日本認知症予防学会学術集会	朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
	病棟配置薬の整備による入院患者への睡眠薬適正使用の取り組み ⑦	市川 大介・本田 尚也 古谷 佳美・涌谷 陽介		
	認知症予防における頭痛患者へのアロマテラピー ⑧	上野 節子・菱川 望 涌谷 陽介・松本菜見子 林 紗織・高尾 芳樹		
	運転免許を返納するときの患者の心情に関する考察ー具体的事例を通してー ⑨	涌谷 陽介		
2023. 9.24	岡山県における失語症者向け意思疎通支援者派遣事業の取り組み ⑩	尾高 幸司・平垣義志也 中川 裕登・岡川 真歩 藤本 憲正・中村 光 高山みさき・森元 隆行 高木 由季	第7回岡山県地域包括ケアシステム学会学術大会	川崎医療福祉大学
	在宅復帰を円滑に行うための関係職種との連携 ⑪	瀬崎 匡平・三宅 恵里 浅沼 良美・尾高 幸司		
	コロナ禍で感染を恐れ、サービス利用を自粛する高齢者のADL、QOLを維持するための支援について ⑫	藤田 直人・寺中 亜耶 西園恵美子・萬木 貴子 岩佐 暁子		
	新型コロナウイルス感染拡大が通所利用者に及ぼした影響 ⑬	白神 侑祐・大榮 勇貴		

年 月 日	演 題	発 表 者	学 会	場 所
2023. 9.24	利用者主体のデイサービスへ ～モンテッソーリケアを取り入れて～ ⑭	門屋 明秀・山室 摩美 妹尾 祐介・池口 紀子	第7回岡山県地域包括 ケアシステム学会学術 大会	川崎医療福祉大 学
2023.10.13～14	一般内科疾患に伴う認知機能障害 ～症例を中心に～ ⑮	涌谷 陽介	第38回日本老年精神 医学会	日本教育会館
2023.10.28～29	パーキンソン病に対するadaptive DBSへのコ ンタクトスクリーニングの意義について ⑯	樽井 慎・高須賀功喜 畠中 雅崇・牟礼 英生 新免 利郎・山崎 諒	第13回中四国臨床工 学会	米子 コンベン ションセンター
2023.10.28～29	当院理学療法士の脳卒中患者に対する装具作成に 関する実態と対策	隠明寺悠介・江口 健 山下 昌彦・津田陽一郎 大根 祐子	第39回日本義肢装具 学会学術大会	岡山 コンベン ションセンター 岡山県医師会館
2023.11. 3～ 5	岡山県内医療機関の『感染制御・抗菌薬適正使用』 の取組みに関する調査結果 ⑰	市川 大介・石井 澄雄 川端 崇義・明田 徹 森 一徳・山崎 恵 森谷 康志・西本 美淑 森 英樹	第33回日本医療薬学 会年会	仙 台 国 際 セ ン ター
	骨粗鬆症治療薬適正使用のための薬剤師による介 入の評価 ⑱	守田 香織・市川 大介 古谷 佳美・本田 尚也 三原 夏美・高田 逸朗 平川 宏之・松尾 真二		
2023.11.10～12	Center for Epidemiologic Studies Depression Scaleのスマートフォン版と紙版 のスコアの違い ー同等性の証拠ー ⑲	打田 博行・平尾 一樹	第57回日本作業療法 学会	沖 縄 コンベン ションセンター
	医療従事者の作業機能障害と離職意向、ワークエン ゲージメント、および関連要因に関する横断研究 A cross-sectional study of occupational dysfunction and turnover intentions, work engagement and related factors among healthcare workers ⑳	長井健太郎・寺岡 睦 京極 誠		
2023.11.23～25	脳血管内治療医と育児の両立を目指す医師として	山岡 陽子	第39回日本脳神経血 管内治療学会学術集会	国立京都国際会 館
2023.12. 2	Infra-optic course of ACAに破裂前交通動脈瘤 を合併した症例	重松 秀明・篠山 英道 牟礼 英生・高尾聡一郎	第96回日本脳神経外 科学会中国四国支部学 術集会	徳島大学
2023.12.23	頭蓋内内頸動脈狭窄を伴う一過性の腹壁の不随意 運動の一例	松本菜見子	第114回日本神経学 会中国・四国地方会	松山市 総合コ ミュニティセン ター
2024. 2. 2～ 3	Adaptive DBSの有用性について ー Percept PC植込み1年後26例での検討ー ㉑	牟礼 英生・樽井 慎 新免 利郎・高須賀功喜 山崎 諒・田辺美紀子 重松 秀明・高尾聡一郎	第63回日本定位・機 能神経外科学会	ニューオータニ イン札幌
	難治性疼痛患者における歩行時疼痛と歩行速度へ のSubperception SCSの効果比較	新免 利郎・牟礼 英生 高須賀功喜・樽井 慎 山下 昌彦・河上 一秀 田辺美紀子・津田陽一郎		
	脊椎刺激療法トライアルにおけるsubperception 刺激の比較検討 ㉒	高須賀功喜・牟礼 英生 樽井 慎・畠中 雅崇 新免 利郎		
	パーキンソン病における視床下核刺激術後にコン タクトスクリーニングとGuide™XTを用いたプ ログラムの比較検討 ㉓	樽井 慎・牟礼 英生 高須賀功喜・畠中 雅崇 新免 利郎・田辺美紀子		
2024. 3.30	STNとGPIを同時刺激したPD症例のLFP変化	牟礼 英生・樽井 慎 高須賀功喜・新免 利郎 山崎 諒・畠中 雅崇 田辺美紀子	第6回中四国機能外科 懇話会	下関海峡メッセ

学会発表 抄録

①ジストニアに対する定位脳手術

ー最近の進歩とこれからの課題ー

倉敷平成病院 倉敷ニューロモデュレーションセンター¹⁾

倉敷平成病院 脳神経外科²⁾

牟礼 英生^{1, 2)}

ジストニアに対する外科治療として主に脳深部刺激療法 (deep brain stimulation: DBS) と定位的脳凝固術が行われている。不随意運動症全般の病態生理として、運動制御に関わる大脳基底核、小脳、視床、感覚運動皮質を含むネットワーク異常が基盤にあり、ネットワーク内で疾患特異的な異常同期活動が存在するというネットワークモデルが有力となっている。パーキンソン病ではネットワーク内の β 帯域local field potential (LFP) 異常同期が固縮・寡動と相関することはよく知られているが、ジストニアでも淡蒼球内で θ 帯域LFPの過活動があり症状関連性が報告されている。これらの異常同期活動を遮断し運動ネットワークをモジュレーションすることがDBSまたは破壊術の治療機序と考えられている。ジストニア全般で最も多く選択されるDBSターゲットは淡蒼球内節 (GPi) であり、GPi-DBSの全身性ジストニア、頸部ジストニアに対する有用性は複数のランダム化比較試験によって実証されている。近年、視床下核 (STN) がGPiの代替ターゲットとなり得る可能性が指摘されているが高いエビデンスレベルの報告はなく今後の検討が必要である。また、近年登場した閉回路DBS (closed-loop DBS) は脳深部電極でLFPを測定し刺激装置でLFPを解析して脳刺激へフィードバックする刺激方法でありジストニアへの応用にも期待が寄せられている。凝固術に関しては、書座に対する視床腹吻側 (Vo) 核凝固術の妥当性は症例報告の蓄積と臨床現場の経験からほぼ確立されている。また淡蒼球内節から視床への投射線維が集束する淡蒼球視床路 (Forel's H1野) の凝固が頸部ジストニアに対して有効とされる報告が増加しており注目されている。凝固術ではプラセボ群との比較試験が困難であるためエビデンスレベルの高い研究はないが、近年の高解像度MRIによるターゲティング精度向上や、DBSのデメリット (デバイス感染等)、MRIガイド下集束超音波療法の登場等によって凝固術が再評価されている。ジストニアに対する外科治療はエビデンスの乏しい分野であるが、外科治療の実例を提示し有効性と今後の課題について考察する。

②超強化型老健から入院に至った症例の検討

倉敷老健

渡辺 明良、檀上 香、佐々木 嘉信、阿部 俊衣、
江口 美樹、武森 三枝子、大浜 栄作

【目的】超強化型老健として、在宅復帰率 (在宅率) を高く

維持していくことが求められるが、入所者の入院は在宅率を低下させる要因の一つである。今回、我々は在宅率向上のための一環として当老健から入院に至った症例を検討した。

【方法】2022年4月1日から9月30日までの6ヶ月間に退所した症例を対象として後ろ向きに検討した。入院に影響すると考えられる要因として、入所時介護度、紹介元、胃瘻・経管栄養の有無に注目し、退所先として入院をA群、居宅・グループホームをB群、特養・ショートステイをC群、死亡をD群として比較検討した。また、入院時病名についても検討した。優位差検定は、介護度による影響はマン・ホイットニ検定を、各群間の比較はFisher's exact testを使用した。

【結果】対象はのべ115例 (3例は各々2回入院) で、性別と年齢はそれぞれ男性39例・平均84.1歳、女性76例・平均86.9歳であった。入院はのべ32例であった。介護度の中央値に関しては、A群=3.81はB群=2.96に対して優位に高く、入所時介護度が高いものほど入院する可能性が高かった。また、B群に比べてC群=3.89、D群=4.07もそれぞれ優位差をもって高かった。死亡14例を除く101例に関して、病院からの紹介60例中25例が入院したのに対して、施設・居宅などからの入所41例中入院したのは7例のみで、病院からの入所者の入院の割合が優位に高かった。胃瘻・経管栄養の7例中5例が入院し、経口摂取の94例中27例が入院しており、胃瘻・経管栄養症例の入院の割合が優位に高かった。死亡した14例は全例病院からの入所者であった。入院時の病名は、重症誤嚥性肺炎が8例、重症尿路感染症 (腎盂腎炎・敗血症) が5例で、この両者が入院の4割を占めていた。その他COVID-19感染症が3例、脳梗塞、骨折、手術創感染がそれぞれ2例、その他10例であった。

【結論】入所時介護度、病院からの入所、胃瘻・経管栄養の有無が入院に関係しており、重症例によっては早期に看取りを考慮しておく必要があるだろう。主な入院時病名は誤嚥性肺炎と尿路感染症であり、口腔ケア、陰部の清潔保持も重要と考えられた。

③脳深部刺激療法と脊髄刺激療法を併用した患者に対するCEの関わり

倉敷平成病院 臨床工学科¹⁾

倉敷平成病院 倉敷ニューロモデュレーションセンター²⁾

倉敷平成病院 脳神経外科³⁾

高須賀 功喜^{1, 2)}、樽井 慎^{1, 2)}、畠中 雅崇^{1, 2)}、牟礼 英生^{2, 3)}

【はじめに】脳深部刺激療法 (Deep Brain Stimulation: DBS) は主にパーキンソン病の外科治療であり、脊髄刺激療法 (Spinal Cord Stimulation: SCS) は神経障害性疼

痛の治療として実施される。今回、DBSとSCSを併用した患者に対し、臨床工学技士（Clinical Engineer: CE）が携わった経験を報告する。

【症例と方法】 72歳男性。2004年に動作緩慢、歩行障害が出現し、パーキンソン病と診断され、2012年にDBSを実施した。さらに腰痛による可動や歩行障害が増悪し、2013年にSCSを実施したが、充電忘れでSCS治療を止めていた。当院では2019年にDBS電池交換および2021年にSCS再手術を行い、入院や外来にて経過観察している。CEの役割は1) DBS・SCS手術支援、2) 医師の指示の下DBS・SCS刺激調整、3) 患者や家族への治療機器操作説明、4) 外来時のデバイスチェックおよび刺激調整、5) 他施設に対する情報提供である。SCSの除痛評価は痛み評価スケール（Numerical Rating Scale: NRS）を用いた。

【結果】 DBS電池交換ではCEが外回りにてデバイス管理を行った。SCS手術は医師とCEで適切な電極留置位置を決定した。術後は医師の指示の下、CEが刺激調整を行った。患者は充電式SCSを希望し、術後よりCEが患者や家族に対して充電指導した。SCS再手術でのNRSはPre/1M/6M/1Yで9/4/5/5であり、SCSにおける長期的な除痛効果となった。外来はCEが刺激条件や充電状況を確認しカルテに記載した。患者や家族からデバイス管理方法について回答した。患者が他施設にて手術を行うことになり、CEが他施設のCEに対して情報提供を行った。

【考察】 DBSやSCSは体内植込み型治療であるため継続的なデバイス管理およびトラブル対応が必要である。パーキンソン病は多職種連携を実施することで患者のQOLを高める。CEが積極的にかわることで医師をはじめ多職種の負担を大きく減らすことができ、安全な治療を提供することが可能である。DBSやSCSは治療方法やデバイス管理が変わるため、患者の症状を適切に把握する必要がある。

【結語】 DBSやSCSはCEが積極的に関与することが重要である。今後もDBSとSCSにおいて安全な治療を提供していきたい。

④運動器疾患における摂食嚥下障害の要因

倉敷平成病院 言語聴覚科¹⁾

倉敷平成病院 リハビリテーション科²⁾

平垣 義志也¹⁾、大根 祐子²⁾

【はじめに】 近年、運動器疾患治療後の摂食機能療法が増えている。運動器疾患手術前後と誤嚥性肺炎の関係については中枢神経疾患、精神疾患の既往、低栄養などが危険因子としているが¹⁻³⁾、摂食嚥下障害との関連を調べた研究はとても少ない。そこで今回、運動器疾患術後に摂食嚥下障害を認めた症例を後方視的に調査し、要因を検討した。

【対象と方法】

1. 2013年1月から2018年12月までの間に当院へ入院となった運動器疾患患者のうち、摂食嚥下障害を認め、摂食機能療法が開始となった群（障害群）23名、摂食嚥下障害を認めなかった群（なし群）20名の合計43名を後方視的に調査した。
2. 1) 基本情報として年齢、性別、既往歴、居住環境、家族構成、栄養的側面としてBody Mass Index (BMI)、アルブミン (Alb)、認知・身体機能的側面としてMini Mental State Examination-Japanese (MMSE-J) とThe Functional Independence Measure (FIM)、嚥下機能的側面として、藤島式嚥下グレード（藤島Gr.）を調査し、各項目の得点における2群の影響をt検定を用いて分析した。なおすべての調査項目は摂食機能療法開始時の値とした。さらにMMSE-JはFolsteinら（1975）に従い5領域4区分（見当識、注意、記憶、言語・認知）に分けた。
- 2) 2群間の摂食嚥下機能と調査項目との関連について相関係数を用い分析した。
- 3) 摂食機能療法の有無に加え、中枢神経疾患の既往の有無、居住環境（在宅かそれ以外）に分け、各群との組み合わせについてカイ二乗検定を用いて分析した。統計処理はSPSS Statistics 17.0を使用し、有意水準はいずれも5%未満とした。

【結果】

1. 栄養的側面は、障害群はBMIで低値であった ($p < 0.05$)。認知・身体機能的側面は、障害群はMMSE-Jの見当識と言語・認知項目で低値 ($p < 0.05$) で、FIMの認知項目が低値 ($p < 0.05$) であった。さらに、MMSE-J下位項目は、日時・場所・図形の各得点で低値であった ($p < 0.05$)。嚥下機能的側面は、藤島Gr.は障害群で低値であった ($p < 0.01$)。
2. 全運動器疾患患者の摂食嚥下機能は、FIM認知 ($r = 0.36$)、MMSE-J言語・認知項目 ($r = 0.35$) と有意な正の相関を認めた ($p < 0.05$)。
3. 障害群は中枢神経疾患の既往歴が多かった ($p < 0.05$)。また、障害群は施設からの入院が多い結果であった ($p < 0.05$)。

【考察】 運動器疾患患者で摂食嚥下障害を認める群は、BMIが低く、MMSE-JとFIMから見当識と言語・認知領域が低値であった。藤島Gr.も低値であった。これらから、摂食嚥下障害を認めなかった群と比べて、嚥下状態は低下しており、その背景要因は筋力低下（発語器官含む）と認知機能の低下すなわち先行期障害を考えた。認知機能に関しては、全運動器疾患患者の相関係数の結果も言語・認知領域と関係していたことから同様のことがいえる。MMSE-Jの下位項目の分析から、日時や場所を問うエピソード記憶や図形を書く視空間認知に関する項目に差を認めた。これは、

摂食嚥下障害における先行期の問題が強く、危険が伴う場面や場所を記憶し回避する行動や対象障害物に対する認知欠如を示唆し、転倒リスクも高い状態であったと考えた。摂食嚥下障害を認める群は中枢神経疾患の既往歴が多く、施設入所者が多かった。これらは、在宅では介護することが難しい程度の運動および認知機能低下の状態が多かったと考え、摂食嚥下障害や転倒をきたしやすい状態であった可能性が高い。

以上のことから、運動器疾患患者で摂食嚥下障害を認める場合は、運動器疾患治療後の摂食嚥下障害の出現というよりもむしろ徐々に筋力低下、認知機能低下によって転倒の危険性と摂食嚥下障害が増悪していた可能性を考えた。

【まとめ】 先行研究や今回の結果からも運動器疾患患者は主病名に対する治療に加えて、基礎疾患や生活歴など把握した上で摂食嚥下障害を早期に発見し、言語聴覚士が関わる仕組みが必要かもしれない。今後は、症例数を増やし運動器疾患における摂食嚥下障害と中枢神経疾患の種類や認知機能重症度等との関連を明らかにしていく必要がある。

【参考文献】

- 1) 目谷浩通ほか：大腿骨近位部骨折の手術前後における肺炎発症の危険因子, Jpn J Compr Rehabil Sci, 6: 1-6, 2015.
- 2) 田積匡平ほか：急性期に誤嚥性肺炎を合併した大腿骨近位部骨折患者の臨床的特徴と帰結, 保健医療学雑誌, 8 (2): 96-103, 2017.
- 3) Suseki, Kaoru, et al.: Lower SMI is a risk factor for dysphagia in Japanese hospitalized patients with osteoporotic vertebral and hip fracture: A retrospective study, Osteoporosis and Sarcopenia, 8: 152-157, 2022.

⑤老健入所者のスキNFLレイルチェックリスト結果と関係する因子の検討

倉敷平成病院 栄養科¹⁾

倉敷老健²⁾

小野 詠子¹⁾、大浜 栄作²⁾、小田 真澄²⁾

【はじめに】 高齢者の皮膚は加齢に伴い脆弱化し、容易にスキNFLテアを起こしやすい。老健入所者の栄養管理を行う上で、食事や水分摂取量だけでなく皮膚の状態を把握しておくことも必要である。スキNFLテアを防ぐために皮膚の脆弱化に影響を与える因子を把握する目的で、スキNFLレイルチェックリスト（以下：SFC）と皮膚水分量の測定により皮膚の評価を行い、その他の要因との関連について調査した。

【方法】 老健入所者122名（男性34名、女性88名、平均年齢85.9±9.2歳）にSFCを行い、上腕、下肢に

ついて皮膚水分量、油分、弾力を測定した。BMI、採血結果（Alb、Hb、eGFR、TG、T-Cho、LDL、HDL）、摂取栄養量、摂取水分量、利尿剤の有無、既往歴について調査し、その関連について検討した。

【結果】 SFCでのはりの低下1点以上は93名（76.2%）、乾燥3点以上は24名（19.6%）だった。乾燥肌は66名（54%）で、やはり老健入所者はスキNFLテアリスクが高いと言える。SFC点は年齢、食事形態の低下と比例した。はり低下点は摂取栄養量、摂取水分量、BMIが大きいと低い傾向にあった。乾燥点と皮膚水分量には相関がみられなかった。採血結果とは関連が見られなかった。

【考察】 SFCは簡便に皮膚の状態を確認できるツールであった。入所時にチェックしスキNFLテアリスクを把握すること、日々のケアの中での皮膚の変化を早期に発見し積極的に対処することができれば、入所者のスキNFLテアを防ぐことができると考える。また、スキNFLレイルは全身のフレイルと関係が深いと言われている。体重減少を食い止めるため食事水分量が減らないことが必須である。今後InBody等での体組成の評価も行っていきたい。

⑥記憶障害からBPSDが出現している入院患者へのアプローチ

—メモリーノートを用いての統一的对応—

倉敷平成病院 リハビリテーション部 公認心理師¹⁾

倉敷平成病院 脳神経内科・認知症疾患医療センター²⁾

森永 ゆりこ¹⁾、吉川 由起¹⁾、涌谷 陽介²⁾

【目的】 記憶障害に起因する興奮や徘徊などの行動心理症状（BPSD）の出現により、入院生活が困難となる事例は多い。本研究では、メモリーノートを用いて記憶障害にアプローチし、BPSDが落ち着いた一事例について報告する。

【方法】 本事例の患者は、左大腿骨骨折で入院した93歳男性。入院後の認知機能検査ではMMSE-J20点、HDS-R16点、FAB17点であった。見当識や記憶力の低下から入院経緯が分からず、帰宅願望を訴えたり目的なく歩いたりする様子がみられていた。落ち着いて入院生活を送れるように、内服調整と併せ心理師の介入が開始された。口頭での説明では記憶の持続が難しく、視覚的な手段を用いて伝達することが有効であった。ご家族と相談し、入院経緯を記した漫画にて繰り返し状況整理を行った。主治医より記憶の代用手段としてメモリーノート作成の提案を受け、担当リハビリと相談を行った。メモリーノートには、部屋の場合や歩行時に使用する歩行器などの写真を貼付け、その都度本人と一緒に確認した。評価尺度はNeuropsychiatric Inventory (NPI) を用い病棟看護師に聴取した。

【結果】 NPIは初回6点、2回目7点と点数上著変はなく、夕

方から夜間にかけての帰宅願望や興奮自体はあるものの、日中は落ち着いて過ごせる時間が増えた。メモリーノートベッドサイドに置くことで、一人の時間でも見返したり、メモリーノートを持ってわからないことを詰所まで確認しに來たりしていた。

【考察】本事例は記憶障害による状況理解の低下から、BPSDに繋がっていると考えられた。記憶の代用手段としてメモリーノートを活用することで、状況整理を促しBPSD軽減に繋げることができた。心理師から他スタッフへ発信を行い、チームとして統一に対応を行ったことも、本人が安心できる環境づくりに寄与できたと考えられる。

【倫理的配慮】本発表を行うにあたり、患者本人のプライバシー保護に配慮し、入院時に書面にてご家族に同意を得た。

⑦病棟配置薬の整備による入院患者への睡眠薬適正使用の取り組み

倉敷平成病院 薬剤部¹⁾

倉敷平成病院 脳神経内科²⁾

市川 大介¹⁾、本田 尚也¹⁾、古谷 佳美¹⁾、涌谷 陽介²⁾

【目的】ベンゾジアゼピン受容体作動薬には、ふらつきや転倒、物事の判断や記憶といった認知機能の低下がみられる副作用があることから、オレキシン受容体拮抗薬やメラトニン受容体作動薬などの睡眠薬が推奨されている。入院中に睡眠障害を訴えた患者には、医師の指示に基づいて病棟配置している睡眠薬が使用されることが多く、睡眠薬使用適正化を推進するためには病棟配置薬の工夫が必要と考えられる。認知症せん妄サポートチームと協働して行った夜間せん妄や睡眠障害へのベンゾジアゼピン受容体作動薬の使用を減らす取り組みを評価することを目的として、睡眠薬の使用状況について調査した。

【方法】2022年12月に当院に入院した患者150人の持参薬について、睡眠薬持参の有無とその種類を調査した。また、2022年12月の1か月間で、入院中の睡眠障害に対して使用された病棟配置薬について、睡眠薬の種類などを後ろ向きに分析した。

【結果】入院患者150人の持参薬について調べた結果、47人(31.3%)が睡眠薬を常用していた。また、睡眠薬を常用していない患者103人のうち25人(24.3%)が、入院中に睡眠障害を訴えて睡眠薬が使用されていた。睡眠薬を常用していない患者に使用された睡眠薬の内訳は、エスゾピクロン63件、スボレキサント42件、レンボレキサント30件、トラゾドン5件、ラメルテオン5件であり、それ以外の睡眠薬は使用されなかった。

【考察】入院による環境変化や手術等による侵襲的ストレス

などが考えられるが、睡眠薬を常用していない患者の約4分の1が入院中に睡眠障害を発症していた。認知症せん妄サポートチームと協働で病棟配置薬の適正化を進めたことや、緊急指示マスタを整備したことにより、睡眠障害に対して使用される睡眠薬の適正化が推進されたことが示唆された。

【倫理的配慮】人を対象とする医学系研究に関する倫理指針などの新しく改訂された倫理指針に抵触しません。

⑧認知症予防における頭痛患者へのアロマセラピー

倉敷平成病院 秘書・広報部 秘書課¹⁾

倉敷平成病院 脳神経内科²⁾

上野 節子¹⁾、菱川 望²⁾、涌谷 陽介²⁾、松本 菜見子²⁾、林 紗織²⁾、高尾 芳樹²⁾

【目的】認知症予防の観点から、慢性頭痛治療の重要性が指摘されている。

【方法】女性頭痛患者に対するアロマセラピーの臨床的効果について、オープンラベル・クロスオーバー法を行った。対象は、片頭痛患者24例で2例は緊張型頭痛を伴っていた。平均年齢は38.3±12.9歳だった。アロマセラピーに用いる精油は、ラベンダーかゼラニウムを自由選択させた。

【結果】アロマセラピーは月平均頭痛回数を減らす傾向を示し、急性期頭痛治療薬の使用率を4.4%減らし、仕事・家事に影響を与えた人数を減らした。月経関連期間における頭痛も日数・回数・程度ともに軽減傾向を示し、睡眠では入眠時間を約5分間短縮するなど不眠スコアの軽減も見られた。

【結論】本研究により、アロマセラピーは慢性頭痛の非薬物療法として有効である可能性が示唆された。したがって、アロマセラピーは認知症予防にも有効である可能性が示唆された。

【倫理的配慮】本研究は研究対象者を特定できる情報を含まないようにし、研究目的以外に得られた研究対象者の試料等を使用しない。

⑨運転免許を返納するときの患者の心情に関する考察 —具体的事例を通して—

倉敷平成病院 脳神経内科・認知症疾患医療センター

涌谷 陽介

【目的】当センターは、運転中断・免許返納に関するアンケート調査を行い本学会等でも報告した。運転中止時の心理状態として、今後の生活に不安はあるものの新しい生活を前

向きに捉える回答が多かった。一方、苦痛、焦燥、喪失感といった情動反応を表す回答も1割程度あった。今回、運転中断に際し、著明な陰性の情動反応を呈した事例を通して、その背景や本人・家族・医師の対話のあり方について考察した。

【事例】80代後半男性。1年ほど前からもの忘れや被害妄想的発言あり。人身事故を起こしたが事故の記憶が曖昧で、運転中断に関して納得する発言をしたり激昂したりする行動を繰り返し、当センター受診に至った。50代に脊髄損傷で左足が不自由。受診時のMMSE 24/30、HDSR 22/30、FAB 15/18、NPI 60（妄想、興奮、うつ、不安、脱抑制、易刺激性）、CDR0.5。頭部MRIでは、海馬領域を含む側頭葉内側の右優位の萎縮あり。検査・診察場面では、当初礼節は保たれていた。事故の記憶は曖昧で自身の過失は否定。運転中断の説明に及ぶと「運転できないなら自分で命を断ちます」と興奮したり、「気をつけますから運転させてください」と泣いたりを繰り返した。2週間後の再診とした。しかし、再診までの間、家族への攻撃的言動が顕著となり、精神科病院に入院となった。

【考察】認知機能障害の背景としては、臨床像や頭部MRI所見から嗜銀顆粒性認知症等の高齢者タウオパチーの可能性が高いと判断した。医師、看護師、心理士は、受診者の心情に配慮し共感的に対応したが、家族の強い要望や緊急性もあると判断し、初回診察時に家族と共に運転中止に踏み込んで説明を行ったが、患者の激しい情動反応を引き起こし、行動心理症状の悪化をみた。心理的な背景としては、左足が不自由な中で長年自動車運転がほぼ唯一の楽しみかつ役割であった。

【倫理的配慮】本報告にあたり、個人が特定されないようプライバシーに配慮を行った。

⑩岡山県における失語症者向け意思疎通支援者派遣事業の取り組み

岡山県言語聴覚士会・倉敷平成病院 言語聴覚士¹⁾
岡山県言語聴覚士会・倉敷平成病院²⁾
岡山県言語聴覚士会・岡山県立大学³⁾
岡山県言語聴覚士会・岡山リハビリテーション病院⁴⁾
岡山県言語聴覚士会・金田病院⁵⁾
岡山県言語聴覚士会・笠岡第一病院⁶⁾
尾高 幸司¹⁾、平垣 義志也²⁾、中川 裕登²⁾、
岡川 真歩²⁾、藤本 憲正²⁾、中村 光³⁾、高山 みさき⁴⁾、
森元 隆行⁵⁾、高木 由季⁶⁾

【目的】失語症は脳損傷により言語機能が低下し、日常生活や社会生活におけるコミュニケーションに支障を来す。その結果、病前に比して外出や社会参加の機会が減少するケースが多い。これらの問題を解消するため、岡山県では

2019年度より失語症者向け意思疎通支援者の養成事業を開始し、2021年度より失語症者向け意思疎通支援者派遣事業が開始となった。その活動について報告する。

【方法】2022年度の派遣事業に関する活動状況をまとめ、初年度の活動状況と比較。

【結果】2022年度の派遣実績は失語症サロンが81件、買い物同行支援が6件であった。失語症サロンでは失語症者に対して会話支援を中心に実施し、複数名の支援者を派遣した。買い物同行支援では、失語症者のスーパー等への買い物に同行し、会話の補助や案内を行った。

【考察】派遣数は81件と昨年度よりも68件増加した。その要因として、COVID-19による外出制限が緩和されたことや失語症サロンの定期開催が可能となったためと考えられる。今後も派遣事業を安定したサービスとして提供するためには、本事業の啓発活動や十分な意思疎通支援者を確保し、ニーズの高い失語症サロンでの意思疎通支援を提供できる体制を整えることが重要である。さらに意思疎通支援者が失語症のある人と会話を通じて買い物等のような外出同行支援への社会参加へ繋げることが当事業を発展させる上で重要であると考えられる。

⑪在宅復帰を円滑に行うための関係職種との連携

ヘイセイ訪問看護ステーション 理学療法士¹⁾
ヘイセイ訪問看護ステーション²⁾
瀬寄 匡平¹⁾、三宅 恵里²⁾、浅沼 良美²⁾、尾高 幸司²⁾

【目的】感染拡大に伴う面会制限中に退院や指導を経験した利用者や職員にアンケートを行い、退院前後での介護指導について知り、的確な支援に繋げることを目的とした。

【対象】R2年～4年に倉敷平成病院を退院し訪問看護を開始・再開した利用者28名。経験年数5年以上の病棟看護師52名、訪問看護職員25名。

【方法】R4年11月に退院時指導に関するアンケートを実施、分析結果を元に送り方や家族指導について検討した。発表に際して、対象者の同意を得ている。

【結果】利用者の25%が退院時指導を受けておらず、病棟看護師の約70%が指導回数や時間が減少したと回答。指導を受けた家族の68%は自宅でも同様に介助ができたと感じていたが、訪問看護職員の80%以上は初回訪問時に動作確認や指導、環境調整のため時間内に終了できていなかった。情報収集はサマリーや電子カルテなど書面からがほとんどであった。

【考察】退院後介護指導の内容をうまく実践できていなかった

たケースが多く、面会制限による家族への指導頻度や時間の減少、家族への理解度の確認が不十分となったことが要因と考えられる。また、書面での情報だけでは訪問看護職員が自宅環境や優先度の高い介護指導について事前に把握できず、初回の訪問時間の超過に繋がったと考えられる。的確な在宅支援を行うためには、利用者を取り巻く関連職種が相互に連絡を取り合い情報を補うことが重要であると考える。

⑫コロナ禍で感染を恐れ、サービス利用を自粛する高齢者のADL、QOLを維持するための支援について

南町ケアプラン室 居宅介護支援事業所 介護支援専門員¹⁾

老松中洲高齢者支援センター²⁾

倉敷在宅総合ケアセンター 居宅介護支援事業所³⁾

藤田 直人¹⁾、寺中 亜耶²⁾、西園 恵美子²⁾、萬木 貴子³⁾、岩佐 暁子³⁾

【目的】 コロナ禍ではサービス利用を自粛する高齢者が増え、心身の機能低下を来すリスクが危惧された。そこで利用再開に向けた有効な支援、介入方法の調査を行った。

【方法】 ①当法人ケアマネジャーに利用者のサービス休止に関するアンケートを実施。②研究協力の同意が得られた3名に1. Life-Space AssessmentとMMSE-Jによる評価を実施。本人からの聞き取りが困難な1名については介護負担感評価尺度Zaritを使用。2. 事業所の感染対策について説明を実施。3. 上記1. 2. の後に活動量の変化と再開の意向についての意識調査実施。

【結果】 ①非再開者9名、再開者30名。内訳は再開まで1～2ヶ月：19名、3～4ヶ月：6名、5～6ヶ月：1名、7～11ヶ月：1名、1年以上：3名。②利用者A：LSA37.5点→28点、MMSE=J28点。活動量の変化は「まあまあ実感した」、再開に向けての気持ちは「どちらとも言えない」。利用者B：LSA17点→11.5点、MMSE=J25点→11点、活動量の変化は「まあまあ実感した」、再開に向けての気持ちは「変化なし」。利用者C：休止前後ともにZarit24点であった。

【考察】 利用休止期間が長期化すると再開しづらい傾向にあった。また、機能を数値化して伝えたと変化をより実感してもらえる可能性が示唆された。機能低下を起こさないためにケアマネとしてできることを今後も考え、実践していきたい。

⑬新型コロナウイルス感染拡大が通所利用者に及ぼした影響

倉敷平成病院 通所リハビリ 理学療法士¹⁾

倉敷老健 通所リハビリ²⁾

白神 佑祐¹⁾、大柴 勇貴²⁾

【目的】 新型コロナ感染拡大前後における、通所系サービス利用者の活動量変化や身体機能変化の関係性について調査し、当事業所における実態を把握する事を目的とした。

【方法】 対象は期間を通して利用者登録があり、歩行が自立している要支援の利用者20名とした。また一般情報（年齢、性別、介護度、累積自粛日数）、感染拡大前後の身体機能評価（握力、Timed Up and Go test、5m歩行時間）および身体活動量（Physical activity：以下PA）を後方視的に調査した。統計解析は①感染拡大前後のPAの比較、②期間中に利用自粛があった群（以下自粛群）となかった群（以下利用継続群）の間に、感染拡大前後2時点における各評価項目の比較、③2群それぞれにおいて感染拡大前後2時点における各評価項目の比較を実施。対象者へは収集データの使用等について同意を得ている。

【結果】 ①感染拡大後はPA合計値が有意に低値を示した。②感染拡大前後で自粛群の歩行PAおよびPA合計値が有意に低値を示した。③自粛群では感染拡大前後で握力とPA合計値が有意に低下していた。

【考察】 コロナ感染拡大により通所利用者の身体活動量は低下傾向にあり、フレイルなどの虚弱化のリスクは高まっている可能性がある。さらに通所サービスの利用自粛により身体機能に影響が出ることや、通所サービスが日々の活動量確保に関わっている可能性が示唆された。

⑭利用者主体のデイサービスへ

～モンテッソーリケアを取り入れて～

通所介護リハビリステーションピース 理学療法士¹⁾

通所介護リハビリステーションピース²⁾

門屋 明秀¹⁾、山室 摩美²⁾、妹尾 祐介²⁾、池口 紀子²⁾

【目的】 新型コロナウイルスが蔓延し、プログラムの中止や活動制限など、様々な要因により利用者の活動量・認知面の低下が見受けられた。尊厳を守り、自主性や主体性を持つことを大切にするモンテッソーリケアを取り入れ、利用者主体となり自ら選択し、活動する機会を得る事を目的とする。

【方法】 当施設利用中の認知症を有する利用者15名を対象に、利用者が分かりやすい環境・空間をつくり、自己選択した活動に取り組める時間を設けた。自己選択の有無、取り組む姿勢を記録し、認知症の行動症状の評価としてDBD13、意欲の指標として、Vitality Index（以下、VI）を用いた。本研究はご本人・ご家族の同意を得て行う。

【結果】 ケア導入前後でDBD13、VIの変化に有意差は認められなかった。活動を自己選択できた割合は開始時42%、最終時32%。前向きに取り組めた割合は開始時81%、最

終時76%であった。

【考察】今まで決められた活動をしていた利用者が、自己選択するのは容易ではなく、活動の選択肢が増えた事で自己選択できない利用者もみられた。自己選択できなくても活動には前向きに取り組む姿勢が見られたが、個々に合わせた環境や行動変容を起こすことには課題がみられた。今後もモンテッソーリケアへの理解を深め、利用者主体で、心身機能の維持・向上に繋がるよう取り組んでいく。

【参考文献】

希望の介護モンテッソーリケア／和氣信吉／2019

⑮一般内科疾患に伴う認知機能障害

～症例を中心に～

倉敷平成病院 脳神経内科・認知症疾患医療センター
涌谷 陽介

一般内科疾患の中には、アルツハイマー病やレビー小体病を含むいわゆる変性型認知症と鑑別を要する認知機能障害を呈する疾患も多い。また、変性型認知症患者において新たな内科疾患が発症することにより、症状の進行や変容を呈する場合も多い。また、加齢による代謝機能障害の影響により薬剤による認知機能障害もしばしば経験される。

認知機能障害を起こしうる一般内科疾患の代表的なものには、甲状腺疾患（甲状腺機能低下症など）、肝性脳症、脱水症・電解質異常、膠原病、感染症、各種ビタミン欠乏症などがある。また、心不全をはじめとする心疾患や慢性閉塞性肺疾患等の肺疾患では、認知機能障害（せん妄を含む）が臨床症状の前景に立つ場合もある。睡眠時無呼吸症候群による日中の眠気や注意障害が、もの忘れ外来・認知症外来への受診のきっかけになる場合もある。

薬物による行動心理症状（BPSD）の悪化・変動を含む認知症様症状には、一般内科疾患に対する処方薬のみならず市販薬（いわゆるOTC医薬品、及び健康食品等も含む）も関わっていることもある。抗認知症薬や向精神薬も、患者や介護者が望まない形での認知機能障害やBPSDの変容をきたす場合があり注意が必要である。

このように高齢者に新たに出現した認知機能障害やいわゆるBPSDを含む認知症患者の症状の変化・変動に、少なからず一般内科疾患や薬物が関連している場合もあるため、適切な診察や検査を行い、治療や療養指導につなげることが重要である。

エピソード記憶障害をはじめとする認知機能障害は、患者本人の体調管理能力（食事、排泄、服薬など）に重大な影響を及ぼすことを念頭に、普段から身体的観察を行い、家族やケアスタッフとの情報共有・連携することが必要である。また、医療機関や処方薬局の間での情報共有・連携も重要である。

本講演では、症例提示を中心に鑑別診断に不可欠な内科

疾患の知識の重要性を再認識したい。

⑯パーキンソン病に対するadaptive DBSへのコンタクトスクリーニングの意義について

倉敷平成病院 臨床工学科¹⁾

倉敷平成病院 倉敷ニューロモデュレーションセンター²⁾

倉敷平成病院 脳神経外科³⁾

倉敷平成病院 リハビリテーション部⁴⁾

樽井 慎^{1, 2)}、高須賀 功喜^{1, 2)}、畠中 雅崇^{1, 2)}、

牟礼 英生^{2, 3)}、新免 利郎^{2, 4)}、山崎 諒^{2, 4)}

【はじめに】当院ではパーキンソン病患者に対する脳深部刺激療法（Deep Brain Stimulation: DBS）を施行している。近年、PDの運動症状に関連する脳局所フィールド電位（local field potential: LFP）ベースに閾値設定を行い、刺激を自動調整する（adaptive DBS: aDBS）を搭載したPercept PCTMが使用可能となった。従来はコンタクトスクリーニング（Contact Screening: CS）により症状改善・副作用出現をベースに閾値を測定し、至適電極を選択するConventional DBS（cDBS）のみであったが、現在はCS検査により得られた電極情報とLFP情報を統合してaDBSの導入を行っている。臨床工学技士は医師の指示の下、DBSにおける閾値測定を行う役割を担っているが、今回cDBSとaDBSの設定所要時間、治療効果などについて検討したので報告する。

【対象と方法】新規にPercept PCを植え込んだパーキンソン病患者18名（男性16名、女性2名、65.4±7.6歳）、34電極を対象とした。DBS術後、3ヶ月入院時にCS検査を実施しaDBSの導入を行った。aDBSとcDBSをブラインド評価で各2日間行い、Movement Disorder Society-Unified Parkinson's Disease Rating Scale（MDS-UPDRS）partⅢを術前投薬オフ/aDBS/cDBSで比較した。

【結果】CS検査の1名あたりの所用時間は2.8±0.8hrであった。治療閾値の平均閾値は1.6±0.2mA、副作用の平均閾値は3.3±0.3mAであった。一方でaDBSのLFPに基づいた閾値設定所要時間は0.6±0.1hr、LFPが低下し始める平均閾値は1.1±0.6mAでCS検査における症状改善閾値よりやや低い傾向にあった。最終設定モードはaDBS/cDBS（94%/6%）でaDBSが多い結果となった。MDS-UPDRS partⅢは術前投薬オフ/aDBS/cDBS（46.5±18.8/23.5±16.7/24.7±17.9）で術前投薬オフに比べaDBS/cDBSで有意差を認めた。

【考察】CS検査において至適刺激電極を選定するには治療・副作用閾値を主観的に捉えて臨床反応を判別する必要があるため時間を要したが、CSの電極情報があることで良好にLFPが測定でき円滑なaDBS導入に繋がったと考える。ま

た、aDBS/cDBSともに同等の刺激効果が得られており、cDBSをベースにしたaDBSが良好に機能していると考えられた。今後はLFPを主とした刺激設定を行うことで設定所要時間の短縮につながると考えられ、症例の蓄積が必要である。

【結語】CS検査は至適刺激電極の選定に有用な検査である。また、DBS治療における運動機能の改善が期待できる。

⑬岡山県内医療機関の『感染制御・抗菌薬適正使用』の取り組みに関する調査結果

倉敷平成病院¹⁾
岡山県病院薬剤師会 社会保険委員会²⁾
岡山県病院薬剤師会³⁾
岡山リハビリテーション病院⁴⁾
岡山大学病院⁵⁾
倉敷リハビリテーション病院⁶⁾
瀬戸内市民病院⁷⁾
吉備高原ルミエール病院⁸⁾
倉敷中央病院⁹⁾
水島協同病院¹⁰⁾
岡山赤十字病院¹¹⁾
市川 大介^{1, 2, 3)}、石井 澄雄^{2, 3, 4)}、川端 崇義^{2, 3, 5)}、
明田 徹^{2, 3, 6)}、森 一徳^{2, 3, 7)}、山崎 恵^{2, 3, 8)}、
森谷 康志^{2, 3, 9)}、西本 美淑^{2, 3, 10)}、森 英樹^{3, 11)}

【目的】2012年度診療報酬改定で感染防止対策加算が新設されて以降、各医療機関における感染制御の取り組みが推進され、抗菌薬適正使用（antimicrobial stewardship; AS）の活動が推進されている。2022年度診療報酬改定からは感染対策向上加算に変更されたが、ASを監視する体制は引き続き施設基準に盛り込まれており、今後もASの推進は病院薬剤師にとっての重要な課題の一つである。岡山県内医療機関の加算算定状況やASの取り組み状況を把握し、各医療機関における対応の問題点を抽出することを目的に調査を行った。

【方法】2021年11月～12月に岡山県病院薬剤師会会員施設を対象に、感染防止対策加算と抗菌薬適正使用加算の算定状況、各医療機関におけるASの体制や取り組み状況などについて、アンケート調査を実施した。

【結果】有効回答は会員施設149施設のうち56施設（37.6%）から得られた。300床未満の医療機関37施設のうち25施設が感染防止対策加算2を算定していたが、100床未満の医療機関の半数を含む11施設では加算未算定だった。感染防止対策加算は、急性期病床数や薬剤師数の多い医療機関ほど算定できており、ASの取り組みも病院規模に依存していることが示唆された。ASの取り組みを進められない要因としては、医師・看護師・薬剤師等の専門

医療職種の不足が挙げられた。

【考察】急性期病院や薬剤師数が多い医療機関でASの取り組みが進んでいる一方、小規模医療機関では医師などの専門医療職種の人員不足を要因として取り組みが進んでいない状況であった。中小医療機関でASを充実させるためには、体制が充実した医療機関との連携強化が重要であることが示唆された。

⑭骨粗鬆症治療薬適正使用のための薬剤師による介入の評価

倉敷平成病院 薬剤部¹⁾
倉敷平成病院 整形外科²⁾
守田 香織¹⁾、市川 大介¹⁾、古谷 佳美¹⁾、本田 尚也¹⁾、
三原 夏実¹⁾、高田 逸朗²⁾、平川 宏之²⁾、松尾 真二²⁾

【目的】当院では、骨粗鬆症リエゾンサービス（OLS: Osteoporosis Liaison Service）の多職種チーム活動を2019年から開始している。大腿骨骨折・脊椎圧迫骨折による入院患者には、OLSチームが二次骨折予防の介入を行っているが、それ以外の入院患者については骨粗鬆症治療薬を使用している介入対象外となっている。OLSチームの介入対象外となっている患者にも骨粗鬆症治療薬が適正に使用される体制を構築するため、薬剤師による介入について検討・評価した。

【方法】2022年8月～2023年1月に当院に入院した患者のうち、骨折による入院患者、および入院時に骨粗鬆症治療薬を使用している患者について、骨粗鬆症治療薬の使用状況等を情報収集した。そして、薬剤師が介入した事例について分析・評価した。

【結果】対象となった250名のうち、骨折による入院患者185名については整形外科医が主治医であったため、骨粗鬆症に関する検査と評価、OLSチームの介入、治療薬の評価等がほぼ実施されていた。骨折以外による入院患者で骨粗鬆症治療薬を使用していた65名では、入院時に骨粗鬆症治療薬の使用状況等を情報収集したことにより、そのうち20名に薬剤師から骨粗鬆症治療薬適正使用のための処方提案等を実施できた。内訳は、高Ca血症における経口ビタミンD製剤の中止、中止されていた骨粗鬆症治療薬の再開、OLSチームへの介入提案等だった。OLSチームに介入提案した事例は、外来受診でデノスマブが中断されたままの患者の薬物治療再開、入院を契機にミノドロロン酸とアルファカルシドールが中止されたまま再開されていなかった患者の治療再開などであった。

【考察】入院時に高Ca血症により経口ビタミンD製剤を中止・減量したが、入院中に再開・増量等を評価できなかった事例もあり、介入後の継続的なフォローが課題として示唆された。今後、院内でのOLSチームの活動を広く周知し、

骨粗鬆症治療を多職種で支援する取り組みを推進したい。

⑨Center for Epidemiologic Studies Depression Scale のスマートフォン版と紙版のスコアの違い ー同等性の証拠ー

倉敷平成病院 リハビリテーション部¹⁾

群馬大学大学院 保健学研究科²⁾

打田 博行¹⁾、平尾 一樹²⁾

【はじめに】現在、患者報告式アウトカム（PRO）の利用は世界中で拡大しており、メンタルヘルス分野でも広く利用されている。様々なメンタルヘルスのためのPROが存在するが、中でもCenter for Epidemiologic Studies Depression Scale（CES-D）は抑うつ症状を測定するためのPROとして臨床研究、疫学研究、地域の一般住民の診断スクリーニングのいずれにおいても広く用いられている。また、重要な点として、メンタルヘルス領域のインターネットを使用した研究の増加に伴い、CES-Dは電子患者報告アウトカム（ePRO）として利用されることが増えてきている。CES-DをePROとして使用するにあたり、様々なデバイスの利用が想定されるが、中でもスマートフォンは他のPCやタブレットなどのデバイスと比較して、明確な優位性（多くの人が常に持ち歩き、どこでも使用可能）を持っている。しかし、これまでのシステマティックレビューでは、CES-Dをスマートフォンで使用した場合の信頼性については調査されておらず、十分な検討はなされていない。そこで、本研究ではCES-Dの紙版とスマートフォン版の測定同等性を検証することを目的とした。

【対象・方法】本研究は、CES-Dの紙版とスマートフォン版のフォーマット間の同等性を評価するために、無作為化クロスオーバーデザインを用いて実施された。日本語を母国語とし、スマートフォンを持っている18歳以上の参加者100名を募集した。紙版またはスマートフォン版のCES-Dに記入する順番（紙版が先か、スマートフォン版が先か）は無作為に決定された。潜在的な想起効果や持ち越し効果を軽減するため2つのアンケートを記入する間隔は1週間とした。統計解析では、紙版とスマートフォン版の各尺度の同等性を確認するため、この種の同等性研究で最もよく用いられる統計指標の一つである二元配置ランダム効果モデルに基づくクラス内相関係数（ICC_{agreement}）とその95%信頼区間を算出した。また、本研究は倫理委員会によって承認され、参加者全員が書面によるインフォームドコンセントを受けた。

【結果】参加資格を満たした100名のうち、100名（平均年齢＝19.86歳、SD＝1.08、男性＝23%）が紙版とスマートフォン版のアンケートに回答し、完全なデータを提供した。紙版先行群では、50人がまず紙版のCES-Dに回答した。スマートフォン先行群では、50人が最初にスマートフォン

版のCES-Dに回答した。CES-Dの紙版とスマートフォン版のICC_{agreement}は0.76（95%CI 0.66-0.83）であった。また、CES-DスコアのCronbach's alphaは、スマートフォン版と紙版でそれぞれ0.82と0.81であった。

【考察】本研究では、スマートフォン版と紙版で評価したCES-Dの同等性を評価した。その結果、良好な同等性を有することが示唆された。加えて、良好な内部一貫性を有するだけでなく、紙版CES-Dと同等の内部一貫性も有していることが示唆された。この結果は、スマートフォン版CES-Dが紙版CES-Dと同等の自己評価をもたらすことを示唆するものである。したがって、CES-Dはスマートフォン版での使用が適切であり、臨床や研究の場において必要に応じて紙版とスマートフォン版を選択できるような応用が可能である。いくつかの先行研究ではCES-Dのパソコン版やタブレット版は紙版と同等の自己評価をもたらすことを示唆した。しかし、スマートフォンの潜在的な利点（簡単でどこにでもあるアクセス性）を考慮すると、少なくともスマートフォン版のCES-Dは、パソコンやタブレットベースのCES-Dの有望な代替戦略となり得るだろう。

Key words: うつ状態、尺度、抑うつ、スマートフォン

⑩医療従事者の作業機能障害と離職意向、ワークエンゲージメント、および関連要因に関する横断研究 A cross-sectional study of occupational dysfunction and turnover intentions, work engagement and related factors among healthcare workers

倉敷老健 通所リハビリ¹⁾

吉備国際大学大学院 保健科学研究科²⁾

長井 健太郎¹⁾、寺岡 睦²⁾、京極 誠²⁾

【日本語要旨】本研究の目的は、作業機能障害群と非作業機能障害群を比較し、離職意向、ワークエンゲージメント（以下：WE）、およびその他関連要因との関連性を検証することだった。方法は横断研究で、医療従事者213名のデータを分析し、記述統計量と群間比較試験を行った。結果は、作業機能障害群は非作業機能障害群と比べ、離職意向が高く、WEが低かった。関連要因では、作業機能障害者は気分転換の機会が少なく、余暇時間の過ごし方に満足しておらず、職場の人間関係が不良であると感じていた。群間比較試験の結果は、効果量に男女差が生じ、女性の効果量が大きかった。これにより、予防的作業療法で離職を評価する重要性が示唆された。

【英語要旨】The aim of the study was to compare the occupational dysfunction group with the non-occupational dysfunction group and to test the association with turnover intention, work

engagement (hereafter WE) and other relevant factors. The method was a cross-sectional study, analysing data from 213 healthcare workers, with descriptive statistics and between-group comparisons. Results showed that the occupational dysfunction group had higher turnover intentions and lower WE than the non-occupational dysfunction group. Related factors were that the occupational dysfunction group had fewer opportunities for refreshment, were less satisfied with time spent on leisure activities and felt they had poor work relationships. The results of the between-group comparison showed a gender difference in effect size, with women having a larger effect size. This suggests the importance of assessing turnover in preventive occupational therapy.

② Adaptive DBSの有用性について

ー Percept PC植込み1年後26例での検討ー

倉敷平成病院 倉敷ニューロモデュレーションセンター¹⁾
倉敷平成病院 脳神経外科²⁾
倉敷平成病院 臨床工学科³⁾
倉敷平成病院 リハビリテーション部⁴⁾
倉敷平成病院 看護部⁵⁾
牟礼 英生^{1, 2)}、樽井 慎^{1, 3)}、新免 利郎^{1, 4)}、
高須賀 功喜^{1, 3)}、山崎 諒^{1, 4)}、田辺 美紀子^{1, 5)}、
重松 秀明²⁾、高尾 聡一郎²⁾

【はじめに】2020年にPercept PCTMが発売され、日常臨床の場でのLFPセンシングが可能となり、本邦ではadaptive DBS (aDBS) の使用も認可されている。しかしながらその使用法は未だ標準化されておらず臨床的有用性についても不明である。今回当院でPercept PCを植え込み1年以上経過した26例から得られた臨床データを解析しaDBSの有用性について検討したので報告する。

【対象および方法】2020年11月から2022年10月までの間にPercept PC植込みを行ったパーキンソン病患者26例（男性13例、平均年齢65.0歳）、52電極を対象とした。24例が新規植込みであり、標的神経核は視床下核48、淡蒼球内節4であった。術後3か月と12か月でaDBSとConventional DBS (cDBS) におけるUPDRSⅢならびにUnified dyskinesia rating scale (UDysRS) を検者・被検者盲検下で測定した。12か月以降の外来でPDQ-39を評価した。

【結果】aDBS導入率は3か月で36例（69.2%）、12か月で35例（67.3%）であった。UPDRSⅢ/UDysRS平均値は術後3か月でaDBS: 23.0/3.2、cDBS: 23.7/5.4、

12か月でaDBS: 21.8/2.5、cDBS: 23.2/1.4でありいずれも刺激間の有意差はなかった。5例のみの取得であるがPDQ39の平均値はaDBS: 39.4、cDBS: 43.4であり差はなかった。12か月後におけるaDBS継続群17例とaDBS非継続群9例の患者因子を比較すると手術時年齢（62.2歳 vs 71.0歳）、術前UPDRS part 3 on/off変化率（55.5% vs 40.2%）、術前UPDRS part 4（9.3 vs 5.9）で有意差を認めた。

【考察】aDBSとcDBSの被検者内比較において運動症状とQOLスコアに有意差はなかった。一方で比較的若年で術前オンオフ差が大きくジスキネジアが強い患者ではaDBSが継続されていた。このような患者ではaDBSにより自己調節不要であることやジスキネジア軽減効果がありaDBSが選択されている可能性が示唆された。

② 脊髄刺激療法トライアルにおけるsubperception刺激の比較検討

倉敷平成病院 倉敷ニューロモデュレーションセンター¹⁾
倉敷平成病院 臨床工学科²⁾
倉敷平成病院 脳神経外科³⁾
倉敷平成病院 リハビリテーション部⁴⁾
高須賀 功喜^{1, 2)}、牟礼 英生^{1, 3)}、樽井 慎^{1, 2)}、
畠中 雅崇^{1, 2)}、新免 利郎^{1, 4)}

【目的】脊髄刺激療法（SCS）は様々なsubperception刺激を導入したが、効果差異や使い分けは不明である。今回SCSトライアルで各刺激の鎮痛効果を比較検討した。

【対象と方法】SCSトライアルを行った11名（男性7名、女性4名）、平均年齢61.5±13.6歳を対象とし、各刺激（FAST, Contour, BurstDR, DTM）の鎮痛効果をNumerical Rating Scale（NRS）で評価した。DTMはワークフロー刺激（DTMwf）と疼痛箇所にパレステジアを得た刺激（DTMp）も行った。

【結果】対象者は腰・体幹痛は4名、四肢痛は9名であり、術前平均NRS（腰・体幹／四肢）は6.0±0.2/6.7±1.0であった。刺激別NRS（腰・体幹／四肢）はFAST: 4.1±3.4/2.6±2.0、Contour: 3.5±3.0/3.3±2.1、BurstDR: 4.0±2.5/3.0±1.6、DTMwf: 3.7±2.0/2.8±1.6、DTMp: 3.4±1.7/2.9±1.8であり、腰・体幹は有意差を認めないが、四肢は各刺激とも術前に対し有意に鎮痛効果が高かった。50%以上の鎮痛効果患者（腰・体幹／四肢）はFAST: 1名（25.0%）／4名（44.4%）、Contour: 1名（25.0%）／3名（33.3%）、BurstDR: 1名（25.0%）／5名（44.4%）、DTMwf: 1名（25.0%）／6名（66.6%）、DTMp: 1名（25.0%）／5名（55.5%）であった。患者の好みはFAST4名（36.3%）、Contour1名（18.1%）、BurstDR2名（18.1%）、DTMwf4名

(36.3%)、DTMpa2名(18.1%)、好みなし2名(18.1%)であった。

【結語】SCSトライアルで各刺激とも術前より鎮痛効果を期待できると示唆された。患者の好みに合わせた電極や刺激調整を行う必要がある。症例別刺激方法を明らかにするため、症例の蓄積が必要である。

㊸パーキンソン病における視床下核刺激術後にコンタクトスクリーニングとGuide™XTを用いたプログラミングの比較検討

倉敷平成病院 倉敷ニューロモデュレーションセンター¹⁾

倉敷平成病院 臨床工学科²⁾

倉敷平成病院 脳神経外科³⁾

倉敷平成病院 リハビリテーション部⁴⁾

倉敷平成病院 看護部⁵⁾

樽井 慎^{1、2)}、牟礼 英生^{1、3)}、高須賀 功喜^{1、2)}、

畠中 雅崇^{1、2)}、新免 利郎^{1、4)}、田辺 美紀子^{1、5)}

【はじめに】脳深部刺激療法(Deep Brain Stimulation: DBS)はパーキンソン病(Parkinson's disease: PD)の有効な治療法で、至適プログラミングはオフ状態での臨床症状をベースとしたコンタクトスクリーニング(Contact Screening: CS)を指標としているが、所要時間が長く患者と医療者の負担は少なくない。近年、Guide™XTにより神経核への刺激範囲(Volume of tissue activation: VTA)の可視化が可能となった。CSとGuide™XTの治療効果、設定所要時間などのプログラミングの実用性について検討した。

【対象と方法】PD患者5名(男性2名、女性3名、64.0±10.4歳)、Brainlab Elementsを用いて、両側視床下核(STN)にdirectional lead(DB-2202, Boston Scientific)を留置した。術後3ヶ月入院時、CSは医師の指示下で臨床工学技士が行い、Guide™XTは医師がSTN背外側領域をカバーしSTN外への刺激が最小となる様に設定した。評価はブラインドで其々48hr後にMovement Disorder Society-Unified Parkinson's Disease Rating Scale(MDS-UPDRS) partⅢを測定し、プログラミングの強度、治療閾値、設定所要時間を比較した。

【結果】1名の所要時間は(CS: 1.6±0.2hr/Guide™XT: 0.3±0.06hr)で有意差(P<0.01)を認めた。CSとGuide™XTによる症状改善閾値は(1.3±0.2mA/1.3±0.2mA)同等であった。MDS-UPDRS partⅢは術前投薬オフ/CS/Guide™XT(33.4±15.8/11.4±6.6/9.2±6.1)で術前投薬オフと比較し、CSとGuide™XTで有意差を認めたが(P<0.05)、プログラミング間での差はなかった。

【考察】少数例の検討であるがGuide™XTのプログラミングによる運動症状改善はCSと同等であった。所要時間はGuide™XTで有意に短く、CSでは治療・副作用閾値を主観的に捉えて判別するため時間を要したが、Guide™XTでは標的神経核の構造を直感的に把握できるため時間短縮に繋がったと考える。

【結語】患者と医療者の負担を考慮するとGuide™XTを用いたプログラムが有用である可能性が示唆されたが、少数例の結果であり今後の症例の蓄積が必要である。

学会・研修会等参加

(医 局)

月	学 会 ・ 研 修 会	場 所	人 数
4	第127回日本眼科学会総会	Web	1
	第82回日本医学放射線学会総会	神奈川	1
	第120回日本内科学会総会	東京・Web	3
	Arthrex Japan Kuee Cadaver Training	シンガポール	1
	AASSFN 2023	大阪	1
5	第96回日本整形外科学会学術総会・教育研修会	Web	1
	第124回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会	福岡	1
	第43回日本脳神経外科コンgres	大阪・Web	2
	第64回日本神経学会学術大会	千葉	3
6	第65回日本老年医学会学術集会	神奈川	1
	第38回日本老年精神医学会春季大会	Web	1
	第38回日本脊髄外科学会	Web	1
	第73回日本東洋医学会学術総会	福岡	1
	第113回日本神経学会中国・四国地方会	山口	1
7	第17回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres	大阪	2
8	第13回日本脳血管・認知症学会総会	東京	1
	岡山県医師会消化管検診研究会講演会	岡山	1
	第84回マンモグラフィ読影更新講習会	岡山	1
9	第64回日本人間ドック学会学術大会	Web	1
	2023年第2回人間ドック健診専門医研修会	Web	1
	第12回日本認知症予防学会学術集会	新潟	2
	器質性月経困難症に対する適正なホルモン療法等に係る研修	Web	1
	第36回日本口腔診断学会合同学術大会	栃木	1
10	第141回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	兵庫	1
	第77回日本臨床眼科学会	東京	1
	日本人類遺伝学会第68回大会	東京	1
	第38回日本老年精神医学会秋季大会	東京	1
	第129回中国地方会	Web	1
	第27回岡山県肝炎医療従事者研修会	岡山	1
	日本脳神経外科学会第82回学術総会	神奈川	4
	第39回日本義肢装具学会学術大会	岡山	1
	第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会	Web	1
11	第31回日本消化器関連学会	Web	1
	第15回岡山県回復期リハビリテーション病棟協会研究会	倉敷	1
	第37回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会秋季大会	Web	1
	日本摂食嚥下リハビリテーション学会主催「患者中心のチーム医療を目指すリーダー育成研修」	Web	1
	第39回日本脳神経血管内治療学会学術集会	京都	1
	第42回日本認知症学会学術集会	Web	3
12	第96回日本脳神経外科学会中国四国支部学術集会	徳島	1
	第51回日本頭痛学会総会	神奈川	1

月	学 会 ・ 研 修 会	場 所	人 数
12	第31回日本腰痛学会	徳島	1
	第11回岡山脳神経微小解剖セミナー	岡山	1
	第51回日本頭痛学会総会	Web	1
	第114回日本神経学会中国・四国地方会	愛媛	2
1	日本リハビリテーション医学会主催「リハビリテーションに活かす医療コーチング研修会」	Web	1
2	第63回日本定位・機能神経外科学会	北海道	2
3	第49回日本脳卒中学会学術集会	神奈川・Web	3
	STROKE 2023	Web	1
	第88回日本循環器学会学術集会	兵庫	1
合計			65

(医局外)

月	学 会 ・ 研 修 会	場 所	部 署	人数
4	健診センター等における効果的な継続支援につながる保健指導のコツ	Web	脳ドックセンター	1
	看護研究を始めよう（2日間）	Web	外来	1
	OKAYAMA周産期管理セミナー	岡山	手術・中材・2階	4
	（公社）日本理学療法士協会臨床実習指導者講習会	Web	PT科	1
	倉敷トレーナーズ協会　ドーピング最新事情	倉敷	PT科	1
	（公社）日本理学療法士協会臨床実習指導者講習会	Web	PT科・予防リハ・老健	3
	復唱からの発見　－言語症状の読み解き方－	Web	ST科ST	1
	第79回日本放射線技術学会総会学術大会	神奈川	放射線部	1
	第207回倉敷内科医会「腹痛のPoint-of-care超音波」	Web	臨床検査部	2
	第5回PDナース・メディカルスタッフ研修会	広島	臨床工学科	1
	令和5年度新入社員セミナー　ビジネスマナーと基礎知識、伝える力を学ぼう	倉敷	医事課	2
	（公社）日本理学療法士協会臨床実習指導者講習会	Web	予防リハ	1
	訪問看護ラダーレベルⅠ対象研修（①訪問看護師の気づき・マナー②コミュニケーション技術／組織内部の連携）	岡山	訪問看護	1
訪問看護ラダーレベルⅠ対象研修（訪問看護の制度・しくみ、Q＆A）	Web	訪問看護	1	
4月小計				21
5	令和5年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル	岡山	外来	1
	看護大会	岡山	外来・2階・3東・4西	4
	看護実践と法律の関係	Web	3東	1
	地域で活躍する看護職のための心不全患者の看護	Web	3東	1
	プリセプターナースの教育力を身につける	Web	4西	1
	臨地実習指導のエッセンス	Web	4西	1
	成果のあがるオーラルマネジメント　～口腔ケアからオーラルマネジメントへ～	Web	4西	1
	第3回和歌山運動器エコー研究会	Web	PT科	1
	岡山心血管エコー研究会第2回腹部エコーミーティング	Web	臨床検査部	1
	岡山県栄養士会医療事業部研修会	岡山	栄養科	1
	第29回倉敷脳卒中チームケア研究会	倉敷	栄養科	1
	第38回日本臨床栄養代謝学会学術集会	Web	栄養科	3
	令和5年度第1回岡山県栄養士会医療事業部研修会	岡山	栄養科	1
	第10回岡山県臨床工学技士会所属CE代表者会議	岡山	臨床工学科	1
	Leaders Conference	Web	秘書課	1
	The New Style CKD Symposium in Chugoku & Shikoku	Web	秘書課	1

月	学 会 ・ 研 修 会	場 所	部 署	人数
5	①（地域連携Ⅲ）地域包括ケアにおける看護職の役割と多職種連携 ②（組織運営・管理Ⅲ）訪問看護ステーションの人材確保と経営	岡山	訪問看護	1
	バーセルインデックス評価方法	Web	特養	2
	令和5年度岡山県老人福祉施設職員研究発表会	Web	特養	2
5～7	令和5年度NST専門療法士研修	岡山	NST専門委員会	2
5月小計				28
6	最新の研究倫理	Web	外来	1
	現場リーダーのための看護倫理	Web	外来・2階	3
	23「重要度、医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修	Web	2階・3西・3東	3
	チームリーダーに必要なリーダーシップ	Web	2階・3西・4西	3
	家族看護 ～援助の対象である家族の理解を深めよう～	Web	3東・4東	2
	看護実践に活かすリフレクション	岡山	3東	1
	クリニカルラダーの取り組みと実践	Web	4西	1
	第28回岡山県理学療法士学会	美作	PT科	6
	長野県理学療法学会	Web	PT科	1
	2023年度第1回岡山ST嚙下カンファレンス	倉敷	ST科ST	1
	第37回倉敷市もの忘れ事例検討会	倉敷	ST科CP	1
	第29回医師・臨床検査技師・薬剤師・看護師のための感染症学セミナー	Web	臨床検査部	1
	第35回岡山消化器検診研究会	Web	臨床検査部	1
	第48回日本超音波検査学会学術集会	Web	臨床検査部	3
	みなとみらいフォーラム2023	Web	臨床検査部	4
	BurstDR Users Seminar in Hiroshima	広島	臨床工学科	3
	ヴィアレブ@InternetLive Seminar	Web	臨床工学科	1
	第6回岡山県診療情報管理研究会	倉敷・Web	診療情報管理課	1
	アジョビweb講演 ～これからの片頭痛治療を考える	Web	秘書課	1
	「医療事故調査制度への医療機関の対応の現状と課題」研修会	東京	医療安全委員会	1
	令和5年度認知症介護基礎研修	Web	通所（学習療法士）	1
	医療介護推進の最新動向 ～岡山県の地域医療構想をふまえて～	Web	訪問看護	1
	医療従事者のためのリハ栄養セミナー／エネルギー量を計算してみる	Web	訪問看護	1
	寄り添い支え合う介護現場でのコミュニケーション ～少しでもあわせた種をまいてみよう～	倉敷	特養	1
	ハラスメント防止セミナー	倉敷	ピースガーデン・ショートステイ	1
	コーチング研修	岡山	ピースガーデン・ショートステイ	1
6～9	令和5年度認知症介護実践研修（実践者研修）	岡山	老健	1
6月小計				46
7	ナースが知りたい画像やデータの読み方 ～基礎医学を学び直そう～ A日程	Web	外来・2階・3西・3東	6
	ナースが知りたい画像やデータの読み方 ～基礎医学を学び直そう～ B日程	Web	2階・3西・3東・4東	4
	感染管理 ～基礎知識から行動の実践～	倉敷	2階・3西・3東・4西・4東	5
	せん妄・統合失調症・気分障害の対応 ～一般病院・施設での対応～	Web	2階・3西・4東	4
	急変に気付く ～あなただったらどうする？～ A日程	Web	2階・3西・3東・4西・4東	5
	摂食・嚥下障害の看護	Web	3西・3東・4西	3
	発達障害を理解しよう	岡山	3西	1
	脳卒中患者の看護	Web	3西・3東・4東	5
	褥瘡・皮膚管理に強いナースになる！ A日程	Web	3東・4西・4東	3
	入谷式足底板 基礎編	鳥取	PT科	10
	入谷式足底板 基礎セミナー	鳥取	PT科	2

月	学 会 ・ 研 修 会	場 所	部 署	人数
7	臨床に生きる！腰背筋群の解剖学と運動学	Web	PT科	1
	脳卒中の歩行再建 ～歩行のメカニズムに基づいた実践的トレーニング	Web	PT科	1
	野球を中心としたトレーニング、コンディショニング	岡山	PT科	1
	失語症における訪問リハビリテーションの必要性和家族支援の実際 ～地域で暮らす失語症者を支える失語症デイ・友の会・そのほかの活動を含めて～	Web	ST科ST	1
	地域部会令和5年度第一回事例検討会	Web	ST科ST	1
	ADL評価法FIM講習会	Web	ST科ST	2
	藤田ADL講習会（FIMを中心に）	Web	ST科ST	1
	嚥下訓練すべきこと 曖昧にはいけないこと	Web	ST科ST	1
	第7回ADL評価講習会（FIM講習会）	Web	PT科・OT科・ST科ST	10
	第200回マンモグラフィ技術更新講習会	岡山	放射線部	2
	2023年度岡臨技生理部門講演会 ～これから始める消化管超音波～	Web	臨床検査部	2
	第19回岡山睡眠研究会	Web	臨床検査部	2
	リハ栄養フォーラム2023	Web	栄養科	1
	臨床工学技士の業務範囲追加に伴う厚生労働大臣指定による研修	岡山	臨床工学科	1
	Advance Parkinson's disease Internet Live Seminar	Web	臨床工学科	1
	CDS研究会 in TOKYO	Web	臨床工学科	1
	第33回日本臨床工学会	広島	臨床工学科	1
	第17回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres	大阪	臨床工学科	1
	Essence of SCS by FAST & Contour	Web	臨床工学科	1
	2023年度医師事務作業補助者研修	Web	秘書課	1
	医療事故調査制度事例検討研修会	東京	医療安全委員会	1
	フレイル・ロコモティブシンドロームの予防的介入と高齢者看護	岡山	老健	2
	第46回デイ・ケア研究大会2023 in 八王子	東京	通所リハ	1
	災害時に在宅療養者等の命と暮らしを守る為の他職種交流会 ～地域のBCPを考えよう～	岡山	訪問看護	1
	看護職が元気になる “ほめ流人材育成”	Web	訪問看護	1
	①（自己啓発・研究Ⅳ）事例検討 ～訪問看護師のあり方～ ②（倫理Ⅳ）在宅における倫理的課題の解決方法	岡山	訪問看護	1
	新卒・新任訪問看護師のプリセプター交流会Ⅰ	Web	訪問看護	2
7～8	新人看護職員実地指導者研修（4日間）	岡山	老健	1
7～9	令和5年度岡山県保健師助産師看護師実習指導者講習会について	岡山	3西・4西	2
7～12	岡山県老人保健施設協会感染対策部会感染対策エキスパート養成事業	岡山	老健	2
7月小計				95
8	急変に気付く ～あなただったらどうする？～B日程	Web	2階・3西・3東・4西	7
	第2回看護研究会（看護補助者教育研修会）	Web	3西・4西・4東	3
	看護における倫理的思考と実践	Web	3東	1
	がん放射線療法の基本	Web	3西	1
	看護記録の実際	Web	3東・4東	3
	在宅看護の世界をのぞいてみませんか？ [訪問看護ダイジェスト版]	Web	2階・3西・訪問看護	3
	第8回看護リーダー主任研修会	Web	4西・4東	2
	丸太町リハビリテーションクリニック施設見学	京都	PT科	6
	2023年度第2回岡山ST嚥下カンファレンス	岡山	ST科ST	1
	在宅における摂食嚥下リハビリテーション ー高齢者領域を中心にー	Web	ST科ST	1
	タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会	岡山	臨床検査部	4
	GE Sono-Coコンテンツ 膵・胆道スクリーニングのリアルなお悩み解決します！	Web	臨床検査部	1

月	学 会 ・ 研 修 会	場 所	部 署	人数
8	第3回Fan Fun Aplio in 中四国	Web	臨床検査部	1
	ヴィアレブ@InternetLive Seminar	Web	臨床工学科	1
	日本医療秘書実務学会第14回全国大会	Web	秘書課	10
	高齢者施設で役立つ、厳選レクリエーションセミナー	岡山	老健	1
	がん患者の在宅療養支援と緩和ケア	岡山	訪問看護	1
	令和5年岡山県特定給食施設関係者研修会	岡山	特養	1
8～10	令和5年度認知症介護実践者研修（実践者研修）	岡山	老健	1
8月小計				49
9	外来に求められる専門性と役割 ～役割を自覚し地域包括ケアを推進しよう～	Web	外来	1
	第29回香川 感染管理及び滅菌業務研究会	香川	手術・中材	1
	がん薬物療法の理解と個別的な看護実践	Web	3西	1
	認知症高齢者の看護実践に必要な知識（2日間）	Web	3西	1
	KYT（危険予知トレーニング）の実際 ～医療安全の基礎～	岡山	3東・4西	2
	地域で活躍する看護職のための糖尿病患者の看護	Web	4東	1
	第15回病棟看護師長研修会	Web	4西・4東	2
	第36回中国ブロック理学療法士学会	広島	PT科	3
	ストレッチングのエビデンスと実際	Web	PT科	1
	岡山県理学療法士会卒後研修会	web	PT科	1
	LUMIPULSE FORUM 2023	Web	臨床検査部	1
	医療機関のCOVID-19診療を考える in 倉敷	Web	臨床検査部	1
	第10回オンライン「SEKISUI塾」	Web	臨床検査部	1
	ヴィアレブ発売記念 Virtual Congress	web	臨床工学科	1
	第25回日本褥瘡学会学術集会	神戸	栄養科	1
	日本医療マネジメント学会第28回岡山県支部学術集会	Web	地域医療連携センター	1
	「返戻・査定」基礎研修 ～正しい診療報酬請求を行うために～	Web	医療事務部	1
	第15回岡山県医療情報技師会	Web	診療情報管理課	2
	医療経営イノベーションセミナー 「これからの時代に求められるポリファーマシー対策を考える」	Web	秘書課	1
	輸液と経腸栄養が簡単に分かる勉強会 「栄養療法がちょっと分かる回（水・電解質輸液編）」	Web	秘書課	1
	第3回くらしき頭痛を考える会	Web	秘書課	4
	第7回岡山県地域包括ケアシステム学会学術大会	倉敷	地域包括支援センター	2
	職場管理者・リーダー対象 職員の意欲向上と人材育成 第1回	倉敷	予防リハ	1
	管理者カフェ「感染症及び災害（地震・水害）BCPをみんなで作ろう！」	Web	訪問看護	1
	令和5年度認知症対応型サービス事業 開設者研修	岡山	グループホーム	1
	芝刈り機取扱い作業安全衛生教育	岡山	ケアハウス	1
9～10	認知症対応力向上研修 A日程（3日間）	岡山	外来	1
	認知症対応力向上研修 B日程（3日間）	岡山	老健	1
	令和5年度第1回～第4回医事業務研究会	Web	医事課	1
	2023年度介護老人保健施設 安全推進セミナー 三大介護事故からひやりはっと分析・苦情対応まで ～老健施設で多いリスクに対応するために～	Web	老健	1
9～11	2023（令和5）年度認定看護管理者教育課程セカンドレベル	岡山	看護部	1
9～12	看護研究に必要な統計分析の基礎	岡山	2階	1
	令和5年度認知症介護実践者研修（実践リーダー研修）	岡山	老健	1
9月小計				42
10	褥瘡・皮膚管理に強いナースになる！B日程	Web	2階・3東	3

月	学 会 ・ 研 修 会	場 所	部 署	人 数
10	フィジカルアセスメント〔基礎編〕A日程	Web	2階・4東	2
	第3回看護研究会（中堅看護師教育研修会）	Web	2階・3西・3東・4西・4東	5
	交渉術を理解する	岡山	3西	1
	看護師が支える意思決定	Web	3東	1
	岡山県マネジメント研修 兼 協会指定管理者（初級）研修	Web	PT科	2
	第11回日本運動器理学療法学会各術大会	福岡	PT科	1
	おかやまマラソン事前勉強会	Web	PT科	7
	野球肘の予防とリハビリテーション	Web	PT科	1
	膝関節に対する解剖学に基づいた治療技術	愛知	PT科	2
	Articulation訓練時の視点と実際：嚥下訓練との相違点	Web	ST科ST	2
	2023年度第3回岡山ST嚥下カンファレンス	岡山	ST科ST	1
	日本糖尿病療養指導士認定試験受験者用講習	Web	薬剤部	2
	日本糖尿病療養指導士認定試験受験者用講習（33,000円×2名）	Web	薬剤部	2
	タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会	岡山	臨床検査部	2
	第27回岡山県臨床検査精度管理調査速報会&教育講演会	倉敷	臨床検査部	2
	第43回Philips超音波診断装置Webセミナー	Web	臨床検査部	1
	シスメックス 血液・凝固セミナー in 広島	Web	臨床検査部	1
	第9回 WORSC	Web	臨床工学科	1
	国循式デバイス手術：ペースメーカー手術編	Web	臨床工学科	1
	Nellcor TM ウェビナー	Web	臨床工学科	1
	第13回中四国臨床工学会	鳥取	臨床工学科	1
	「神経難病患者への支援」研修	総社	地域医療連携センター	2
	2023年度医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅰ（第2回目）	Web	地域医療連携センター	1
	第12回全国学術集会（日本医師事務作業補助者協会）	Web	秘書課	1
	第27回岡山県肝炎医療従事者研修会	岡山	秘書課	2
	職場管理者・リーダー対象 職員の意欲向上と人材育成 第2回	倉敷	予防リハ	1
	2023年度看取り研修会	Web	老健	5
	①地域における難病療養者と家族の支援・社会資源の活用 ②在宅療養者が口から美味しく食べる支援	岡山	訪問看護	1
	①（倫理）在宅における看護倫理 ②（家族支援Ⅰ）在宅療養者の家族支援	岡山	訪問看護	1
	成年後見制度	Web	特養	1
	令和5年度岡山県老人福祉協議会地域密着施設部会実践報告&意見・情報交換会	岡山	特養	1
	安全運転管理者講習	Web	ピースガーデン・ショートステイ	1
10~11	ヘルシーワークプレイスを目指して ～看護管理者として考える～	Web	外来	1
	令和5年度高齢者虐待対応現認者標準研修	岡山	地域包括支援センター	2
10月小計				62
11	第64回日本視能矯正学会	香川	眼科外来	1
	周術期の安全な薬剤管理・看護管理者のメンタルヘルス	倉敷	看護部・3西・4西・4東	5
	2023年度手術室感染対策セミナー	岡山	手術・中材	2
	フィジカルアセスメント〔基礎編〕B日程	Web	2階	3
	看護管理 看護の業務改善	Web	2階	1
	高齢者施設での看護〔感染・褥瘡・排泄編〕	Web	4東・老健	2
	藤田ADL講習会 ―FIMを中心に―	Web	PT科・OT科・ST・CP科	10
	第15回岡山県回復期リハビリテーション病棟協会研究会	倉敷	PT科・OT科・ST・CP科・4西・4東・総務・秘書・広報部	12

月	学 会 ・ 研 修 会	場 所	部 署	人数
11	日本理学療法管理学会・日本精神・心理領域理学療法研究会合同学術大会	東京・Web	PT科	1
	腱板断裂修復後のリハビリテーション	岡山	PT科	1
	児童生徒等の運動器の健康に関する教育セミナー 2023 ～「認定スクールトレーナー」の育成を展望して～	Web	PT科	1
	第27回栃木県理学療法士学会	Web	PT科	1
	分離症の予防とリハビリテーション	Web	PT科	1
	第23回呼吸療法セミナー	Web	PT科	1
	認定スクールトレーナー研修会	Web	PT科	2
	胸郭運動システムの異常と歩行	東京	PT科	1
	鳥取県臨床検査技師会2023年度第3回輸血細胞治療部門研修会	Web	臨床検査部	1
	第3回ニッポーメディカルオンラインセミナー	Web	臨床検査部	1
	岡山県臨床検査技師会 クロスチェックについて	Web	臨床検査部	1
	第21回倉敷チーム医療研究会	倉敷	栄養科	1
	おかやま糖尿病サポーター認定研修会	倉敷	栄養科	1
	第2回栄養管理研修会	Web	栄養科	1
	第30回倉敷脳卒中チームケア研究会	倉敷	栄養科	1
	令和5年度岡山糖尿病サポーター認定研修会	倉敷	栄養科	1
	第23回呼吸療法セミナー	Web	臨床工学科	1
	第1回脊髄刺激療法CE情報交換会	Web	臨床工学科	2
	岡山大学病院歯科研修医ICLSコースインストラクター	岡山	臨床工学科	1
	地域肝炎サポーター研修会	Web	秘書課	2
	「医療事故調査制度」における組織としての再発防止への取り組み	Web	医療安全委員会	1
	職場管理者・リーダー対象 職員の意欲向上と人材育成 第3回	倉敷	予防リハ	1
	令和5年度岡山県医療的ケア児等コーディネーター支援者養成研修	岡山	訪問看護	1
	健康長寿で生ききる在宅応援を考える交流会	Web	訪問看護	1
	①（倫理Ⅲ）在宅における倫理的問題の解決方法 ②（自己啓発・研究Ⅲ）事例検討 ～訪問看護師の在り方～	岡山	訪問看護	1
	①地域包括ケアにおける看護職のリーダーシップ ②在宅看護における人材育成	岡山	訪問看護	1
	令和5年度認知症介護基礎研修	Web	老健	7
	第34回全国介護老人保健施設大会	宮城	老健	2
	「返戻・査定」基礎研修 ～正しい診療報酬請求を行うために～	Web	医療事務部	1
	令和5年度第2回西Aブロック研修会	倉敷	老健	1
	QOL向上につなげるベッドサイドリハビリテーション	Web	3東・4西・4東	3
	呼吸管理の実際と看護	Web	3西	1
	第26回くらしき脳卒中地域連携の会	倉敷・Web	PT科・OT科・ST・CP科	10
	自然災害時の対応とBCP策定のポイント	岡山	ケアハウス	1
	倉敷保健所令和5年度給食施設栄養管理研修会	Web	ケアハウス	1
11～12	令和5年度岡山県保健師助産師看護師実習指導者講習会	岡山	訪問看護	1
11～1	DPCコース（第15期生）	Web	医事課	1
11～2	2024年度診療報酬改定セミナー	Web	医事課	6
11月小計				100
12	看護管理 看護管理者のための病院管理	Web	看護部	2
	術前から取り組む周術期看護 ～早期回復・早期退院を目指して～	岡山	2階	2
	第4回看護研究会（管理者研修会）	岡山	3西・老健	2
	理論を使うと看護実践が変わる ～現場で理論を使おう～	岡山	3西・4東	2

月	学 会 ・ 研 修 会	場 所	部 署	人数
12	成田崇矢 腰痛運動療法セミナー	香川	PT科	5
	第27回広島県理学療法士学会	Web	PT科	1
	岡山県理学療法士会第3回卒後研修会	Web	PT科	1
	腰痛運動療法セミナー	香川	PT科	2
	小野志操先生が考える腰痛の評価	Web	PT科	1
	肩関節の可動域制限と制限因子	Web	PT科	1
	市町村事業に参加協力するリハ職のステップアップ研修	岡山	ST科ST	1
	第38回倉敷市もの忘れ事例検討会	倉敷	ST科CP	3
	タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会	岡山	臨床検査部	5
	岡山心血管エコー研究会	岡山	臨床検査部	2
	日臨技中四国支部輸血細胞治療部門研修会	Web	臨床検査部	1
	心電図マイスターと一緒に読み解こう！ ～見逃したくない心電図～	Web	臨床検査部	1
	中四国ブロック血液センター輸血勉強会	Web	臨床検査部	1
	第6回岡山地方会医師事務作業補助者の教育	倉敷	秘書・広報部	5
	日本医師事務作業補助者協会岡山地方会	倉敷	秘書課	4
	婦人科HPVワクチンフォーラム in 倉敷	Web	秘書課	1
	2023年度医師事務作業補助者研修	Web	秘書課	2
	2023年度医療安全推進習慣企画 医療安全対策講習会	Web	医療安全委員会	1
	第5回医事業務研究会	岡山	医事課	2
	令和5年度看護・介護部会第2回研修会	岡山	老健	1
	岡山県老人保健施設協会栄養士部会令和5年度研修会	岡山	老健	1
	高齢者施設での看護（認知症・摂食嚥下編）	Web	老健・訪問看護	3
	感染症対策研修会	Web	特養	1
	介護人材確保推進事業キャリア形成訪問指導事業セミナー研修	岡山	特養	1
	TENAオンラインセミナー共に織る、未来への思い ～認知症とユニットケア～	Web	特養	1
	臨床実習指導者研修会	Web	OT科	2
	令和5年度生活困窮者自立支援関係機関研修会	岡山	ケアハウス	1
	令和5年度苦情解決研修	岡山	ケアハウス	1
12～1	第10回日本地域理学療法学会学術大会	Web	訪問看護	1
12月小計				61
1	第11回認知症疾患医療センター全国研修会 東京大会	Web	認知症疾患医療センター	1
	看護管理のエッセンス（2日間）	Web	外来	1
	薬の正しい使い方	Web	2階	1
	看護研究発表会（倉敷支部）	倉敷	外来・2階・3西・4西	4
	2023年度手術室・中央材料室感染対策セミナー	岡山	手術・中材	1
	肩関節リハビリテーション	岡山	PT科・OT科	4
	産業保健領域での理学療法について ―基礎から実践まで―	Web	PT科	1
	岡山県理学療法士会第4回卒後研修会	Web	PT科	1
	岡山県理学療法士会産業保健領域ネットワークセミナー	Web	PT科	1
	令和5年度岡山県災害リハビリテーション研修会	Web	PT科	1
	胸郭運動システムアプローチ講座 アドバンスコース 第1回	東京	PT科	1
	最新の肩リハビリテーション	岡山	PT科	1
	令和5年度医薬品安全管理責任者等講習会	Web	薬剤部	1
	診療放射線技師法に伴う告示研修	岡山・Web	放射線部	1
	第27回日本病態栄養学会年次学術集会	Web	栄養科	1

月	学 会 ・ 研 修 会	場 所	部 署	人数
1	ヴィアレブエキスパートセミナー 2024	Web	臨床工学科	1
	DBS基礎セミナー	Web	臨床工学科	1
	「返戻・査定」基礎研修 ～正しい診療報酬請求を行うために～	Web	医療事務部	1
	令和5年度居住支援に関わる多職種連携のための研修会	岡山	地域包括支援センター	2
	新任1～3年の職員相談会・交流会	岡山	訪問看護	1
	喀痰吸引等指導者研修	岡山	老健	1
	喀痰吸引等指導者フォローアップ研修	岡山	老健	2
	ユニットリーダー研修	岡山	特養	1
1～2	人間ドック健診情報管理指導士ブラッシュアップ研修会	Web	脳ドックセンター	2
1月小計				33
2	第13回医療に活かす医療コーチング研修会	Web	PT科・OT科	11
	西日本公式第24回ADL評価法FIM講習会	Web	PT科・OT科・ST科ST	10
	2024岡山スポーツ理学療法研修会 ～水中競技～	Web	PT科	2
	第40回神奈川県理学療法士学会	Web	PT科	1
	なぜ？が分かる臨床解剖学	Web	PT科	1
	岡山県理学療法士会第5回卒業後研修会	Web	PT科	1
	肩関節疾患に対する解剖学に基づいた治療技術	岡山	PT科	1
	岡山県作業療法学会	倉敷	OT科	10
	地域包括推進委員会 フォローアップ研修	岡山	OT科	1
	2023年度TQM実現のための医療QMS基礎講座	東京	医療安全委員会	1
	診療放射線技師法に伴う告示研修	広島・Web	放射線部	1
	タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会	岡山	臨床検査部	1
	岡山感染症セミナー	Web	臨床検査部	1
	Wako Web セミナー 甲状腺疾患の診断と治療をサポートする臨床検査	Web	臨床検査部	1
	第1回積水コアグユーザー会 ～スキマ時間セミナー～	Web	臨床検査部	7
	心電図の基礎から3歩進むセミナー	Web	臨床検査部	2
	ニッポーメディカルオンラインセミナー	Web	臨床検査部	1
	West Japan HCV Elimination Web Seminar 2024	Web	臨床検査部	1
	第11回微生物検査技術伝承セミナー	Web	臨床検査部	1
	第63回日本定位・機能神経外科学会	北海道	臨床工学科	2
	人工呼吸中のモニタリング	Web	臨床工学科	1
	国循環デバイス手術：CRT手術編	Web	臨床工学科	1
	OKAYAMA Brain Conference 2024	Web	秘書課	1
	院内肝炎ウィルス検査陽性者拾い上げの取り組み	Web	秘書課	3
	ホスピタルデザイン研究会 医療福祉の地域共創デザイン ーひと、まち、むすぶー	Web	広報課	2
	令和5年度岡山県地域包括・在宅介護支援センター協議会 新任職員基礎研修	岡山	地域包括支援センター	1
	第13回医療に活かす医療コーチング研修会	Web	予防リハ	1
	令和5年度新卒・新任訪問看護師育成事業 成果報告会	Web	訪問看護	2
	介護事業所のBCP対策4つのポイントと実践テクニック	Web	特養	1
2月小計				70
3	管理者ネットワーク研修 診療・介護報酬改定セミナー	倉敷	PT科	1
	岡山県理学療法士会南支部研修会	Web	PT科	20
	倉敷トレーナーズ協会 スポーツ疾患（肩関節）	Web	PT科	1
	解剖と精密触診の学び方	Web	PT科	1
	令和5年度岡山県理学療法士会東支部研修会	Web	PT科	10

月	学 会 ・ 研 修 会	場 所	部 署	人 数
3	第5回日本運動器理学療法超音波フォーラム	Web	PT科	1
	オンライン脳振盪セミナー	Web	PT科	1
	胸郭運動システムアプローチ講座 アドバンスコース 第2回	東京	PT科	1
	作業療法士の資質を養う「目標設定を定める予後予測の力」	倉敷	OT科	6
	日本作業療法士会令和6年度診療報酬改訂説明会	Web	OT科	1
	投球障害 組織別で紐解く肩関節	Web	OT科	1
	2024年度診療報酬 介護報酬 同時改訂のポイント ーリハビリテーション医療を中心にー	Web	PT科・OT科・ST・CP科	10
	第24回日本褥瘡学会中国四国地方会学術集会	高知	栄養科	1
	免疫検査セミナー 'EIKEN' in 中四国	Web	臨床検査部	2
	第2回積水コアグユーザ会 ～スキマ時間セミナー～	Web	臨床検査部	1
	岡山心血管エコー研究会第7回腹部エコーミーティング	Web	臨床検査部	1
	Advance Parkinson's disease Internet Live Seminar	Web	臨床工学科	1
	VTE 医療安全オンラインセミナー	Web	臨床工学科	1
	令和6年度診療報酬・介護報酬同時改定説明会	Web	医事課	1
	第16回岡山県医療情報技師会	Web	診療情報管理課	2
	第6回医事業務研究会（中堅職員研究会）	Web	診療情報管理課	1
	日本医師事務作業補助者協会研修会第14回広島地方会	福山	秘書課	1
	医師事務作業補助者協会第19回宮崎地方会	Web	秘書課	1
	令和6年度報酬改定 ～訪問看護Q & A～	Web	訪問看護	1
	令和5年度倉敷市介護保険事業者等連絡協議会 第3回	倉敷	老健	2
	日本デイケア学会第28回年次大会福岡大会	福岡	通所	1
	介護保険制度2024年度改正介護現場はどうなる？	Web	特養	1
	ハラスメント防止セミナー	倉敷	特養	1
	第5回ケアマネジャー大会	岡山	ケアプラン室	1
	2024年度改正の動向とグループホームに及ぼす影響	岡山	グループホーム	3
3～4	第39回日本臨床栄養代謝学会	Web	栄養科	2
3月小計				79
合計				686

誌上発表 一覧

掲載雑誌名 (巻・号)	出版社	発行日	タイトル	執筆者・共著者
Yonago Acta Med 66 (2) : 297-299.		2023. 4	Dramatic amelioration in serial magnetic resonance imaging in an "isolated brainstem" reversible encephalopathy syndrome case ①	Matsumoto N・Ogawa T・Hishikawa N・Takao Y・Fujii S.
PT・OT・STクリニカル クラークシップ かんたん な解説とQ & Aでお悩み 解決! きっとうまくいく 診療参加型臨床実習	南江堂	2023. 4.10	理学療法急性期のQ & A 1, 3, 4	山下 昌彦 (分担執筆) 中川 法一 (編集)
Contemporary Clinical Trials Communications (33)	ELSEVIER	2023. 6	Effect of gait training using rhythmic auditory stimulation on gait speed in older adults admitted to convalescent rehabilitation wards: A study protocol for a pilot randomized controlled clinical trial	Igusa T・Kobayashi T・Uchida H・Tsuchiya K・Akiba T・Sema S・Kaneko S・Yoshita T・Nagai S・Tanaka Y・Kikuchi S・Hirao K.
老年精神医学雑誌 第34 巻第6号		2023. 6	特集 DSM-5の臨床診断基準を用いて神経認知障害の臨床症状と対応方法を再考する パーキンソン病による認知症またはパーキンソン病による軽度認知障害 ②	涌谷 陽介
Scientific reports 13 (1)	nature portfolio	2023. 7. 7	Cranial geometry in patients with dystonia and Parkinson's disease ③	Fujikawa J・Morigaki R・Miyake K・Matsuda T・Koyama H・Oda T・Yamamoto N・Izumi Y・Mure H・Goto S・Takagi Y.
Psychology Research and Behavior Management (16)	Dovepress	2023. 7	Assessing the Smallest Detectable Change of the Kessler Psychological Distress Scale Score in an Adult Population in Japan	Uchida H・Kuroiwa C・Ohki S・Takahashi K・Tsuchiya K・Kikuchi S・Hirao K.
Neuropsychiatric Disease and Treatment (19)	Dovepress	2023. 7	Immediate Effects of Mobile Phone App for Depressed Mood in Young Adults with Subthreshold Depression: A Pilot Randomized Controlled Trial	Ejiri H・Uchida H・Tsuchiya K・Fujiwara K・Kikuchi S・Hirao K.
株式会社ファンデリー WEBメディア しっかり 栄養、パワーアップ食		2023.12.13	「しっかり食べて元気にフレイル予防」の定着を目指して	小野 詠子
メディカルリハ No.295	全日本病院出版会	2023.12.15	大腿骨近位部骨折患者への言語聴覚士の関わり ④	藤本 憲正
Parkinsonism Relat Disord 6	Elsevier	2024. 3. 6	Real-world local field potential recordings in patients with deep brain stimulation for Parkinson's disease	Fasano A・Mure H・Bick SK・Schiess M・Witt T・Kimura K・Singer A・Sannelli C・Morelli N・Oyama G; PSR Study Group.
サクセスフル食物と栄養学 基礎シリーズ11 臨床栄 養学 栗原伸公・今本美幸・ 辻秀美編著	学文社	2024. 3.30	2.7 医薬品と栄養・食事の相互作用	市川 大介

誌上発表 抄録

①Dramatic amelioration in serial magnetic resonance imaging in an “isolated brainstem” reversible encephalopathy syndrome case

倉敷平成病院 脳神経内科・神経放射線センター
Matsumoto N, Ogawa T, Hishikawa N, Takao Y, Fujii S

Posterior reversible encephalopathy syndrome (PRES) is characterized by transient vasogenic edema predominantly in supratentorial areas within the posterior circulation regions. Although PRES with only brainstem involvement is quite rare, accurate diagnosis is important because prompt antihypertensive therapy contributes to a favorable outcome. Herein, we report a case with isolated brainstem PRES showing dramatical improvement in an apparent diffusion coefficient (ADC) value of the lesion in magnetic resonance imaging (MRI) after clinical remission. The present case suggests the association between favorable clinical course and complete amelioration on MRI.

②特集 DSM-5の臨床診断基準を用いて神経認知障害の臨床症状と対応方法を再考する パーキンソン病による認知症またはパーキンソン病による軽度認知障害

倉敷平成病院 脳神経内科・認知症疾患医療センター
涌谷 陽介

パーキンソン病（PD）における非運動症状として、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、視覚性認知機能障害、情動障害、衝動制御障害、睡眠・覚醒障害、アパシー、うつ症状など、種々の認知機能・精神機能障害が出現する。これらの症状は、PDの病態自体による症状に加えて、薬剤の副反応としての症状も加わり複雑化することも多い。近年では、PDでも発症早期から何らかの認知機能障害を呈していることが注目され、PDにおける軽度認知障害（PD-MCI）の概念が提唱されるようになり、PD-MCIはPDにおける認知症（PDD）の前兆であるという知見が示されている。一方で、臨床的にも病理学的にも、さらには各種バイオマーカーの検討においても、PDDおよびPD-MCIの背景病態の多様性が指摘されるようになっている。本稿では、PDD・PD-MCIの診断基準や、最近の研究および現時点でのPDD・PD-MCIへの対処を概説する。

③Cranial geometry in patients with dystonia and Parkinson's disease

徳島大学 脳神経外科¹⁾
倉敷平成病院 倉敷ニューロモデュレーションセンター²⁾
Fujikawa J¹⁾, Morigaki R¹⁾, Miyake K¹⁾, Matsuda T¹⁾, Koyama H¹⁾, Oda T¹⁾, Yamamoto N¹⁾, Izumi Y¹⁾, Mure H²⁾, Goto S¹⁾, Takagi Y¹⁾

Abnormal skull shape has been reported in brain disorders. However, no studies have investigated cranial geometry in neurodegenerative disorders. This study aimed to evaluate the cranial geometry of patients with dystonia or Parkinson's disease (PD). Cranial computed tomography images of 36 patients each with idiopathic dystonia (IDYS), PD, and chronic subdural hematoma (CSDH) were analyzed. Those with IDYS had a significantly higher occipital index (OI) than those with CSDH ($p=0.014$). When cephalic index (CI) was divided into the normal and abnormal groups, there was a significant difference between those with IDYS and CSDH ($p=0.000$, $\alpha=0.017$) and between PD and CSDH ($p=0.031$, $\alpha=0.033$). The age of onset was significantly correlated with the CI of IDYS ($\tau=-0.282$, $p=0.016$). The Burke-Fahn-Marsden Dystonia Rating Scale motor score (BFMDRS-M) showed a significant correlation with OI in IDYS ($\tau=0.372$, $p=0.002$). The cranial geometry of patients with IDYS was significantly different from that of patients with CSDH. There was a significant correlation between age of onset and CI, as well as between BFMDRS-M and OI, suggesting that short heads in the growth phase and skull balance might be related to the genesis of dystonia and its effect on motor symptoms.

④大腿骨近位部骨折患者への言語聴覚士の関わり

倉敷平成病院 リハビリテーション部 言語聴覚科
藤本 憲正

高齢者の人口増加が進み、大腿骨近位部骨折と術後の合併症として誤嚥性肺炎が増えている。大腿骨近位部骨折と摂食嚥下障害は直接的な関係はなく、基礎疾患を多く持つなどの背景要因によってフレイル・スパイラルが進み、その結果、大腿骨近位部骨折や摂食嚥下障害をきたす。大腿骨近位部骨折の患者は術後の食事開始前後から摂食嚥下障害が増悪している可能性があり、誤嚥性肺炎予防への取り組みが必要と考えるが、疾患に対する対応が主体となる近年の診療報酬体系では、誤嚥性肺炎のリスクが高い摂食嚥

下障害者への早期対応が遅れる可能性がある。今後の取り組みとして、大腿骨近位部骨折患者の摂食嚥下障害の予測精度を上げるスクリーニング検査、術後早期から専門的な介入による適切な食事形態や姿勢を含めた環境調整などの対応が必要と考え、運動器疾患も医師の指示のもと看護師と言語聴覚士の連携が図れるような体制が必要と考える。

第30回全仁会研究発表大会（2023年11月27日・28日 @Zoom配信）

賞	演 題 名	発 表 者	部 署 名
理事長賞	当グループ職員の職業性腰痛の実態調査	川元 康平	リハビリテーション部PT科
優 秀 賞	在宅生活を続けていくために ～お悩み解決プロジェクト～	東郷 純平	ケアセンターショートステイ
審査委員長賞	通所リハビリテーションにおける軽度認知障害（MCI）に対する認知症予防の取り組み ◎	立花 光	予防リハビリ・通所リハビリ
実行委員長賞	ベトナム技能実習生の受入れに関する取り組み	江口 美樹	老健
ベストプレゼン賞	糖尿病患者における大腰筋体積の持続可能な利用法の考察 ～すべての人に健康と福祉を～（Good Health and Well-Being）	丸中 絢太	放射線部
	待ち時間有効活用の取り組み ～事務職員としてできるSDGs～	妹尾 愛梨	医事課・診療情報管理課
	地域から求められる当院の役割について ～救急紹介件数UPを目指して～	堀口 貴司	地域医療連携センター
	エネルギー資源を大切に ～電気の使用量を抑え、入居者が快適に過ごせる取り組み～	下垣菜衣子	（有）ヘイセイ・グランドガーデン南町
	満足度の高いサービスの提供を目指して ～利用者や家族との目標設定～	井川 恵	訪問看護ステーション
	患者ごとに適した服薬管理方法の検討 ～内服自己管理に向けた支援～	青木 美磨	薬剤部・3東病棟・3西病棟
	職員の子宮がん検診受診率向上を目指して ～全仁会女性職員の健康に繋げるために～	井上由香利	脳ドックセンター
	安全な手術環境の実現 ～病棟・手術室連携強化～	高須賀功喜	2階・手術・中材・臨床工学科
	活き活きと働き、よりよい看護を提供するために。人生100年時代。私たちの健康について考える。	仮谷 まみ	外来
	ケアハウス入居者の意欲向上を目指して	齋藤 大樹	ケアハウス
	ケアマネジャーの職業ストレスの実態とストレスマネジメント能力向上について	森脇美恵子	支援センター・南町ケアプラン室・ケアプラン室
	回復期リハビリテーション病棟におけるFunctional Independence Measureの臨床的に意味のある変化の値の調査	白川 智章	リハビリテーション部OT科
	入居者と笑い合える介護現場を目指して ～不適切ケアゼロへの取り組み・職場のSDGs～	畠尾 洸行	特養ピースガーデン
	より住みやすい生活をしていただくために ～立地・環境の良さを生かした観光案内集の作成～	鎌野 倫子	ローズガーデン倉敷
	全仁会における時期別の自動車運転支援	三澤 開	リハビリテーション部ST科
	社会医療法人の紙の使用率とペーパーレス化について	八島 遼	総務部
	お待たせしません！ ～患者もスタッフも安心するために～	打田 渚	4東西病棟
	高齢者の骨格筋量の把握 ～血液検査値からの骨格筋推定式の有効性に関する検討～	船橋祐加利	臨床検査部・栄養科

◎ 第13回日本認知症予防学会学術集会 2024年9月27日（金）～29日（日）にて演題発表

外部講演

年 月 日	演 題	講 演 者	講演会名	場所	主 催
2023. 4.21	ニューロモデレーションセンサーにおいてリハビリテーション専門職が関わることの臨床的および教育的意義	山下 昌彦	第1回ニューロモデレーション他施設情報交換会	Web	倉敷平成病院
	視床下核の活動からみる理学療法 の即時効果	新免 利郎			
2023. 5.15	高齢者の嚥下障害、褥瘡	小野 詠子	ノートルダム清心女子大学講義	ノートルダム清心女子大学	ノートルダム清心女子大学
2023. 5.22	アダプティブDBSの臨床像について	牟礼 英生	岡山県PD講演会 ～Device Aided Therapyの過去・現在・未来～	岡山国際ホテル・Web	アッヴィ合同会社
	個々の症例に適切なDAT療法を考える（ディスカッション）	菱川 望			
2023. 5.22	難聴についての健康教室	木村 仁美	地域支援事業	吉備中央町 ふれあい荘	岡山県リハビリテーション専門職団体連絡会
2023. 6.10	NeurosphereVC™ Virtual Clinicの使用経験	高須賀功喜	BurstDR Users Seminar in Hiroshima	広島市TKP広島本通駅前カンファレンスセンター	アボットメディカルジャパン
2023. 6.18	認知症診療の実践セミナー 2023 認知症診療の実践 ～問診と神経学的診察～	涌谷 陽介	第65回日本老年医学会学術集会	パシフィコ横浜 ノース・アネックス	（一社）日本老年医学会
2023. 6.18	失語症と合併しやすい言語障害について	藤本 憲正	失語症者向け意思疎通支援者養成講座（専門講座）	Web	岡山県
2023. 6.18	摂食・嚥下障害およびその他の疾患を持つ方への対応	平垣義志也	失語症者向け意思疎通支援者養成講座（専門講座）	Web	岡山県
2023. 6.18	失語症と他の高次脳機能障害の症状と対応	尾高 幸司	失語症者向け意思疎通支援者養成講座（専門講座）	Web	岡山県
2023. 6.22	QOLを考慮したパーキンソン病治療ーラサギリンが貢献できることー	菱川 望	Parkinson's Disease Web Seminar	Web	武田薬品工業株式会社
2023. 7. 9	失語症のある人の日常生活のニーズ	藤本 憲正	失語症者向け意思疎通支援者養成講座	サンライフ笠岡	岡山県
2023. 7. 9	派遣事業と意思疎通支援者の業務	尾高 幸司	失語症者向け意思疎通支援者養成講座	健康福祉プラザ	岡山県
2023. 7.12	正常圧水頭症の長期経過中に比較 的急速な認知機能の悪化や幻視を 認めた症例からの考察	涌谷 陽介	第29回倉敷神経内科懇話会	倉敷中央病院 大原記念ホール	
2023. 7.15	コミュニケーション支援技法	平垣義志也	失語症者向け意思疎通支援者養成講座	健康福祉プラザ	岡山県
2023. 7.15	コミュニケーション支援技法	岡川 真歩	失語症者向け意思疎通支援者養成講座	健康福祉プラザ	岡山県
2023. 7.15	外出同行支援	尾高 幸司	失語症者向け意思疎通支援者養成講座	サンライフ笠岡	岡山県
2023. 7.18	心負荷・心不全と脳梗塞後の長期 の再発や予後	芝崎 謙作	ARNI 高血圧 Web Symposium ～脳卒中における血圧管理 Up To Date～	ホテルグランヴィア岡山	大塚製薬
2023. 7.21	WaveWriter Alpha使用経験 ～脳神経外科の立場から～	牟礼 英生	Essence of SCS by FAST & Contour	リファレンス大阪駅前第4ビル	ボストンサイエンティフィック ジャパン株式会社
2023. 7.23	コミュニケーション支援技法	中川 裕登	失語症者向け意思疎通支援者養成講座	健康福祉プラザ	岡山県

年 月 日	演 題	講 演 者	講演会名	場 所	主 催
2023. 7.30	前十字靱帯損傷術後の競技復帰 ～野球選手を例にして～	川元 康平	定期セミナー	Web	若手セラピストの学校
2023. 7.31	薬と食品（栄養素）との相互作用	市川 大介	ノートルダム清心女子大学・ 特別講義、人間生活部食品栄養 学科3年生	ノートルダム清 心女子大学	ノートルダム清心女子 大学
2023. 8. 3	高齢者の薬物治療における気づき	本田 尚也	第57回高齢者のお薬を考える 会	Web	高齢者のお薬を考える 会・岡山県病院薬剤師 会・岡山県薬剤師会
2023. 8.19	2足の草鞋で働く理学療法士	川元 康平	医療職100人カイギ	Web	医療職100人カイギ
2023. 9. 2	不随意運動症に対するニューロモ デュレーション治療の進歩	牟礼 英生	第13回難病と福祉の医療講演 会	静岡市番町市民 活動センター	静岡市難病障害者協議 会
2023. 9. 6	医療安全を学ぶ事の大切さ	加納 由美	医療安全（統合分野）	倉敷翠松高校専 攻科1年	倉敷翠松高校
2023. 9.13	事故防止の考え方を学ぶ	加納 由美	医療安全（統合分野）	倉敷翠松高校専 攻科1年	倉敷翠松高校
2023. 9.17	認知症予防専門医スキルアップセ ミナー 画像（実践編）	涌谷 陽介	第12回日本認知症予防学会	朱鷺メッセ 新 潟コンベンショ ンセンター	日本認知症予防学会
2023. 9.20	患者に投与する業務における事故 防止	加納 由美	医療安全（統合分野）	倉敷翠松高校専 攻科1年	倉敷翠松高校
2023. 9.27	患者さん目線の適切な片頭痛治療	高尾 芳樹	エムガルティ 第3回くらし き頭痛を考える会 ～偏頭痛 の「あたりまえ」に向き合う～	倉敷アイビース クエア・Web	くらしき頭痛を考える 会・第一三共株式会社
2023. 9.27	患者に投与する業務における事故 防止（注射）	加納 由美	医療安全（統合分野）	倉敷翠松高校専 攻科1年	倉敷翠松高校
2023.10. 1	パーキンソン病に対する外科治 療 -薬物治療も含めて-	牟礼 英生	第29回吉備脳神経外科手術 フォーラム	アークホテル岡 山	吉備脳神経外科手術 フォーラム・エーザイ 株式会社
2023.10. 4	患者に投与する業務における事故 防止（輸血）	加納 由美	医療安全（統合分野）	倉敷翠松高校専 攻科1年	倉敷翠松高校
2023.10.11	患者に投与する業務における事故 防止（経管栄養）	加納 由美	医療安全（統合分野）	倉敷翠松高校専 攻科1年	倉敷翠松高校
2023.10.18	令和5年度病院勤務の医療従事者 向け認知症対応向上研修会	涌谷 陽介	令和5年度病院勤務の医療従 事者向け認知症対応向上研修 会	岡山県医師会館 401会議室	岡山県医師会
2023.10.18	継続中の危険な医療行為の観察・ 管理における事故防止	加納 由美	医療安全（統合分野）	倉敷翠松高校専 攻科1年	倉敷翠松高校
2023.10.21	認知症の方との接し方	涌谷 陽介	倉敷市生活・介護支援サポー ター養成講座	くらしき健康福 祉プラザ2階	倉敷市社会福祉協議会
2023.10.25	高齢者運転免許外来を通して考え たこと	涌谷 陽介	岡山市認知症サポート医研修 会	岡山赤十字病院	岡山市認知症疾患医療 センター
2023.10.25	療養上の世話の事故防止・医療安 全とコミュニケーション	加納 由美	医療安全（統合分野）	倉敷翠松高校専 攻科1年	倉敷翠松高校
2023.11. 1	看護師の労働安全衛生上の事故防 止	加納 由美	医療安全（統合分野）	倉敷翠松高校専 攻科1年	倉敷翠松高校
2023.11. 8	ことばの不自由さと対応	涌谷 陽介	ぶどうの家 勉強会	ぶどうの家	ぶどうの家
2023.11.11	診療記録監査における方法の見直 しによる効果と期待	島本 博典	第7回岡山県診療情報管理研 究会	川崎医療福祉大 学・Web	岡山県診療情報管理研 究会
2023.11.11	診療参加型臨床実習に関する教育 理念と理論	山下 昌彦	診療参加型臨床実習研修会	東京家政大学	東京家政大学健康科学 部リハビリテーション 学科
2023.11.11	診療参加型臨床実習における臨床 推論を推し進める教育方法	山下 昌彦	診療参加型臨床実習研修会	東京家政大学	東京家政大学健康科学 部リハビリテーション 学科
2023.11.14	認知症の最近の話題 ～病態から 治療まで～	涌谷 陽介	第467回倉敷医師会学術講演 会	Web	（一財）倉敷医師会・ 興和株式会社

年 月 日	演 題	講 演 者	講演会名	場 所	主 催
2023.11.16	組織的な安全管理態勢への取り組み	加納 由美	医療安全（統合分野）	倉敷翠松高校専攻科1年	倉敷翠松高校
2023.11.18	診療参加型臨床実習の理論と実践	山下 昌彦	YMCA米子医療福祉専門学校臨床実習指導者会議	Web	YMCA米子医療福祉専門学校理学療法士科
2023.11.21	令和5年度病院勤務の医療従事者向け認知症対応向上研修会	涌谷 陽介	令和5年度病院勤務の医療従事者向け認知症対応向上研修会	倉敷アイビースクエア 別館フロアールコート	岡山県医師会
2023.11.21	言語聴覚士業務について	藤本 憲正	医療福祉学概論	Web	川崎医療福祉大学
2023.11.22	診療参加型臨床実習の理論と実践	山下 昌彦	びわこリハビリテーション専門職大学 臨床実習指導者会議	Web	びわこリハビリテーション専門職大学理学療法学科
2023.11.24	臨床工学技士の業務	高須賀功喜	特定非営利活動法人 医師事務作業補助者協会 32時間研修 eラーニング	東京都品川区	特定非営利活動法人日本医師事務作業補助者協会
2023.11.25	糖尿病と認知機能低下について	菱川 祐歌	第21回倉敷チーム医療研究会	倉敷市民会館	イーライリリー
2023.11.30	Local field potential を指標にしたDBS調整と薬物調整	牟礼 英生	進行性PD治療を考える会	ホテル グラン・ココエ倉敷	エーザイ株式会社
2023.12.15	脳深部刺激療法（DBS）についての基礎知識と臨床の実態について	牟礼 英生	アッヴィ合同会社レクチャーミーティング	ホテル グラン・ココエ倉敷	アッヴィ合同会社
2023.12.24	形成的評価と指導計画（各論）	山下 昌彦	認定臨床教育者Advanceコース	森ノ宮医療大学	（一社）大阪府理学療法士会生涯学習センター
2024. 1.30	難聴についての健康教室	木村 仁美	地域支援事業	日生町三軒屋会館	岡山県リハビリテーション専門職団体連絡会
2024. 2.17	岡山エリアの片頭痛の治療について	菱川 望	OKAYAMA Brain Conference 2024	岡山コンベンションセンター・Web	大塚製薬株式会社
2024. 2.17	講演補助	小亀 淑子	令和5年度第2回岡山県スポーツ指導者研修会	ビュアリティまきび	岡山県スポーツ協会
2024. 2.25	臨床実習指導の実際	山下 昌彦	臨床実習指導者ブラッシュアップ講習会	Web	（公社）日本理学療法士協会
2024. 2.25	老健職員の学術 ハジメの一步	寺中 雅智	老健職員のための研究と統計	北ふれあいセンター・Web	岡山県老人保健施設協会 学術委員・リハビリ部会 令和5年度第2回研修
2024. 2.29	水球競技の特徴と陸上トレーニング	奥田 朋樹	2024岡山スポーツ理学療法研修会 ～水中競技～	Web	岡山県理学療法士会スポーツ推進委員
2024. 3.20	講演補助	小亀 淑子	岡山県競技間交流	ジップアリーナ岡山	岡山県スポーツ協会
2024. 3.23	ABモジュールとAIA-CL2400LA使用経験	木口 直哉	免疫検査セミナー 'EIKEN' in 中四国	Web	栄研化学株式会社

座長・挨拶

年 月 日	座長・挨拶者名	講 演 会 名	場 所	主 催
2023. 4.19	青山 雅	KOWA WEB カンファレンス	Web	興和株式会社
2023. 6.10	島本 博典	第6回岡山県診療情報管理研究会 「個人情報保護法とガイダンス」	川崎医療福祉大学・Web	岡山県診療情報管理研究会
2023. 6.15	市川 大介	岡山県病院薬剤師会6月度定例学術講演会	Web	岡山県病院薬剤師会
2023. 7.22	高須賀功喜	第33回日本臨床工学会シンポジウム6 脊髄刺激療法（SCS）のすすめ	広島国際会議場	（公社）日本臨床工学技士会
2023. 8.27	上野 節子	日本医療秘書実務学会第14回全国大会	Web	川崎医療福祉大学医療福祉マネジメント学部医療秘書学科
2023. 9. 1	小野 詠子	第25回日本褥瘡学会学術集会	神戸コンベンションセンター	日本褥瘡学会
2023. 9. 9	島本 博典	第15回岡山県医療情報技師会 「シンポジウム ～新たなガイドラインへの対応に向けて」	Web	岡山県医療情報技師会
2023. 9.16	藤本 憲正	言語聴覚士の日事業	朝日医療大学校	（一社）岡山県言語聴覚士会
2023.10. 4	高尾 芳樹	岡山慢性便秘症セミナー ～神経疾患と便秘について考える～	Web	持田製薬株式会社
2023.11.17	大根 祐子（座長）	第26回くらしき脳卒中地域連携の会学術集会	倉敷スイートホスピタル・Web	くらしき脳卒中地域連携の会
2023.11.30	高尾 芳樹	進行期PD治療を考える会	Web	エーザイ株式会社
2024. 1.25	青山 雅	DiaMond Seminar in 岡山	Web	住友ファーマ株式会社
2024. 1.27	山下 昌彦	クリニカル・クラークシップ研修会実践報告	Web	（一社）日本リハビリテーション臨床教育研究会
2024. 2.17	高尾 芳樹	OKAYAMA Brain Conference 2024	Web	大塚製薬株式会社
2024. 3. 9	涌谷 陽介	市民公開講座第21回もの忘れフォーラム	倉敷健康福祉プラザ	川崎医科大学附属認知症疾患センター・倉敷平成病院認知症疾患医療センター
2024. 3.10	山下 昌彦	認定臨床教育者Masterコース	Web	（一社）大阪府理学療法士会生涯学習センター

講演主催

年 月 日	タ イ ト ル	演 題 名	講 演 者 名	形 式
2023. 9. 9	第33回看護セミナー 「医療者のメンタルヘルスケア ～人生100年時代を担うために～」	話題提供：当院のメンタルヘルスに関する課題	岡本なおみ	救急棟4階会議室（参加者100名）とZoomのハイブリッド開催
		特別講演：医療従事者のためのメンタルヘルスと「傾聴する力」をアップする法	森山 佐恵（生活習慣研究所 所長／看護師）	
2023.10.21	第36回神経セミナー 「ここまで進んだ！神経疾患の最新治療」	神経疾患の新しい治療法 片頭痛から難病、アルツハイマー病	石浦 浩之（岡山大学学術研究院医歯薬学域 脳神経内科 教授）	・感染対策のため参加者約100名限定で講演（救急棟4階会議室） ・2023.11.6～YouTubeにて動画公開
2023.11. 5	第58回のぞみの会 「元気で人生100年時代の地域医療～全仁会の継続ケア～」	生活習慣病と動脈硬化～CTの有用性～	岩崎孝一朗	・参加者200名限定。 ・手術室見学(限定30名)実施。 ・昼食の配布、午後のふれあい広場は無し。
		全仁会のトータルヘルスケア	高尾聡一郎	

講演共催

令和5年度「わが街健康プロジェクト。」は感染対策のため参加者を100名に限定し、通常よりも小規模な形で3年ぶりに講演会を開催。後日、その様子を公式YouTubeチャンネル『わがプロチャンネル』で配信した。

年 月 日	タ イ ト ル	演 題 名	講 演 者 名	会 場	参 加 者	人数
2023. 5.23	わが街健康プロジェクト。 ～心かけよう地域医療～ love our community ～ 再会記念講演会	「コロナ禍を経て考えるこ れからのけんしん」	斧澤 克乃（倉敷成人病セ ンター 健診診療部門 婦 人科部長）	倉敷市民会館	事務	1
2024. 3. 7	わが街健康プロジェクト。 ～心かけよう地域医療～ love our community ～ 2024年春講演会	「高齢者の脳と認知症につ いて」	神原 啓和（児島聖康病院 副院長）	倉敷市民会館	地域医療連携 センター	1
		「認知症初期集中支援チー ムからの情報提供」	平尾 麻里（藤戸クリニッ ク 医療統括師長）			

※公式YouTubeチャンネル『わがプロチャンネル』
 2023. 7.21 「わがプロチャンネル#8 乳がん検診について」
 2024. 3.29 「わが街健康プロジェクト。2024年春講演会」
 その他、公式ラジオ番組「love our community ～わが街のわー」バックナンバー

主 催：わが街健康プロジェクト。事務局
 共催医療機関：AOI倉敷病院、川崎医科大学附属病院、倉敷記念病院、倉敷市立市民病院、倉敷スイートホスピタル、倉敷成人病センター、倉敷第一病院、
 倉敷中央病院、倉敷平成病院、倉敷リハビリテーション病院、倉敷中央病院リバーサイド、グリーン在宅クリニック、児島聖康病院、児
 島中央病院、重井医学研究所附属病院、しげい病院、玉島中央病院、チクバ外科・胃腸科・肛門科病院、茶屋町在宅診療所、つばさクリ
 ニック、藤戸クリニック、松田病院、水島協同病院、水島第一病院、水島中央病院（25機関）
 ※倉敷市立市民病院は10月末で退会
 後 援：倉敷市、倉敷商工会議所、2023年度高梁川流域連携中枢都市圏事業

勉強会（職員向け）

年 月 日	勉強会 名	参加人数	テ ー マ	講 演 者
2023. 4. 4	認知症サポーター養成講座	52	認知症サポーターの養成	涌谷 陽介
2023. 4.17	ニューロモデレーション看護研修	13	SCS療法について	牟礼 英生
2023. 5. 1 ～ 22	介護系職員向け勉強会（書面開催）	5	フィジカルアセスメント	横内 淳一
2023. 5.13	ニューロモデレーション看護研修	10	SCSデバイスシステム	樽井 慎
2023. 5.25	脳卒中看護コース（初級）	21	神経学的所見	山本 理奈・西谷 香梨
2023. 6. 1	介護系職員向け勉強会	17	接遇（アンガーマネジメント）	塚本 秀之・大嶋 亜季
2023. 6.22	脳卒中看護コース（初級）	16	見逃してはいけない神経症状	荒木 典子・三宅 栄美
2023. 7 ～ 18	介護系職員向け勉強会（書面開催）	5	認知症	淵本真由美・畑 ひかる 小野 都
2023. 7. 6	新人研修 輸液管理	28	輸液・シリンジポンプ勉強会	高須賀功喜・畠中 雅崇
2023. 7. 6	2023年度第1回医薬品安全講習会	40	輸液の安全使用について	市川 大介
2023. 7.20	新人研修 酸素療法	28	酸素療法勉強会	高須賀功喜・畠中 雅崇
2023. 7.27	脳卒中看護コース（初級）	20	NIHSS	榎田 茜・西谷 香梨
2023. 8. 1 ～ 15	介護系職員向け勉強会（書面開催）	4	糖尿病	佐藤 諒弥
2023. 8. 1 ～ 15	介護系職員向け勉強会（書面開催）	5	整形疾患	山本 紗弓・上松 実岐 徳重 智美
2023. 8. 9	心電図モニター研修会	31	モニター心電図について	日本光電工業株式会社 田邊 宏志
2023. 8.21	新人看護職員研修	28	当院で行われる臨床検査概論	藤田 昌美
2023. 8.24	脳卒中看護コース（初級）	20	脳梗塞	芝崎 謙作・向 美香 田中 宏枝
2023. 9. 1 ～ 15	介護系職員向け勉強会（書面開催）	11	フィジカルアセスメントについて	本田 翔平・赤木 信也
2023. 9.25	2023年度第2回医薬品安全管理講習	370	麻薬の取扱いと使用上の注意	市川 大介
2023. 9.27	令和5年度倫理事例研修会	72	臨床倫理の基礎	日本臨床倫理学会 副理事長 稲葉 一人
			事例発表：身体抑制緩和に苦慮した事例	4階西病棟
			事例発表：本人の真の意向に寄り添う事の 難しさを感じた事例	南町ケアプラン室
2023. 9.28	脳卒中看護コース（初級）	21	脳出血	重松 秀明・那須 裕美 坂本恵里香
2023. 9.29	令和5年度上期医療安全・感染対策法令研修	72	感染相互チェックの結果報告	増田 勝巳
			医療現場における5S活動への取り組み	加納 由美
2023.10. 1 ～ 15	介護系職員向け勉強会（書面開催）	169	業務継続計画（BCP）について	西本 純子・井戸 将人 木田 宏美・清水 美樹
2023.10.16	介護系職員向け勉強会	24	インフルエンザ	ピースショーツステイ特 養
2023.10.28	令和5年度新入職員6ヶ月目フォローアップ 研修	49	ペーパータワーチャレンジ 他	人事部
2023.10.30 ～ 11.12	令和5年度骨粗鬆症研修	147	骨粗鬆症とは	小野 詠子
2023.11. 1 ～ 24	介護系職員向け勉強会（書面開催）	5	脳血管疾患	吉原 健二・城鼻 里奈 岡本 尚之
2023.11. 2	脳卒中看護コース（初級）	16	くも膜下出血	重松 秀明・北崎 鈴子

年 月 日	勉 強 会 名	参加人数	テ ー マ	講 演 者
2023.11. 9	介護系職員向け勉強会	6	事例検討	鮫島 雅史
2023.11.22	脳卒中看護コース（初級）	18	脳卒中における検査・画像・診断	藤田 昌美・穴井 里恵
2023.11.22	脳卒中看護コース（初級）	18	脳卒中患者に行われるベーシックな検査・画像・診断の基本	清水 光春・藤田 昌美 穴井 里恵
2023.12. 1 ～ 15	介護系職員向け勉強会（書面開催）	5	介護過程について	小峠 勝己
2023.12. 1 ～ 24	介護系職員向け勉強会（書面開催）	16	介護保険	岡本 雄貴
2023.12. 7	骨粗鬆症チーム薬剤説明会	20	骨粗鬆症治療薬「オスタバロ皮下注カートリッジ」	帝人ファーマ株式会社
2023.12.12	地域密着型特別養護老人ホーム ピースガーデン施設内研修会	24	認知症	秋山 仁・村上 心花
2023.12.12	地域密着型特別養護老人ホーム ピースガーデン施設内研修会	24	ケアプラン	佐々木智恵美
2023.12.13	薬剤説明会	30	血糖測定用穿刺具「アキュチェックピコ」	ロシュ DCジャパン株式会社
2023.12.21	脳卒中看護コース（初級）	8	脳卒中患者への薬物治療	市川 大介
2023.12.21	脳卒中看護コース（初級）	16	脳卒中に使用する薬剤	市川 大介
2024. 1. 1 ～ 15	介護系職員向け勉強会（書面開催）	6	嚥下障害	角南美香子・篠田 春恵 秋山由紀子
2024. 1. 1 ～ 20	介護系職員向け勉強会（書面開催）	14	介護観について	國守 孝江・福島 聡実
2024. 1.15	川崎医科大学附属病院・倉敷平成病院抗菌薬 適正使用チーム連携症例検討会	13	(1) 当院のAST「抗菌薬適正使用チーム」 の活動について (2) 膵臓癌胆管ステント留置後患者で血 小板減少のため抗菌薬投与を繰り返 した一例	荒木 加苗 (1) 古谷 佳美 (2)
2024. 1.25	脳卒中看護コース（初級）	13	高次脳機能障害 その①	細田 尚美
2024. 1.26	薬剤説明会	50	アルツハイマー型認知症治療薬 「レケンピ点滴静注」	エーザイ株式会社
2024. 2. 1 ～ 20	介護系職員向け勉強会（書面開催）	12	リーダーシップについて	松川 大樹
2024. 2. 1 ～ 25	介護系職員向け勉強会（書面開催）	6	プリセプターシップ	佐藤 希望
2024. 2.22	脳卒中看護コース（初級）	15	脳卒中のリハビリテーション	近藤 洋
2024. 2.26	接遇勉強会	54	電話対応	日本接遇教育協会 理事 うぐ森まる美
2024. 3. 1 ～ 15	介護系職員向け勉強会（書面開催）	172	コンプライアンスについて	石橋 美穂・赤木 法子 須増 智美
2024. 3. 2	令和5年度新入職員12ヶ月目フォローアップ 研修	49	全仁会のコマーシャルを作ろう 他	人事部
2024. 3.12	薬剤説明会	20	RSウイルスワクチン 「アレックスビー筋注用」	GSK株式会社
2024. 3.21	脳卒中看護コース（初級）	13	脳卒中の合併症	向 美香
2024. 3.29	令和5年度下期医療安全・感染対策法令研修	54	自分の感染対策を振り返り、正しく実践する	細田 尚美
			不用意な一言	穴井 里恵

勉強会・公開講座・健康教室（一般向け）

年 月 日	勉 強 会 名	場 所	参加人数	テ ー マ	講 演 者
2023. 4.11	元気教室「家族介護」	倉敷西公民館	20	高齢者支援センターの紹介 フットケアについて	木村 郁美・高尾 聖子
2023. 4.18	元気教室「家族介護」	倉敷労働会館	23	高齢者支援センターの紹介 フットケアについて	木村 郁美・高尾 聖子
2023. 4.27	サロン支援	並木町公民館	15	熱中症・暑熱順化について	高尾 聖子・岡本 寿子
2023. 5. 9	元気教室「介護予防」	倉敷西公民館	23	運動でフレイルを予防しよう	白神 侑祐・佐藤 希望
2023. 5.16	元気教室「介護予防」	倉敷労働会館	29	運動でフレイルを予防しよう	白神 侑祐・佐藤 希望
2023. 5.20	第1回岡山県栄養士会医療事業部研修会	済生会病院	50	事例発表「栄養情報提供書の作成」	小野 詠子
2023. 6.13	元気教室「介護予防」	倉敷西公民館	24	フレイル予防・時間栄養学	小野 詠子
2023. 6.20	元気教室「介護予防」	倉敷労働会館	25	フレイル予防・時間栄養学	小野 詠子
2023. 6.29	第37回倉敷もの忘れ・認知症事例検討会	ライフパーク倉敷	37	本人の行動に対して、家族は困っていないが地域が困っている事例	涌谷 陽介
2023. 7.16	失語症支援者養成講座	倉敷福祉プラザ	20	身体介助の方法	新崎佐江子
2023. 7.27	サロン支援	東八王寺公民館	13	脱水と熱中症のおはなし	平松 和晃
2023. 8. 5	あゆみの会食育クッキング	就実女子大学	10	晩期合併症の予防につながる食習慣の定着を目指した食育行動	小野 詠子
2023. 8. 8	サロン支援	老松ふれあい会館	15	高齢者の脱水のおはなし	小笠原奈津美・寺中 亜耶
2023. 8.24	サロン支援	並木町公民館	10	高齢者の脱水のはなし・リズム体操	坂井田美枝・黒坪 磨
2023. 9.12	転倒骨折予防教室	倉敷西公民館	20	体力測定と運動	白神 侑祐
2023. 9.19	転倒骨折予防教室	倉敷労働会館	30	体力測定と運動	白神 侑祐・鈴木夏七絵
2023. 9.19	元気教室「転倒骨折」	倉敷労働会館	25	自分の身体を知ろう	白神 侑祐
2023.10.13	転倒骨折予防教室	新田団地公民館	10	転倒予防に必要な運動・体操	白神 侑祐
2023.10.17	元気教室「転倒骨折」	倉敷労働会館	22	転倒・骨折を防ごう ～栄養・日常生活について～	小野 詠子・赤松 瞳
2023.10.21	生活・介護支援サポーター養成講座2023	倉敷健康福祉プラザ 201研修室	80	認知症の方との接し方について	涌谷 陽介
2023.10.24	元気教室「転倒骨折」	倉敷西公民館	26	転倒・骨折を防ごう ～栄養・日常生活について～	小野 詠子・赤松 瞳
2023.10.31	サロン支援	八王寺公民館	18	高齢者の夜間頻尿について	小笠原奈津美
2023.11. 1	転倒骨折予防教室	向山公民館	15	転倒予防に必要な運動・体操	白神 侑祐
2023.11.14	元気教室「転倒骨折」	倉敷西公民館	24	運動で転倒・骨折を予防しよう	白神 侑祐
2023.11.14	転倒骨折予防教室	倉敷西公民館	20	転倒予防に必要な運動・体操	白神 侑祐
2023.11.21	元気教室「転倒骨折」	倉敷労働会館	23	運動で転倒・骨折を予防しよう	白神 侑祐
2023.11.21	転倒骨折予防教室	倉敷労働会館	30	転倒予防に必要な運動・体操	白神 侑祐
2023.11.26	おかやま糖尿病サポーター認定研修会	倉敷中央病院研修センター	50	糖尿病食療法の基本	小野 詠子
2023.12. 8	第38回倉敷もの忘れ・認知症事例検討会	くらしき健康福祉プラザ	46	〔認認介護〕にどう向き合っていくか ～私たちにできることを考えよう～	涌谷 陽介
2023.12.12、 2024. 1. 9、 1.23	保育園コオーディネーション事業	清心保育園	20	保育園でのコオーディネーショントレーニング指導	川元 康平
2023.12.12、 12.26、 2024. 1.16	保育園コオーディネーション事業	清心保育園	20	保育園でのコオーディネーショントレーニング指導	奥田 朋樹
2023.12.14	サロン支援	東八王寺公民館	21	おかえりシール啓発 夜間頻尿について	平松 和晃

年 月 日	勉 強 会 名	場 所	参加人数	テ ー マ	講 演 者
2023.12.28	サロン支援	並木町公民館	14	棒体操・嚥下、誤嚥性肺炎について	小笠原奈津美・黒坪 磨
2024. 1. 4 ～ 31	第9クール（Web配信） 第3回家族教室	Web配信	26	心理	仁科 沙耶
2024. 1.16	元気教室「家族介護」	倉敷労働会館	23	介護保険を学びましょう	坂井田美枝・平松 和晃
2024. 1.23	元気教室「家族介護」	倉敷西公民館	23	介護保険を学びましょう	坂井田美枝・平松 和晃
2024. 1.30	地域サロン勉強会	老松ふれあい会館	20	筋力を鍛えて転倒予防	白神 侑祐
2024. 2.20	元気教室「栄養改善」	倉敷労働会館	22	食事でフレイル予防	小野 詠子
2024. 2.20	サロン支援	老松ふれあい会館	12	フレイルについて 健康寿命を 延ばして生き生きと！ ～介護予防のために～	坂井田美枝・平松 和晃
2024. 2.27	元気教室「栄養改善」	倉敷西公民館	25	食事でフレイル予防	小野 詠子
2024. 3.12	元気教室「介護予防」	倉敷西公民館	21	棒体操や座談会でリフレッシュ	小笠原奈津美
2024. 3.19	元気教室「介護予防」	倉敷労働会館	14	棒体操や座談会でリフレッシュ	小笠原奈津美

スポーツメディカルサポート

(競技大会)

年 月 日	大 会 名	帯 同 者	場 所	主 催
2023. 4. 2	フェンシング競技2023ひろしま平和カップ (大会医務主任)	濱田 智	エフビコアリーナふくやま	広島県フェンシング協会
2023. 4.29	ヒーローズフレンドシップラグビーフェスティバル@山口	塩津沙代子	山口きらら博記念公園	NPO法人ヒーローズ
2023. 5. 3 ～ 4	第17回四国中央市長杯ラグビー大会	塩津沙代子	スカイフィールド富郷	四国中央市
2023. 5.12 ～ 14	令和5年度中国高等学校ハンドボール選手権大会	小畑 貴章	シシンヨーオークアリーナ	中国高等学校ハンドボール協会
2023. 5.21	第32回岡山社会人・学生7人制ラグビー大会	塩津沙代子	美作サッカーラグビー場	岡山県ラグビーフットボール協会
2023. 6. 3	令和5年度全国高等学校総合体育大会 バスケットボール競技大会岡山県予選会	小畑 貴章	ジップアリーナ岡山	岡山県高等学校体育連盟
2023. 6. 4	第62回岡山県高等学校総合大会	小亀 淑子	ジップアリーナ岡山	岡山県高等学校体育連盟
2023. 6.25	第16回関西ミニ・ラグビージャンボリー交流大会	塩津沙代子	兵庫県淡路島佐野運動公園	日本ラグビーフットボール協会・関西ラグビーフットボール協会
2023. 7. 4 ～ 6	全国中学校ソフトボール大会中国ブロック大会 (新見市立新見第一中学校帯同)	川元 康平	米子市民球場	中国ソフトボール協会
2023. 7.13 ～ 16	第71回中国高等学校選手権水泳競技大会兼令和5年度全国高等学校総合体育大会中国予選会	奥田 朋樹	小島マリナプール	中国五県水泳連盟
2023. 7.15	倉敷交流会	塩津沙代子	水島緑地福田公園サッカーラグビー場	倉敷市スポーツ振興協会 ラグビー部
2023. 7.24 ～ 29	令和5年度全国高等学校総合体育大会ハンドボール競技	小畑 貴章	函館アリーナ	全国高等学校体育連盟
2023. 8. 1 ～ 12	令和5年度全国高等学校総合体育大会（新体操）	小亀 淑子	真駒内セキスイハイムアリーナ	全国高等学校体育連盟
2023. 8.14 ～ 21	令和5年度全国高等学校総合体育大会（水泳競技 水球）	奥田 朋樹	札幌市平岸プール	全国高等学校体育連盟
2023. 8.18 ～ 20	全国中学校ソフトボール大会（新見市立新見第一中学校帯同）	川元 康平	丸亀土器川公園ソフトボール場	日本ソフトボール協会
2023. 8.25 ～ 27	第77回国民体育大会中国ブロック大会（ハンドボール）	小畑 貴章	麒麟ビバレッジ周南総合スポーツセンター	日本スポーツ協会
2023. 9. 2	ヒーローズフレンドシップラグビーフェスティバル@倉敷	塩津沙代子	水島緑地福田公園サッカーラグビー場	NPO法人ヒーローズ・倉敷市スポーツ振興協会 ラグビー部
2023. 9.14 ～ 16	燃ゆる感動がごしま国体 特別国民体育大会（新体操）	小亀 淑子	鹿児島アリーナ	公益財団法人 日本スポーツ協会 文部科学省 鹿児島県
2023. 9.23 ～ 24	第27回中四国ジュニアラグビー U-15大会	塩津沙代子	中国電力坂グラウンド	関西ラグビーフットボール協会
2023. 9.30	SEINAN ラグビーマガジンCUP 関西ミニ・ラグビー大会	塩津沙代子	奈良県橿原市運動公園	関西ラグビーフットボール協会
2023.10. 7 ～ 11	燃ゆる感動がごしま国体 特別国民体育大会	平川 宏之	白波スタジアム（鹿児島県立鴨池陸上競技場）他	公益財団法人 日本スポーツ協会 文部科学省 鹿児島県
2023.10.28	ウインターカップ 令和5年度第76回全国高等学校バスケットボール岡山予選会	小畑 貴章	操山高等学校	岡山県バスケットボール協会

年 月 日	大 会 名	帯 同 者	場 所	主 催
2023.11. 2	岡山マラソン2023	妹尾 祐希・清水 萌香 小畑 祐斗・新田 尚輝 澤田 美奈	岡山県総合グラウンド	岡山陸上競技協会
2023.11. 3	ミニラグビーフェス in 美作	塩津沙代子	美作サッカーラグビー場	岡山県ラグビーフットボール協会
2023.11. 4	ウインターカップ 令和5年度第76回全国高等学校バスケットボール岡山予選会	小畑 貴章	笠岡総合体育館	岡山県バスケットボール協会
2023.11. 4 ～ 5	第78回岡山県高等学校新人大会	小亀 淑子	倉敷青陵高校	岡山県ハンドボール協会
2023.11.18	第16回大樹生命ヒーローズカップ中国地区大会	塩津沙代子	水島緑地福田公園サッカーラグビー場	NPO法人ヒーローズ
2023.11.25	2023年度冬季国民スポーツ大会（岡山県アイスホッケー成年男子チーム 遠征帯同）	川元 康平	京都アクアリーナ	岡山県アイスホッケー連盟
2023.12. 9 ～ 10	2023年度冬季国民スポーツ大会（岡山県アイスホッケー成年男子チーム ブロック予選帯同）	川元 康平	ひろしんビックウェーブ	日本スポーツ協会
2023.12.16 ～ 17	第27回中四国ジュニアラグビージャンボリーU-14大会	塩津沙代子	徳島市球技場	関西ラグビーフットボール協会
2023.12.21 ～ 24	ウインターカップ 令和5年度第76回全国高等学校バスケットボール選手権大会	小畑 貴章	武蔵野の森総合スポーツプラザ	公益財団法人 日本バスケットボール協会
2023.12.26	岡山県高等学校ハンドボール選手権大会	小亀 淑子	きびじアリーナ	日本ハンドボール協会
2024. 1.13	第76回岡山県高等学校バスケットボール新人優勝大会	新田 尚輝	倉敷翠松高校	岡山県高等学校体育連盟
2024. 1.14	第23回中国地区ジュニアラグビー新人交流会	塩津沙代子	広島県営ラグビー場	広島県ラグビーフットボール協会
2024. 1.14 ～ 15	2023年度冬季国民スポーツ大会（岡山県アイスホッケー成年男子チーム 招待試合帯同）	川元 康平	ヘルスピア倉敷	岡山県アイスホッケー連盟
2024. 1.20	第76回岡山県高等学校バスケットボール新人優勝大会	小畑 貴章	倉敷中央高校	岡山県高等学校体育連盟
2024. 1.20	第76回岡山県高等学校バスケットボール新人優勝大会	新田 尚輝	倉敷翠松高校	岡山県高等学校体育連盟
2024. 1.27	第76回岡山県高等学校バスケットボール新人優勝大会	小畑 貴章	倉敷青陵高校	岡山県高等学校体育連盟
2024. 1.28	令和5年度春の全校中学生選手権岡山県予選会	小亀 淑子	きびじアリーナ	岡山県ハンドボール協会
2024. 1.30	第16回大樹生命ヒーローズカップ決勝大会	塩津沙代子	日産スタジアム	NPO法人ヒーローズ
2024. 1.30 ～ 2. 5	2023年度冬季国民スポーツ大会（岡山県アイスホッケー成年男子チーム 大会帯同）	川元 康平	テクノルアイスパーク八戸	日本スポーツ協会
2024. 2. 2 ～ 4	第47回全国高等学校ハンドボール選抜大会中国地区予選会	小畑 貴章	麒麟ビバレッジ周南総合スポーツセンター	日本ハンドボール協会
2024. 2. 9 ～ 11	令和5年度中国高等学校バスケットボール新人優勝大会	小畑 貴章	維新百年記念公園維新大晃アリーナ	中国バスケットボール協会
2024. 2.17	令和5年度第2回岡山県スポーツ指導者研修会	小畑 貴章	ピュアリティまきび	公益財団法人 岡山県スポーツ協会
2024. 2.21 ～ 24	第78回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会	平川 宏之	山形県山形市・上山市・最上町	公益財団法人 日本スポーツ協会 文部科学省 山形県
2024. 3. 9 ～ 10	第43回中国ミニバスケットボール大会	新田 尚輝	ジップアリーナ岡山・六番川体育館	岡山県バスケットボール協会
2024. 3.18 ～ 19	第39回全国高等学校新体操選抜大会	小亀 淑子	彩の國くまがやドーム	日本体操協会
2024. 3.23 ～ 25	第47回全国高等学校ハンドボール選抜大会	小畑 貴章	サオアリーナ	日本ハンドボール協会
2024. 3.25 ～ 29	第35回全国高等学校ボクシング選抜大会	平川 宏之	玉野市総合体育館	公益財団法人 日本ボクシング連盟

(団 体)

団 体 名	依 頼 元	期 間	ト レ ー ナ ー
岡山県ハンドボール少年女子チーム	岡山県ハンドボール協会	2013. 8. 1 ～	小畑 貴章
玉野光南高等学校女子ハンドボール部	玉野光南高等学校	2013. 4. 1 ～	小畑 貴章
関西高校水球部	倉敷市スポーツ振興協会	2016. 5. 1 ～	奥田 朋樹
岡山南高等学校女子新体操部	岡山南高等学校	2022. 4. 1 ～	小亀 淑子
倉敷翠松高等学校女子バスケットボール部	倉敷翠松高等学校	2023. 3. 1 ～	小畑 貴章
岡山県アイスホッケー成年男子チーム	岡山県アイスホッケー連盟	2023. 4. 1 ～	川元 康平
岡山工業高等学校硬式野球部	岡山工業高等学校	2023. 4. 1 ～	川元 康平
倉敷天城高等学校女子ハンドボール部	倉敷市スポーツ振興協会	2023.10. 1 ～	小亀 淑子
水島工業高等学校バトミントン部	倉敷市スポーツ振興協会	2023.11. 1 ～	本松 智哉

外部受け入れ実習

実習場所	学 校 名	実 習 期 間	人数
ニューロモデュレーションセンター	徳島大学病院脳外科（医師手術見学）	2023. 7.24	1
	吉田病院附属脳血管研究所（医師手術見学）	2023. 7.31	1
	徳島大学医学部（学生外来見学）	2023. 8.15	1
	舞鶴医療センター脳外科（医師手術見学）	2023.11.13	1
看護部	倉敷翠松高校	2023.10.16～11.24	11
	倉敷中央高校	2023.11.27～12. 7	7
	倉敷翠松高校	2023.12.11～12.22	11
		2024. 1. 8～ 3. 1	15
OT科	川崎医療福祉大学	2023. 5. 8～ 7. 1	2
	川崎リハビリテーション学院	2023. 6. 5～ 7.28	1
	川崎医療福祉大学	2023. 7.10～ 9. 2	1
	岡山医療専門職大学校	2023. 7.31～ 8.25	1
	吉備国際大学	2023. 8.21～ 9.16	1
	川崎医療福祉大学	2023. 8.29	3
		2023. 9.27	2
		2023. 9.28	2
	YMCA米子医療福祉専門学校	2024. 1.15～ 2.22	1
	玉野総合医療専門学校	2024. 1.15～ 2. 3	1
	川崎医療福祉大学	2024. 2.26～ 3. 9	2
PT科	川崎リハビリテーション学院	2023. 4. 3～ 5.26	1
	吉備国際大学	2023. 4. 3～ 5.26	1
	朝日医療大学校	2023. 5. 8～ 7. 1	1
	大阪人間科学大学	2023. 6.12～ 7.31	1
	川崎医療福祉大学	2023. 7.10～ 9. 2	1
	玉野総合医療専門学校	2023. 7.18～ 9. 9	1
	高知リハビリテーション専門職大学	2023. 7.18～ 9.20	1
	福山医療専門学校	2023. 8.21～ 8.25	1
	広島国際大学	2023. 8.28～ 9. 6	2
		2023. 9.25～11.11	1
	岡山医療専門職大学	2024. 1. 9～ 3. 8	1
	島根リハビリテーション学院	2024. 1.29～ 2.23	1
	大阪電気通信大学	2024. 2.13～ 3. 5	1
	岡山医療専門職大学	2024. 2.26～ 3. 1	2
	川崎医療福祉大学	2024. 3. 4～ 3.15	2
ST科	川崎医療福祉大学	2023. 5. 8～ 7. 8	1
	姫路獨協大学	2023. 5. 8～ 6.23	1
	川崎医療福祉大学	2023. 7.31～ 9.30	1
	県立広島大学	2023. 6.19～ 7.14	1
		2023. 9. 4～10.27	1
薬剤部	就実大学	2023. 5.22～ 8. 4	1
		2023. 7.18～ 7.19	2

実 習 場 所	学 校 名	実 習 期 間	人 数
薬剤部	就実大学	2023.10. 2	2
		2024. 1.15 ~ 1.16	2
栄養科（倉敷老健）	ノートルダム清心女子大学	2023. 6. 5 ~ 6. 9	3
		2023. 6.12 ~ 6.16	3
栄養科（倉敷平成病院）		2024. 2.19 ~ 3. 1	4
地域医療連携センター	岡山県立大学	2023. 6. 6 ~ 6.15	1
診療情報管理課	岡山情報ビジネス学院	2023. 9.25 ~ 9.29	1
		2023.10.16 ~ 10.20	1
グループホームのぞみ	倉敷中央高校	2023.10.24 ~ 10.26	2
		2023.10.30 ~ 11. 1	1
		2023.11. 6 ~ 11. 8	2
予防リハ	吉備国際大学	2024. 3. 4 ~ 3. 8	1
		2024. 3.11 ~ 3.15	1
	川崎医療福祉大学	2024. 3.25 ~ 3.29	1

購入図書

申請購入図書

タ イ ト ル (号数)	発行年月日	著 者	出 版 社
感染症プラチナマニュアルVer.8	2023. 5.10	岡 秀昭	メディカル・サイエンス・インターナショナル
国際疾病分類腫瘍学 第3.1版	2018. 7. 2	厚生労働省 (編集)	厚生労働統計協会
今日の治療薬2024	2024. 1.25	伊豆津宏二・今井 靖 桑名 正隆 寺田 智祐 (編集)	株式会社南江堂
査定・返戻対策と効果的な症状詳記 改訂10版	2022.12.28	桜井 雅彦	産労総合研究所出版部経営書院
JAID/JSC感染症治療ガイド2023	2023.12. 8	JAID/JSC感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会 (編集)	杏林舎
疾病、傷害及び死因の統計分類提要 第3巻	2016. 9.20	厚生労働省 (編集)	厚生労働統計協会
周術期管理チームテキスト 第4版	2020.12.25	日本麻酔科学会	日本麻酔科学会
手術室に配属ですか?!	2019. 3. 1	廣瀬 宗孝 (監修)	メディカ出版
新小児薬用量 改訂第9版	2021. 4.20	岡 明 木津 純子 (編集)	診断と治療社
診療点数早見表 [医科] 2023年4月版	2023. 4.19	小野 章	医学通信社
DPC点数早見表 2023年4月版	2023. 4.19	小野 章	医学通信社
糖尿病療養指導ガイドブック2023	2023. 5. 9	日本糖尿病療養指導士認定機構	メディカルレビュー社
トラブルを未然に防ぐカルテの書き方	2022.11.15	吉村 長久・山崎 祥光	医学書院
日本臨床栄養代謝学会JSPENテキストブック	2022. 9.15	日本臨床栄養代謝学会 (編集)	南江堂
乳房撮影精度管理マニュアル	2023. 2.28	日本放射線技術学会	日本放射線技術学会 出版委員会
はじめての手術看護 “なぜ” からわかる、ずっと使える!	2022. 4. 1	武田 知子 (編著)	メディカ出版
ビジュアル臨床看護技術ガイド 第3版	2023. 7.10	坂本 すが (監修)	照林社
マンガでわかる最新看護必要度 2022年度診療報酬改定対応	2022. 5.15	筒井 孝子	ヴェクソンインターナショナル
薬剤師のための感染制御マニュアル 第5版	2023. 4.25	日本病院薬剤師会 (監修)	薬事日報社
臨床検査データブック 2023-2024	2023. 1.15	高久 史麿 (監修)	医学書院

定期購読雑誌

和 雑 誌	洋 雑 誌
医事業務	JAMA Neurology ※
インナービジョン	Journal of Bone & Joint Surgery ※
インфекションコントロール	Journal Of Orthopaedic Science
エキスパートナース	Neurology ※
NHK きょうの健康	Stroke ※
おはよう21	
オペナーシング	※電子ジャーナル
外来看護	
看護	
看護管理	
看護人材育成	
Clinical Neuroscience	
クリニカルリハビリテーション 臨床リハ	
月刊 薬事	
検査と技術	
作業療法ジャーナル	
整形外科	
整形災害外科	
総合リハビリテーション	
糖尿病ケア	
病院	
病院安全教育	
ブリブリ	
ブレインナーシング	
PEPARS	
ヘルスケアレストラン	
理学療法	
理学療法ジャーナル	
リハビリテーション医学	
臨床栄養	
臨床スポーツ医学	
レシビプラス	
老健	

職員旅行

日 程	コ ー ス	方面	概 要	参加人数
7月16日（日）	USJ 夏の暑さを吹き飛ばせ！貸切ルームでコース料理付きUSJツアー	大阪	USJ パーク内フルコースランチ付き、おみやげ争奪じゃんけん大会	61
8月26日（土）	大定番！都の極厚ヒレ肉でみんなフル充電ツアー	広島	福山 都あけぼの店、鉄板焼きステーキランチ、とらやの和菓子	48
9月 2日（土）	君が叙々苑と出会う旅…いわずと知れた名店突撃ツアー	広島	八天堂クリームパン作り体験、叙々苑	34
10月 7日（土）	日生のリゾート施設でプレミアムBBQ堪能ツアー	岡山	プレミアムBBQ、豪華景品付きじゃんけん大会	25
				168

所属

社医	社福	有限
157	9	2

参加職員128名、職員家族40名

性別

男	女	平均年齢（歳）
30	138	34.7

職員家族（40名）含む（4～80歳）

部活動

部活動概要（50音順）

ウクレレ部

部 長 名	都築 昌之（職種：医師）
部活動開始年月	平成21年7月
活 動 頻 度	1・2回／月
部員数(部長含む)	9名

活動実績

コロナウイルス感染対策のため活動休止していた。令和6年度より目標とする演奏ステージを設定し、練習日程を検討していきたい。

練習場所：職員食堂

練習日：火曜～木曜のうち週1回～年数回

練習時間：18：00～19：30

ゴルフ部

部 長 名	平川 訓己（職種：医師）
部活動開始年月	平成23年11月
活 動 頻 度	2回／年
部員数(部長含む)	27名

活動実績

11月23日（木・祝）第51回のぞみ杯 開催

参加人数：23名（外部業者 14名含む）

会 場：MGM MANIWA（旧 真庭カンツリークラブ）

※外部業者参加のゴルフコンペ「のぞみ杯」を2019年以来4年ぶりに開催

バスケットボール部

部 長 名	逸見 香織（職種：ケアマネジャー）
部活動開始年月	平成29年11月
活 動 頻 度	4～5回／月
部員数(部長含む)	約15名

活動実績

令和5年度は毎年開催のホスピタルカップへは不参加。

人数が集まれば、練習中にゲームや他病院との練習試合を行いたい。

練習場所：倉敷南中学校体育館

練習日：毎週土曜日

練習時間：19時～21時

バレーボール部

部 長 名	石口 奈世理（職種：医師）
部活動開始年月	昭和63年 平成11年4月
活 動 頻 度	4回／月（コロナ前）
部員数(部長含む)	13名

活動実績

令和5年度も新型コロナ感染拡大の影響で、例年参加していた大会は中止。令和6年度は状況に応じて練習を実施予定。大会も実施される予定。

練習場所：老松小学校体育館

練習日：毎週火曜日

練習時間：19時～21時

フットサル部

部 長 名	大段 祐貴（職種：理学療法士）
部活動開始年月	平成22年4月
活 動 頻 度	2～3回／月
部員数(部長含む)	約30名

活動実績

月に2～3回の練習、各種大会へも参加している。

主な練習場所：真備総合運動公園 体育館、矢掛町総合運動公園 屋外フットサルコート

時間：19時～21時（前半：練習 後半：ゲーム形式）

曜日：主に木曜、金曜（施設の空き状況により変動）

定期的に近隣病院や施設のチームと練習試合も開催。（しげい病院、倉敷記念病院、倉敷中央病院、高松アクティブホーム等）

<その他>

毎年秋に開催される老健大会（男女MIX）に向けて練習を実施。各メンバーに合わせて基礎練習も行っているため、社会人になって始めた方にも対応。

ボウリング部

部 長 名 佐分利 永（職種：事務）
部活動開始年月 平成10年1月 令和元年10月
活 動 頻 度
部員数(部長含む) 9名

活動実績

新型コロナウイルス感染拡大のため、活動なし。
感染対策に注意をし、練習のみ開催。

マラソン部

部 長 名 三宅 徹（職種：事務）
部活動開始年月 平成7年5月
活 動 頻 度 1回／年
部 員 数 約15名

活動実績

例年総社市で開催される「吉備路マラソン」に有志の職員が参加している。近年は感染対策の観点より個人での活動がメインとなっている。今後は吉備路マラソン以外の大会にも参加を検討したい。

野球部

部 長 名 金光 秀彰（職種：事務）
部活動開始年月 平成13年4月
活 動 頻 度 不定期
部員数(部長含む) 20名

活動実績

11月15日（水）倉敷中央病院との練習試合実施
会場：倉敷市営グラウンド
令和6年度は活動を再開予定（月1～2回）
活動場所：倉敷市営補助グラウンド 倉敷山陽ハイツ、酒津公園、水島緑地福田公園

ヨガ部

部 長 名 高尾 芳樹（職種：医師）
部活動開始年月 令和5年3月
活 動 頻 度 1回／月
部員数(部長含む) 10名

活動実績

練習場所：救急棟4階
練 習 日：毎月第1土曜日
練習時間：13時～（30～40分程度）
感染対策を図りながらストレス解消／運動不足解消を目的として活動。
今後はアーユルヴェーダの活動も予定。

令和5(2023)年度

委員会・会議 活動報告

1. 委員会編 (50音順)

- 1 医療ガス安全管理委員会
- 2 衛生委員会
- 3 栄養管理委員会
- 4 NST(栄養サポートチーム)
- 5 看護部)医療安全推進委員会
- 6 看護部)介護業務検討委員会
- 7 看護部)看護基準・手順委員会
- 8 看護部)看護記録委員会
- 9 看護部)教育委員会
- 10 機能評価委員会
- 11 教育研修管理委員会
- 12 業務役割分担推進委員会
- 13 クリティカルパス委員会
- 14 広報委員会
- 15 個人情報管理委員会
- 16 褥瘡・足病変対策委員会
- 17 診療録管理委員会
- 18 治験審査委員会
- 19 DPC委員会
- 20 図書委員会
- 21 認知症およびせん妄サポート委員会
- 22 年報編集委員会
- 23 防災委員会
- 24 薬事委員会
- 25 輸血療法委員会
- 26 リスクマネジメント委員会
- 27 臨床検査適正化委員会
- 28 倫理委員会
- 29 医療倫理コンサルテーションチームミーティング
- 30 レクリエーション委員会
- 31 わかりやすいやさしい医療推進委員会

2. 会議編 (50音順)

- 1 安全運転会議
- 2 医局会
- 3 医療安全週間ミーティング
- 4 医療事故防止対策会議
- 5 介護系実績検討会議
- 6 外来会議
- 7 加算算定検討会
- 8 看護部)管理職会議
- 9 看護部)実習指導者会議
- 10 看護部)主任・副主任会議
- 11 看護部)全仁会師長会議
- 12 看護部)病院師長会議
- 13 看護部・薬剤部連携ミーティング
- 14 感染対策会議
- 15 感染制御チーム(ICT)
- 16 救急運営会議
- 17 コスト検討会
- 18 コロナ会議
- 19 災害対策会議
- 20 事務当直検討会
- 21 手術室運営会議
- 22 職員全体集会
- 23 全仁会施設代表者会議
- 24 多職種みんなで考える病院実績検討会議
- 25 電話対応調整検討会
- 26 ドック診療部会議
- 27 入退院調整会議
- 28 ニューロモデレーションセンター運営会議
- 29 認知症疾患医療センター運営会議
- 30 病院管理会議
- 31 病院実績検討会議
- 32 病診連携会議
- 33 未収金検討会
- 34 理事会議
- 35 リハビリテーションセンター管理職会議

3. 全仁会4本柱 (50音順)

- 1 看護セミナー実行委員会
- 2 神経セミナー実行委員会
- 3 全仁会研究発表大会実行委員会
- 4 のぞみの会実行委員会

委員会・会議 活動報告

1. 委員会編（50音順）

1 医療ガス安全管理委員会

委員長・議長名	高尾 芳樹（職種：医師）		
設 置 年 月	平成14年4月		
開 催 頻 度	1回／年（令和6年3月25日）		
構成メンバー（委員長・議長含む）計13名			
医師：	3名	看護師：	2名
放射線技師：	1名	臨床検査技師：	1名
臨床工学技士	1名	薬剤師：	1名
事務員：	3名	外部委託業者：	1名

活動報告

令和5年度 前期医療ガス設備点検を令和5年7月27日～29日に、後期医療ガス設備点検を令和6年1月11日～13日に実施。

医療ガス安全管理委員会については、3月25日に実施

- ・医療ガス保守点検実施報告結果に関する報告
- ・医療ガス安全管理委員会運営規則修正案についての報告
- ・医療ガス日常点検報告等
- ・その他（詳細については議事録参照）

2 衛生委員会

委員長・議長名	高尾 芳樹（職種：医師）		
設置年月	平成19年7月		
開催頻度	1回／月（第3月曜日）		
構成メンバー（委員長・議長含む）計20名			
医師：	2名	看護師：	2名
リハビリスタッフ：	2名	薬剤師：	1名
放射線技師：	1名	MSW：	1名
介護福祉士：	1名	事務員：	9名
ケアマネ：	1名		

活動報告

- ・健康診断の管理、毎月の放射線障害の調査報告
- ・職場巡視の実施、危険要因の調査と対策について報告
- ・ストレスチェックの運用管理
- ・職員喫煙率調査の実施、管理報告 等

3 栄養管理委員会

委員長・議長名	都築 昌之（職種：医師）		
設置年月	昭和63年4月		
開催頻度	1回／月（第4金曜日）		
構成メンバー（委員長・議長含む）計27名			
医師：	1名	看護師：	8名
管理栄養士：	10名	介護福祉士：	1名
事務員：	1名	言語聴覚士：	1名
委託側：	5名		
※全仁会職員と給食委託業者（富士産業、ベネミール、SGクリエイト）			

活動報告

令和2年より、Skypeで開催。給食の現状把握、異物混入や食事提供ミスについての原因究明、今後の対策の検討を行い、安心、安全な食事の提供が出来るよう取り組んだ。

4 NST（栄養サポートチーム）

委員長・議長名	都築 昌之（職種：医師）		
設 置 年 月	平成16年11月		
開 催 頻 度	1回／週（毎週火曜日）		
構成メンバー（委員長・議長含む）	計24名		
医師：	2名	看護師：	6名
リハビリスタッフ：	2名	臨床検査技師：	1名
薬剤師：	3名	管理栄養士：	8名
介護福祉士：	1名	歯科衛生士：	1名

活動報告

毎週のミーティング、感染状況に応じて回診を実施。入院患者の栄養状態の把握に努め、低栄養患者の栄養状態改善に向けて早期介入し、各職種の特色をいかしたチームで取り組むことで治療効果を上げ、早期退院に向け活動した。NST稼働施設の認定更新。

5 看護部）医療安全推進委員会

委員長・議長名	加納 由美・坂井 誓子（職種：看護師）		
設置年月	平成16年4月		
開催頻度	1回／月（第4木曜日）		
構成メンバー	（委員長・議長含む）計25名		
看護師：	21名	介護福祉士：	4名

活動報告

院内ラウンド（1回／月）を実施し改善策の検討・修正
KYT研修の企画・運営（1回／年）新人職員へは集合研修
を実施、その他の職員については集合研修開催困難のため
各部署で実施

6 看護部）介護業務検討委員会

委員長・議長名 川上 徳子（職種：介護福祉士）
設置年月 平成13年4月
開催頻度 1回／月（第4水曜日）
構成メンバー（委員長・議長含む）計7名
介護福祉士： 7名

活動報告

- ・介護記録の充実を図り、多職種連携に努めた。
- ・介護業務の統一化、業務改善を行った。

7 看護部）看護基準・手順委員会

委員長・議長名 田辺 美紀子（職種：看護師）
設置年月 平成23年4月
開催頻度 1回／月（第3月曜日）
構成メンバー（委員長・議長含む）計15名
看護師： 15名

活動報告

- ・看護基準手順の新規作成および定期的な見直し修正
- ・院内関連マニュアルとの整合性のチェック
- ・修正後手順の周知徹底と看護業務の統一

8 看護部）看護記録委員会

委員長・議長名 北崎 鈴子（職種：看護師）
設置年月 平成25年2月
開催頻度 1回／月（第2木曜日）
構成メンバー（委員長・議長含む）計17名
看護師： 17名

活動報告

- ・ミニ監査（質的監査／形式監査）
- ・各部署へのフィードバック、各部署で対策立案・実施
- ・看護記録の充実と時間短縮、定型文作成
- ・各部署で委員を中心として記録向上UPカンファレンスを開催
- ・記録の見直し、必要時フォーマット修正

9 看護部）教育委員会

委員長・議長名 池元 洋子（職種：看護師）
設置年月 平成4年4月
開催頻度 1回／月（第1金曜日）
構成メンバー（委員長・議長含む）計21名
看護師： 18名 介護福祉士： 3名

活動報告

- ・新人入職時研修、新人看護師集合研修
- ・経年別研修、チューター育成研修
- ・脳卒中看護コース
- ・ニューロモデュレーション看護研修
- ・看護補助者研修、eラーニング研修

10 機能評価委員会

委員長・議長名 篠山 英道（職種：医師）
設置年月 平成26年2月
開催頻度 1回／3か月（第4木曜日）
構成メンバー（委員長・議長含む）計36名
医師： 3名 看護師： 12名
リハビリスタッフ： 1名 臨床検査技師： 1名
放射線技師： 1名 薬剤師： 1名
管理栄養士： 1名 MSW： 2名
臨床工学技士： 1名 事務員： 13名

活動報告

- ・対面もしくはSkypeによるリモート会議にて運営・開催
- ・令和5年8月 高度・専門機能受審に向けて、小委員会の発足、毎月第2金曜14時から開催

11 教育研修管理委員会

委員長・議長名 板谷 尚昌（職種：事務）
設置年月 平成28年2月
開催頻度 不定期（適時開催）
構成メンバー（委員長・議長含む）計7名
看護師： 2名 リハビリスタッフ： 1名
事務員： 4名

活動報告

- ・病院の年間行事（研修・行事）計画表の作成
- ・委員会予算支給額検討（ワークフローとりまとめ）
- ・会議・委員会一覧の更新
- ・会議委員会新設申請の受付 3月「回復期病棟運営委員会」承認

12 業務役割分担推進委員会

委員長・議長名	重松 秀明（職種：医師）		
設 置 年 月	平成27年5月		
開 催 頻 度	1回／3か月（第3金曜日（5月・8月・11月・2月））		
構成メンバー（委員長・議長含む）計14名			
医師：	1名	看護師：	2名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	MSW：	1名
事務員：	5名		

活動報告

当委員会は診療報酬の加算算定要件に必須な委員会であり、毎年7月報告届出書類として届出をしている。前年度に引き続き感染対策のためメール形式会議とし、各委員による活動の進捗状況報告を行った。今年度も目標内容の一部追加・見直しを行った。引き続き業務負担軽減を図っていく。

13 クリティカルパス委員会

委員長・議長名	平川 宏之（職種：医師）		
設 置 年 月	平成13年4月		
開 催 頻 度	1回／2か月（第1木曜日（偶数月））		
構成メンバー（委員長・議長含む）計22名			
医師：	1名	看護師：	10名
リハビリスタッフ：	2名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
事務員：	6名		

活動報告

- ・クリティカルパスの新規作成および既存パスの修正
- ・患者パスの作成および修正
- ・アウトカム評価の設定およびバリエーション分析など

令和5年 4月～ 6月：22.9%

令和5年 7月～ 9月：23.6%

令和5年10月～12月：26.4%

令和6年 1月～ 3月：29.2%

※委員会は、Skype・メール開催

14 広報委員会

委員長・議長名	高尾 聡一郎（職種：医師）		
設 置 年 月	平成4年5月		
開 催 頻 度	1回／月（第3金曜日）		
構成メンバー（委員長・議長含む）	計15名		
医師：	1名	看護師：	1名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	1名
介護福祉士：	3名	事務員：	7名
外部（印刷会社担当者）：	1名		

活動報告

開催12回（4/21、5/19、6/16、7/21、8/18、9/15、10/20、11/17、12/15、1/19、2/16、3/15）。
鬼手回春：令和5年4月369号～令和6年3月380号発行
全仁会NEWS：109号（2023.5春号）～112号（2024.2冬号）発行

15 個人情報管理委員会

委員長・議長名	芝崎 謙作（職種：医師）		
設 置 年 月	平成12年4月		
開 催 頻 度	1回／2か月（第2木曜日）		
構成メンバー（委員長・議長含む）	計26名		
医師：	1名	看護師：	6名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	MSW：	2名
介護福祉士：	2名	事務員：	10名

活動報告

今年度は、メール形式にて委員会を開催。主な活動として、毎回の委員会では各部署からの個人情報に関する報告連絡事項を受け、問題点があれば協議し改善を行った。改善が必要な事項については全体への周知徹底・指導にて個人情報保護の強化に努めた。また、全仁会グループ内のインシデント・アクシデント報告より、個人情報保護に関する報告については委員会内でも報告し、再発防止に努めた。

16 褥瘡・足病変対策委員会

委員長・議長名	木村 知己（職種：医師）		
設 置 年 月	平成14年8月		
開 催 頻 度	1回／月（第4月曜日）		
構成メンバー（委員長・議長含む）計34名			
医師：	1名	看護師：	24名
リハビリスタッフ：	3名	臨床検査技師：	1名
薬剤師：	1名	管理栄養士：	1名
介護福祉士：	1名	事務員：	2名

活動報告

令和5年度、褥瘡・足病変対策委員会の会議は対面開催。勉強会は、より多くのスタッフに視聴していただけるように、1か月の視聴期限を設けWebでの開催とした。勉強会は引き続きWebでの開催を検討している。

17 診療録管理委員会

委員長・議長名	平川 宏之（職種：医師）		
設 置 年 月	平成4年5月		
開 催 頻 度	1回／月（第4木曜日）		
構成メンバー（委員長・議長含む）計26名			
医師：	2名	看護師：	10名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	MSW：	1名
事務員：	8名		

活動報告

- ①カルテ質的監査実施および結果報告
 - ②スキャンに関する運用の見直し
 - ③新規文書における検討および承認
 - ④カルテ記載に関する電子カルテシステムの運用整備など
- サマリー記入率（14日以内）

4月：99.5%	5月：97.3%	6月：98.6%
7月：99.6%	8月：98.4%	9月：99.0%
10月：99.5%	11月：98.0%	12月：99.6%
1月：98.2%	2月：98.8%	3月：99.0%

※委員会は、Skype・メール開催

18 治験審査委員会

委員長・議長名	市川 大介（職種：薬剤師）		
設置年月	平成22年12月		
開催頻度	1回／月（第2木曜日）		
構成メンバー（委員長・議長含む）計9名			
医師：	2名	看護師：	1名
臨床検査技師：	1名	薬剤師：	1名
事務員：	2名	外部委員：	2名

活動報告

審査対象となる治験が実施されていないため、令和5年度は未開催

19 DPC委員会

委員長・議長名	高尾 芳樹（職種：医師）		
設 置 年 月	平成19年6月		
開 催 頻 度	1回／2か月（第2月曜日（偶数月））		
構成メンバー（委員長・議長含む）計12名			
医師：	2名	看護師：	1名
臨床検査技師：	1名	放射線技師：	1名
薬剤師：	1名	事務員：	6名

活動報告

保険請求コーディングに対する疑義確認、注意事項の連絡、事例検討の実施。

病院指標の作成について、たたき台を作成し、委員会にて内容確認。

診療報酬改定に関する情報提供、シミュレーションの実施。

20 図書委員会

委員長・議長名	高田 逸朗（職種：医師）		
設 置 年 月	平成4年4月		
開 催 頻 度	1回／月（第2水曜日）		
構成メンバー（委員長・議長含む）	計5名		
医師：	1名	事務員：	4名

活動報告

- ・購入図書44冊、献本3冊、定期購読雑誌34種他。
- ・『今日の治療薬2024』例年48冊購入を24冊に変更。前年分を利用可能な部署へ再配架。
- ・令和6年1月より、医書JPオールアクセストライアル実施。

21 認知症およびせん妄サポート委員会

委員長・議長名	涌谷 陽介（職種：医師）		
設 置 年 月	平成26年6月		
開 催 頻 度	1回／月（第2金曜日）		
構成メンバー（委員長・議長含む）	計23名		
医師：	1名	看護師：	15名
リハビリスタッフ：	2名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	MSW：	1名
介護福祉士：	1名	事務員：	1名

活動報告

- ・Skypeを利用したWeb開催
 - ・DST回診の回診シート、マニュアルの修正
 - ・DST回診シートのデータ集計、分析
 - ・認知症・せん妄マニュアルの修正
 - ・DST通信発行（2回／年）
 - ・各病棟による勉強会の開催
 - ・院内勉強会の運営
- 令和5年12月15日（金） 17：30～18：15
「モンテッソーリケア 通所介護施設の取り組みと認知症高齢者の変化」

22 年報編集委員会

委員長・議長名	岩崎 孝一朗（職種：医師）		
設置年月	平成23年6月		
開催頻度	1回／2か月（不定期（偶数月））		
構成メンバー（委員長・議長含む）計14名			
医師：	4名	看護師：	2名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	1名
MSW：	1名	事務員：	5名

活動報告

- ・全仁会グループ年報：第18巻（令和4年・2022年度）を令和5年9月30日発行（冊子20部）。

23 防災委員会

委員長・議長名	石口 奈世理（職種：医師）		
設置年月	平成15年4月		
開催頻度	3回／年（不定期）		
構成メンバー（委員長・議長含む）計26名			
医師：	1名	看護師：	8名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
MSW：	1名	介護福祉士：	2名
事務員：	7名	その他：	3名

活動報告

令和5年10月6日、倉敷市防火協会主催の第35回消火技術訓練大会に男子・女子各2名1組で出場。男子チームが3位入賞、女子チームが努力賞を受賞。
令和6年3月22日、病院の2階病棟で夜間に火災が発生したと想定し、避難訓練を実施。（訓練内容：初期消火・通報（自動通報装置）・避難誘導）

24 薬事委員会

委員長・議長名	涌谷 陽介（職種：医師）		
設置年月	平成19年4月1日		
開催頻度	1回／2か月（第4水曜日）		
構成メンバー（委員長・議長含む）計38名			
医師：	32名	看護師：	2名
薬剤師：	1名	事務員：	3名
※審議内容により、委員長の指名でメンバー以外の職員の出席を求めることがある。緊急審議の必要がある場合は、委員長が緊急委員会を招集する。			

活動報告

令和5年度6回開催（4/26、6/28、8/23、11/14、12/27、2/28：オンライン開催）

25 輸血療法委員会

委員長・議長名	青山 雅（職種：医師）		
設置年月	平成15年7月		
開催頻度	1回／2か月（第4月曜日）		
構成メンバー（委員長・議長含む）	計17名		
医師：	4名	看護師：	9名
臨床検査技師：	2名	薬剤師：	1名
事務員：	1名		

活動報告

感染対策のため委員会はWeb開催。輸血管理料Ⅱ取得状況、血液製剤使用状況、廃棄状況、輸血副作用の報告。輸血・血液製剤準備指示書の変更に伴う輸血療法マニュアルの一部改訂を実施。貯血式自己血輸血実施指針（2020）に基づき貯血式自己血輸血マニュアルの改訂を実施。

26 リスクマネジメント委員会

委員長・議長名 重松 秀明（職種：医師）

設置年月 平成11年4月

開催頻度 1回／月（第3木曜日）

構成メンバー（委員長・議長含む）計47名

医師：	2名	看護師：	20名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	MSW：	1名
介護福祉士：	2名	事務員：	3名
その他：	14名		

活動報告

- ・医療安全対策マニュアル見直し・修正
- ・法令研修の企画・運営（2回／年）人数制限を行い集合研修で開催し、その他の職員は配信での研修とした
- ・リスクマネジメント標語作成（1回／月）発行
- ・医療安全ニュース発行
- ・感染対策のためSkypeで開催

27 臨床検査適正化委員会

委員長・議長名 高尾 公子（職種：医師）

設置年月 平成13年4月

開催頻度 3回以上／年（第2火or第4水曜日）

構成メンバー（委員長・議長含む）計9名

医師：	4名	看護師：	2名
臨床検査技師：	1名	事務員：	2名

※医局会実施日に合わせて開催するため、医師人数は常に4名以上

活動報告

感染対策のため委員会はWeb開催。超音波診断装置の更新に伴う超音波エラストグラフィ・肝硬度測定を開始。検体検査パニック値の報告方法の検討と生理検査パニック値の設定。肝炎ウイルス検査陽性患者を消化器内科に紹介する取り組み開始。病理組織検査・細胞診検査の外部委託先変更。日臨技・岡臨技精度管理調査評価報告。外部委託項目の受託中止・代替項目の報告。

28 倫理委員会

委員長・議長名 小川 敏英（職種：医師）

設置年月 平成21年1月

開催頻度 不定期（第3水曜日）

構成メンバー（委員長・議長含む）計14名

医師：	2名	看護師：	1名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	事務員：	3名
その他(外部有識者)：	3名		

活動報告

- ・倫理審査請求に応じて倫理審査を実施（承認16件）
- ・4/19、5/17、6/21、7/19、11/15、1/17、2/21、3/27 Skypeによるリモート開催

29 医療倫理コンサルテーションチームミーティング

委員長・議長名 小川 敏英（職種：医師）

設置年月 平成31年4月

開催頻度 1回／月（第3水曜日）

構成メンバー（委員長・議長含む）計12名

医師：	1名	看護師：	3名
リハビリスタッフ：	2名	放射線技師：	1名
薬剤師：	1名	MSW：	1名
介護福祉士：	1名	事務員：	2名

活動報告

- ①臨床倫理コンサルテーション活動について
令和4年度に全仁会全部署からの提出事例をグループ分けし、8事例について、倫理コンサルテーションメンバーと関連部署とで事例検討会を行なった。倫理コンサルテーション依頼は2事例あり、検討できた。
- ②臨床倫理の教育、啓発
9月27日に稲葉一人先生に依頼をし、臨床倫理研修及び事例検討会を開催した。全仁会全部署から提出された事例より2事例について、グループに分かれて検討し、集合研修を行った。72名の参加者があり、活発に意見交換ができた。

30 レクリエーション委員会

委員長・議長名	金光 秀彰（職種：事務）		
設置年月	昭和63年1月		
開催頻度	不定期（適時開催）		
構成メンバー（委員長・議長含む）	計44名		
看護師：	4名	リハビリスタッフ：	2名
臨床検査技師：	2名	放射線技師：	1名
管理栄養士：	2名	MSW：	3名
事務員：	5名	介護士：	23名
その他：	2名		

活動報告

令和5年度は6月に委員会を開催し、天領祭り・職員旅行の各担当者決めを行った。

①天領祭り…約100名の職員・職員家族が参加（第50回 令和5年7月22日開催）。

②職員旅行…4旅程実施（P52参照）。

31 わかりやすいやさしい医療推進委員会

委員長・議長名	松尾 真二（職種：医師）		
設置年月	平成13年4月		
開催頻度	1回／月（第1水曜日）		
構成メンバー（委員長・議長含む）	計43名		
医師：	1名	看護師：	13名
リハビリスタッフ：	2名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	管理栄養士：	2名
MSW：	2名	介護福祉士：	11名
事務員：	10名		

活動報告

今年度は、メール形式にて委員会を開催。

主な活動としては、外来患者満足度調査を実施（10月23日～10月27日の5日間）。

他には、接遇勉強会の開催（2月開催、テーマ：電話応対について）、各部署で身だしなみ・接遇チェックの実施、わかやさニュースの定期発行など、様々な取り組みを通じて職員がよりよい接遇を身につけられるよう積極的に啓発を行った。ご意見箱より、接遇に関するご意見があれば、委員会の中で内容を周知し改善を図った。

2. 会議編（50音順）

1 安全運転会議

委員長・議長名	小坂 聡弘（職種：事務）		
設置年月	平成13年4月		
開催頻度	1回／月（第1月曜日）		
構成メンバー（委員長・議長含む）	計41名		
事務員：	5名	運転手：	36名

活動報告

8月と11月に開催

2 医局会

委員長・議長名	涌谷 陽介（職種：医師）		
設置年月	昭和63年1月		
開催頻度	2回／月（第2火曜日、第4水曜日）		
構成メンバー（委員長・議長含む）	計38名		
医師：	34名	臨床検査技師：	1名
薬剤師：	1名	事務員：	2名

活動報告

各種会議・委員会の決定事項等の伝達を行った。病院経営に関する決定事項について協議し、各部署との連携を図った。

3 医療安全週間ミーティング

委員長・議長名	重松 秀明（職種：医師）		
設置年月	平成27年6月		
開催頻度	1回／週（毎週木曜日）		
構成メンバー（委員長・議長含む）	計9名		
医師：	1名	看護師：	2名
放射線技師：	1名	薬剤師：	2名
MSW：	1名	事務員：	1名
臨床工学技士：	1名		
※医療安全管理者含む			

活動報告

医療安全に関する事項の報告・連絡を行い、インシデント、アクシデント分析結果、対策を検討し、再発防止策を決定した。

放射線管理者をメンバーに加え、放射線に関するリスク情報について連携を図った。

患者相談事例の結果報告と連携を行い、連携を図った。

4 医療事故防止対策会議

委員長・議長名 重松 秀明（職種：医師）

設置年月 平成27年6月

開催頻度 1回／月（第2金曜日）

構成メンバー（委員長・議長含む）計39名

医師：	4名	看護師：	10名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	2名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	MSW：	2名
臨床工学技士：	1名	事務員：	5名
その他：	11名		

活動報告

インシデント・アクシデント事例の情報共有と分析を行い再発防止策の決定及び実施をした。

医療安全管理者・医薬品安全管理者・医療機器安全管理者・医療放射線安全管理者からの情報共有を行った。

患者サポートと連携を図り情報共有を行った。

感染対策のためSkypeでの開催とした。

5 介護系実績検討会議

委員長・議長名 高尾 聡一郎（職種：医師）

設置年月 平成14年4月

開催頻度 1回／月（不定期（月末））

構成メンバー（委員長・議長含む）計40名

医師：	3名	看護師：	4名
リハビリスタッフ：	5名	MSW：	1名
介護福祉士：	9名	事務員：	15名
ケアマネジャー：	3名		

活動報告

- ・損益計画、計画指標値の共有
- ・実績報告
- ・現状と今後の対応についての報告
- ・各事業所の取り組みに関する報告
- ・接遇に関する情報共有
- ・令和6年度介護報酬改定に関する情報共有

6 外来会議

委員長・議長名 青山 雅（職種：医師）

設置年月 -

開催頻度 1回／月（第2月曜日）

構成メンバー（委員長・議長含む）計11名

医師：	1名	看護師：	1名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
事務員：	5名		

活動報告

・外来運営に関わる事項の情報共有

・外来診療体制についての協議

※感染対策としてWeb会議での開催。

7 加算算定検討会

委員長・議長名 板谷 尚昌・福山 浩（職種：事務）

設置年月 平成30年6月

開催頻度 1回／3か月（第3金曜日）

構成メンバー（委員長・議長含む）計8名

事務員： 8名

活動報告

- ・施設基準配置人員名簿の更新、配信
- ・加算算定率、件数推移の確認
- ・診療報酬改定対応の準備

8 看護部）管理職会議

委員長・議長名 岡本 なおみ（職種：看護師）

設置年月 平成20年1月

開催頻度 5月・11月（第1金曜日）

構成メンバー（委員長・議長含む）計30名

看護師： 27名 看護補助者： 3名

活動報告

- ①各部署の運営を円滑に、また効率的に行うために、看護部管理職全員で、看護・介護業務改善に必要な情報の共有を行った。
- ②看護部の委員会活動について、進捗状況を把握し、目標達成に向けて必要な意見交換を行った。

9 看護部) 実習指導者会議

委員長・議長名 池元 洋子(職種:看護師)
設置年月 平成27年4月
開催頻度 1回/月(第1木曜日)
構成メンバー(委員長・議長含む) 計16名
看護師: 16名

活動報告

- ・令和5年度実習生受け入れ
倉敷翠松高校(専攻科含む)基礎・成人・老人実習 38名
倉敷中央高校(専攻科)老年実習 8名
- ・インターンシップ受け入れ 3名

10 看護部) 主任・副主任会議

委員長・議長名 岡本 なおみ(職種:看護師)
設置年月 平成20年1月
開催頻度 1回/月(第1金曜日)
構成メンバー(委員長・議長含む) 計24名
看護師: 21名 看護補助者: 3名

活動報告

- ①各病棟の業務の統一
・各種チェックリストの見直しと修正
・入職時オリエンテーション項目の見直し修正
- ②退院支援
・外来看護師との連携(継続看護に関する取組み)

11 看護部) 全仁会師長会議

委員長・議長名 岡本 なおみ(職種:看護師)
設置年月 平成19年4月
開催頻度 1回/月(第1水曜日)
構成メンバー(委員長・議長含む) 計18名
看護師: 18名

活動報告

安全・安楽な看護サービスの提供に関する事項、職場環境整備に関する事項、看護職員の入退職などについて情報交換を行い、施設間連携推進に努めた。
看護セミナーのテーマ決定や企画・運営についての話し合いをもち、滞りなく実施できた。

12 看護部) 病院師長会議

委員長・議長名 岡本 なおみ(職種:看護師)
設置年月 昭和63年1月
開催頻度 2回/月(第2・第4火曜日)
構成メンバー(委員長・議長含む) 計12名
看護師: 12名

活動報告

- 1) 看護の質向上
・院内認定(パーキンソン病患者の看護)研修参加者18名中症例発表審査を受け2名合格
・院内研修の見直しをおこない、管理職研修の充実を図った
・クリニカルラダーの見直し
- 2) 経費圧縮に向けた取り組み、労働環境の改善
・看護補助業務の一部委託によるコスト削減、業務の効率化、職場環境の改善
・購買管理課と協力し、医療材料やその他物品に関する類似品の比較検討によるコストダウン
・手術室ガウンや各種手術セットの見直し、リユース品への変更により大幅コスト削減を実現した

13 看護部・薬剤部連携ミーティング

委員長・議長名 市川 大介・岡本 なおみ(職種:薬剤師・看護師)
設置年月 平成27年6月
開催頻度 1回/月(第1木曜日)
構成メンバー(委員長・議長含む) 計12名
看護師: 7名 薬剤師: 5名

活動報告

開催日: 4/13、5/18、6/8、7/6、8/4、10/12、11/9、12/8、1/15(計9回)
※9月、2月、3月は諸事情により休会
※協議内容・決定事項については議事録参照

14 感染対策会議

委員長・議長名	増田 勝巳（職種：医師）		
設 置 年 月	平成3年12月		
開 催 頻 度	1回／月（第2金曜日）		
構成メンバー（委員長・議長含む）計23名			
医師：	2名	看護師：	9名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	MSW：	1名
介護福祉士：	1名	事務員：	4名
その他：	1名		

活動報告

- ・感染対策に関する職員教育（Webも活用し実施）
- ・抗菌薬適性使用ラウンドの実施（毎週）
- ・感染対策マニュアル電子版の作成、定期的な見直し
- ・感染環境ラウンドの実施（病棟：毎週、院内：月1回）
- ・感染制御チームのサポート
- ・グループ内で発生した感染症の把握、対策実施

15 感染制御チーム（ICT）

委員長・議長名	増田 勝巳（職種：医師）		
設 置 年 月	平成25年4月		
開 催 頻 度	1回／月（第3水曜日）		
構成メンバー（委員長・議長含む）計28名			
医師：	2名	看護師：	16名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	2名
放射線技師：	1名	薬剤師：	2名
MSW：	1名	事務員：	3名

活動報告

- ・院内環境ラウンドの実施（月1回）
- ・AST・ICNラウンドの実施（毎週）
- ・感染対策マニュアル電子版の作成、定期的な見直し
- ・法令研修の開催（年2回実施、Webも併用）

16 救急運営会議

委員長・議長名	重松 秀明（職種：医師）		
設 置 年 月	平成14年12月		
開 催 頻 度	1回／月（第1木曜日）		
構成メンバー（委員長・議長含む）	計10名		
医師：	1名	看護師：	2名
臨床検査技師：	1名	放射線技師：	1名
薬剤師：	1名	事務員：	3名
その他：	1名		

活動報告

- ・救急患者の受入れ、お断りの報告と分析。
 - ・救急診療体制についての協議。
 - ・意見箱（職員から救急運用に関して）に対する検討。
- ※感染対策としてWeb会議での開催。

17 コスト検討会

委員長・議長名	板谷 尚昌（職種：事務）
設置年月	令和元年8月（再開）
開催頻度	適時開催
構成メンバー	（委員長・議長含む）計7名
事務員：	7名

活動報告

- 事業計画に即した費用管理を行う。
- 現状の実績、計画との乖離、課題及び対策について定期報告を行い改善を図る。
- 診療報酬に関連する医療機器、診療材料等の高額立案案件に対するの稟議を行う。

18 コロナ会議

委員長・議長名	高尾 芳樹（職種：医師）		
設 置 年 月	令和2年4月6日		
開 催 頻 度	1回／週（毎週月曜日）		
構成メンバー（委員長・議長含む）計74名			
医師：	29名	看護師：	12名
リハビリスタッフ：	5名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	MSW：	3名
臨床工学技士：	1名	事務員：	16名
介護士：	4名		

活動報告

- ・開催頻度は感染状況に応じて週1回～月に1回程度
- ・5月 コロナ会議を解散、感染対策会議に併合した。

19 災害対策会議

委員長・議長名	板谷 尚昌（職種：事務）		
設 置 年 月	平成30年10月		
開 催 頻 度	1回／月（第2金曜日）		
構成メンバー（委員長・議長含む）計16名			
医師：	2名	看護師：	2名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	MSW：	1名
事務員：	6名		

活動報告

令和5年度については、4年度同様にBCP（事業継続計画）策定に向けて、リスクアセスメントの業務影響分析を行い、リスクシナリオの作成（再構築）を関係者で協議した（現在進行形）。引き続きリスク対応計画書等を作成し、来年度については、BCPの文章化を目指す。

20 事務当直検討会

委員長・議長名	三宅 雄也（職種：事務）		
設 置 年 月	－		
開 催 頻 度	不定期		
構成メンバー（委員長・議長含む）計18名			
MSW：	5名	事務員：	13名

活動報告

- ・事務当直マニュアルの更新
- ・会の開催は無し

21 手術室運営会議

委員長・議長名	和田 聡（職種：医師）		
設 置 年 月	平成19年4月		
開 催 頻 度	1回／1か月（第1月曜日）		
構成メンバー（委員長・議長含む）	計23名		
医師：	13名	看護師：	4名
臨床工学技士：	2名	事務員：	4名

活動報告

- ・対面＋Skypeを使用したハイブリッド開催
- ・手術室運営や手術枠の調整
- ・オートクレープ法定点検時における手術室・中央材料室の運用の決議
- ・機器購入承認

22 職員全体集会

委員長・議長名	－
設 置 年 月	－
開 催 頻 度	1回／月（第2水曜日）
構成メンバー	（委員長・議長含む）全職員

活動報告

- ・4/12、5/10、6/14、7/12、8/9、9/13、10/11、11/8、12/13、1/4※、2/14、3/13
対面開催及び動画をGWで配信
- ※1/4は仕事はじめの会
- ・毎月、経営方針等の重要事項の報告を実施

23 全仁会施設代表者会議

委員長・議長名	板谷 尚昌（職種：事務）		
設置年月	令和2年2月		
開催頻度	1回／2か月（第1月曜日）		
構成メンバー	（委員長・議長含む）計13名		
医師：	1名	看護師：	4名
事務員：	8名		

活動報告

- ・コロナ対応について
- ・実地指導等の情報共有

24 多職種みんなで考える病院実績検討会議

委員長・議長名	高尾 芳樹（職種：医師）		
設 置 年 月	令和4年4月		
開 催 頻 度	2回／月（第1・第3水曜日）		
構成メンバー（委員長・議長含む）計16名			
医師：	1名	看護師：	2名
リハビリスタッフ：	1名	薬剤師：	1名
MSW：	1名	事務員：	10名

活動報告

- ・入院患者数増加に向けた検討
- ・経費圧縮への取り組み
- ・心臓ドック案
- ・回リハ病棟改修案
- ・医師採用について
- ・次年度収支計画策定にむけた検討

25 電話対応調整検討会

委員長・議長名 佐藤 宏明（職種：事務）
設置年月 令和2年11月
開催頻度 1回／月（第4金曜日）
構成メンバー（委員長・議長含む）計7名
MSW： 1名 事務員： 6名

活動報告

感染対策の為、問題・調整案件が発生した場合に、代表メンバーで関係部署と調整を行い、全体への情報共有を実施。また、定期的な電話対応及び予約対応マニュアルの見直しを実施している。

26 ドック診療部会議

委員長・議長名 篠山 英道（職種：医師）
設置年月 平成20年4月
開催頻度 -
構成メンバー（委員長・議長含む）計12名
医師： 4名 看護師： 2名
臨床検査技師： 2名 放射線技師： 1名
管理栄養士： 1名 事務員： 2名

活動報告

2か月ごとに診療部会を開催し、医師・内視鏡担当看護師・放射線技師・臨床検査技師・管理栄養士・事務が出席し、脳ドックセンターと各部署との意見交換、情報共有および調整等を行った。

27 入退院調整会議

委員長・議長名 高尾 芳樹（職種：医師）
設置年月 平成19年4月
開催頻度 1回／週（毎週火曜日）
構成メンバー（委員長・議長含む）計17名
医師： 1名 看護師： 6名
リハビリスタッフ： 1名 MSW： 8名
診療情報管理士： 1名

活動報告

入退院の状況を共有し、病棟運営の認識の共有を図り、円滑な入退院の調整を行った。
退院支援カンファレンスを多職種で実施し、退院支援計画の意見交換を行い円滑な退院支援に結びつけた。

28 ニューロモデュレーションセンター運営会議

委員長・議長名 牟礼 英生（職種：医師）
設置年月 平成29年2月
開催頻度 1回／2か月（第2火曜日）
構成メンバー（委員長・議長含む）計22名
医師： 1名 看護師： 9名
リハビリスタッフ： 2名 臨床工学技士： 3名
医療秘書： 1名 薬剤師： 1名
管理栄養士： 1名 MSW： 1名
事務員： 3名

活動報告

- ・対面＋Skypeを使用したハイブリッド開催
- ・病棟コーディネータの選定・役割の周知
- ・外来診療枠・予約枠の修正・変更
- ・ニューロモデュレーションセンター HP報告
- ・MRI撮影の規定修正
- ・不随意運動症に関するオンライン研究について

29 認知症疾患医療センター運営会議

委員長・議長名 涌谷 陽介（職種：医師）
設置年月 平成24年3月
開催頻度 2回／月（第2木曜日・第4火曜日）
構成メンバー（委員長・議長含む）計8名
医師： 2名 看護師： 1名
リハビリスタッフ： 1名 MSW： 1名
事務員： 1名 MHSW： 2名

活動報告

- ・外来運営について検討、承認
- ・もの忘れフォーラムについての意見集約、決定事項の報告
- ・院内、院外を対象とした定期勉強会の内容について検討等々

30 病院管理会議

委員長・議長名 高尾 芳樹（職種：医師）
設置年月 平成27年10月
開催頻度 2回／月（第2・第4月曜日）
構成メンバー（委員長・議長含む）計5名
医師： 2名 看護師： 1名
事務員： 2名

活動報告

病院内で発生した問題点等について、組織的に協議し、解決に向けた方針や方策を示す。

31 病院実績検討会議

委員長・議長名 高尾 聡一郎・高尾 芳樹（職種：医師）
設置年月 ー
開催頻度 1回／月（不定期（毎月10日すぎ））
構成メンバー（委員長・議長含む）計60名
医師： 35名 看護師： 8名
リハビリスタッフ： 3名 臨床検査技師： 1名
放射線技師： 1名 薬剤師： 1名
管理栄養士： 1名 MSW： 1名
事務員： 9名

活動報告

- ・損益計画、計画指標値の共有
- ・実績報告
- ・救急応需率75%以上の協力依頼
- ・地域医療体制確保加算の要件、救急受入年間2000件以上の協力依頼
- ・増収対策、経費削減対策の協議

32 病診連携会議

委員長・議長名 山川 恭子（職種：MSW）
設置年月 平成27年4月
開催頻度 1回／月（第3金曜日）
構成メンバー（委員長・議長含む）計7名
MSW： 1名 事務員： 6名

活動報告

地域の医療機関や施設からの紹介状況や近隣病院の状況などの情報を共有し、当院の強み・弱みを分析していくことで、今後の営業戦略を検討していき、地域医療連携センターの活動方針の決定に結びつけた。

33 未収金検討会

委員長・議長名 佐藤 宏明（職種：事務）
設置年月 平成16年4月
開催頻度 1回／月（第4火曜日）
構成メンバー（委員長・議長含む）計13名
看護師： 1名 MSW： 1名
介護福祉士： 2名 事務員： 8名
ケアマネジャー： 1名

活動報告

会議にて未収者の情報や回収方法を共有し、グループ内で未収金が増えないように検討。

未収者に連絡を取り、場合によっては自宅まで赴き未収金の回収を行った。

連絡がつかない未収者には法律事務所を通して未収金回収を行っている。

未収金会議マニュアルを制定し、マニュアルに基づいた未収金の回収業務を行っている。

34 理事会議

委員長・議長名 高尾 聡一郎（職種：医師）
設置年月 ー
開催頻度 1回／月（第3月曜日）
構成メンバー（委員長・議長含む）計27名
※理事長・理事17名、監事2名、役職者8名（令和4年度決算承認時の構成）

活動報告

令和4年度 決算承認（令和5年6月実施）

令和5年度 予算承認（令和5年4月実施）

救急棟4階会議室1とZoomによるハイブリッドで開催。

35 リハビリテーションセンター管理職会議

委員長・議長名 大根 祐子（職種：医師）
設置年月 令和元年4月
開催頻度 1回／月（第3金曜日）
構成メンバー（委員長・議長含む）計27名
医師： 1名 リハビリスタッフ： 26名

活動報告

医療・介護系部門における毎月の実績の推移と課題の共有の実施。

法人内でのリハビリテーションに関わる取り組みの計画立案の実施。

各管理職内での情報共有と新たな取り組みに関するディスカッションの実施。

令和5年度について感染拡大による対策期間中はWeb開催とした。

3. 全仁会4本柱(50音順)

1 看護セミナー実行委員会

委員長・議長名 岡本 なおみ（職種：看護師）
設置年月 平成3年8月
開催頻度 適宜開催（不定期）
構成メンバー（委員長・議長含む）計5名
看護師： 5名

活動報告

〈第33回看護セミナー〉

※院内会場開催とZoomのハイブリッド開催とした

開催日：R5年9月9日（土）14時～16時

テーマ：医療者のメンタルヘルスケア

～人生100年時代を担うために～

①話題提供

・当院のメンタルヘルスに関する課題

倉敷平成病院 看護部長 岡本なおみ

②特別講演：医療従事者のためのメンタルヘルスと「傾聴する力」をアップする法

講師：生活習慣研究所 所長／看護師 森山佐恵先生

2 神経セミナー実行委員会

委員長・議長名 菱川 望（職種：医師）
設置年月 平成元年4月
開催頻度 随時
構成メンバー（委員長・議長含む）計8名
医師： 3名 事務員： 5名
※当日の運営は拡大実行委員会を開催し、各部署に協力依頼する

活動報告

〈第36回神経セミナー〉

令和5年10月21日（土）に開催。「ここまで進んだ！神経疾患の最新治療」をテーマに、岡山大学学術研究院医歯薬学域 脳神経内科 教授 石浦浩之先生を講師にお迎えし、「神経疾患の新しい治療法 片頭痛から難病、アルツハイマー病」というタイトルでご講演いただいた。令和4年度に引き続き、感染予防に配慮し、救急棟4階会議室にて参加人数を100名に限定して開催。講演の様子を11月6日（月）より倉敷平成病院チャンネル（YouTube）にて動画配信。

3 全仁会研究発表大会実行委員会

委員長・議長名 平川 宏之（職種：医師）
設置年月 平成4年
開催頻度 1回／月（木曜日（不定期））
構成メンバー（委員長・議長含む）計65名
医師： 1名 看護師： 18名
リハビリスタッフ： 7名 臨床検査技師： 1名
放射線技師： 1名 薬剤師： 3名
管理栄養士： 2名 臨床工学技士： 1名
MSW： 2名 介護福祉士： 9名
歯科衛生士： 1名 介護支援相談員： 1名
ケアマネジャー： 4名 事務員： 14名
※全仁会グループの各部署から1～2名選出

活動報告

- ・テーマ：全仁会の未来のために～今私たちにできるSDGs～
- ・委員会開催日：4/13・5/11・6/8・7/13・8/10・9/14・10/12・11/9
- ・研究デザイン発表：6/12（月）15時30分～ Zoom
- ・中間報告会：9/4（月）15時～ ハイブリッド開催（会議室+Zoom）
- ・研究発表大会：11/27（月）・11/28（火）15時～ Zoom
配信及び会場観覧に加えて、発表動画の配信 ※GWで全仁会役職者（副主任以上）による採点～12/7（木）まで
- ・審査委員会：令和5年12月11日（月）開催

4 のぞみの会実行委員会

委員長・議長名 篠山 英道（職種：医師）
設置年月 昭和62年4月
開催頻度 不定期（令和5年度は全15回）
構成メンバー（委員長・議長含む）計79名
医師： 4名 看護師： 20名
リハビリスタッフ： 7名 臨床検査技師： 1名
放射線技師： 1名 薬剤師： 1名
管理栄養士： 1名 MSW： 6名
介護福祉士： 22名 事務員： 14名
その他： 2名

活動報告

令和5年11月5日（日）9時30分～12時で、第58回のぞみの会を「元気で人生100年時代の地域医療～全仁会の継続ケア～」をメインテーマに開催した。参加者200名限定。昼食の配布、午後のふれあい広場は無しとした。勉強会は「生活習慣病と動脈硬化～CTの有用性～」循環器科部長岩崎孝

一朗先生。病院紹介動画「プロジェクトZ」、手術室見学（限定30名）等実施。

実行委員会は5/10、6/7、6/28、7/12、7/26、8/9、8/23、9/6、9/20、10/4、10/11、10/18、10/25、11/1、11/22の全15回開催（うち拡大委員会2回、反省会1回）。

令和5(2023)年度

数字で見る全仁会(全仁会実績)

倉敷平成病院

- 1) 外来患者数
- 2) 外来診療科別内訳
- 3) 新患者数
- 4) 紹介率
- 5) 救急搬入件数
- 6) 救急搬入件数(夜間・休日)
- 7) 基本健診件数
- 8) 脳ドックセンター受診者数
- 9) 入院患者数
- 10) 平均在院日数
- 11) 令和5年度病床編成
- 12) 疾患別退院患者数(DPC分類による)
 - 12-1 主要診断群別統計(MDC)
 - 12-2 診断群分類(DPC上位6桁)TOP20
- 13) 地域別入院患者数
- 14) 診療科別手術件数
- 15) 疾病別・診療科別・患者数(大分類)
- 16) 疾病別・年齢階層別・患者数(大分類)
- 17) リハビリテーション部実績
 - 17-1 回復期リハビリテーション病棟 入院料1に係る報告
 - 17-2 理学療法実施単位数
 - 17-3 作業療法実施単位数
 - 17-4 言語聴覚療法実施単位数
 - 17-5 心理療法実績
- 18) 放射線部実績
 - 18-1 全件数
 - 18-2 一般撮影件数
 - 18-3 MR件数
 - 18-4 CT件数
 - 18-5 マンモグラフィ件数
- 19) 臨床検査部実績
 - 19-1 血液学的検査件数
 - 19-2 生化学検査件数
 - 19-3 免疫学的検査件数
 - 19-4 一般検査件数(尿、便、髄液など)
 - 19-5 生理検査件数(心電図、肺機能、脳波、超音波、動脈硬化関連検査、聴力関連など)
- 20) 臨床工学科実績
 - 20-1 手術立ち合い件数
 - 20-2 貸出点検修理件数
 - 20-3 麻酔器・人工呼吸器点検数
- 21) 薬剤部実績
 - 21-1 処方箋枚数(院内)
 - 21-2 処方箋枚数(院外)
 - 21-3 服薬指導件数
 - 21-4 病棟薬剤業務実施加算件数
- 22) 栄養科実績
 - 22-1 特別食と一般食の食数
 - 22-2 栄養指導件数
 - 22-3 NST加算件数
- 23) 地域医療連携センター
 - 23-1 地域連携業務
 - 23-2 医療相談実績

24) 秘書課

- 24-1 書類・退院時要約 代行制作件数

平成南町クリニック

- 25) クリニック外来患者数

倉敷老健

- 26) 老健入所者数(定員150人)と在宅復帰率

倉敷在宅総合ケアセンター

- 27) ケアプラン件数
- 28) 通所リハ利用者数(定員180人)
- 29) 予防リハ利用者数(定員40人)
- 30) 訪問看護ステーション件数
- 31) 訪問リハ(病院)件数
- 32) 訪問介護(老松)件数
- 33) 訪問入浴件数
- 34) 福祉用具貸与件数
- 35) 介護タクシー利用者数
- 36) 鍼灸治療院患者数
- 37) ショートステイ利用者数(定員40人)

ピースガーデン倉敷

- 38) リハビリステーション ピース(デイサービス)利用者数(定員65人)
- 39) 地域密着型特養 ピースガーデン入所者数(定員29人)
- 40) ピースガーデン倉敷 ショートステイ利用者数(定員28人)
- 41) グループホーム のぞみ入居者数(定員18人)

ローズガーデン倉敷

- 42) ローズガーデン倉敷入居者数(定員120戸)

グランドガーデン南町

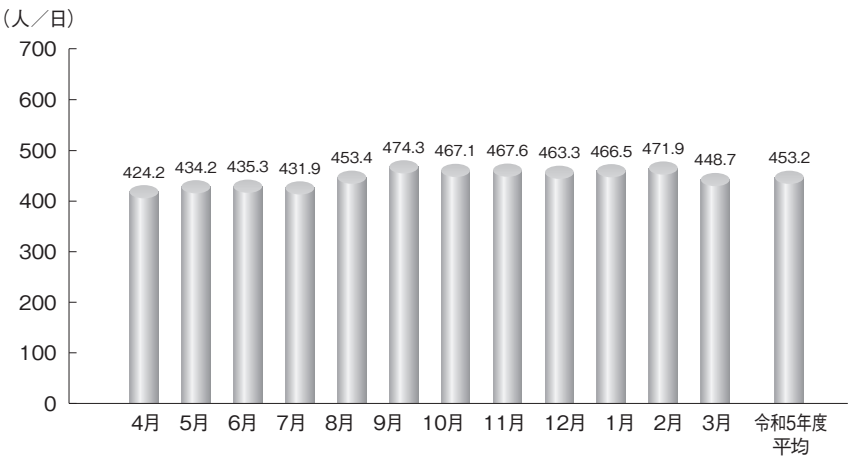
- 43) サービス付き高齢者向け住宅
グランドガーデン南町入居者数(定員52人)
- 44) 特定施設入居者生活介護
グランドガーデン入居者数(定員46人)
- 45) ヘルプステーション南町(訪問介護)件数
- 46) 南町ケアプラン室ケアプラン件数

ケアハウス ドリームガーデン倉敷

- 47) ドリームガーデン倉敷入居者数(定員100人)
- 48) (社福)全仁会ヘルプステーション(訪問介護)件数

倉敷平成病院

1) 外来患者数



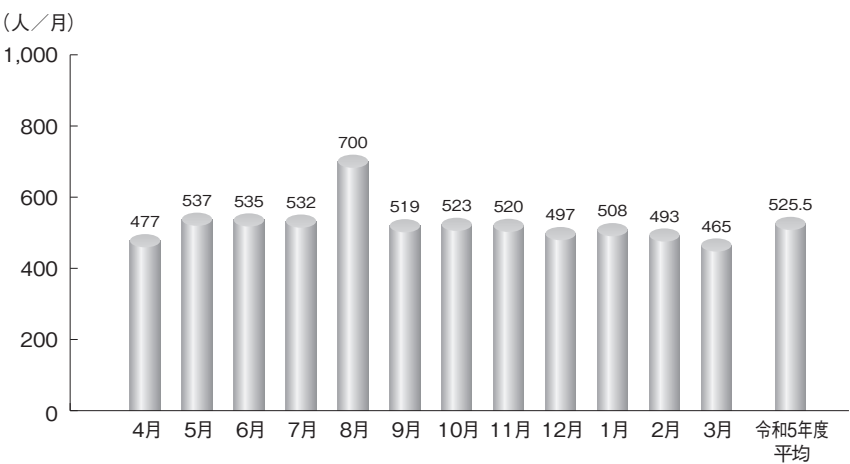
2) 外来診療科別内訳

(人/日)

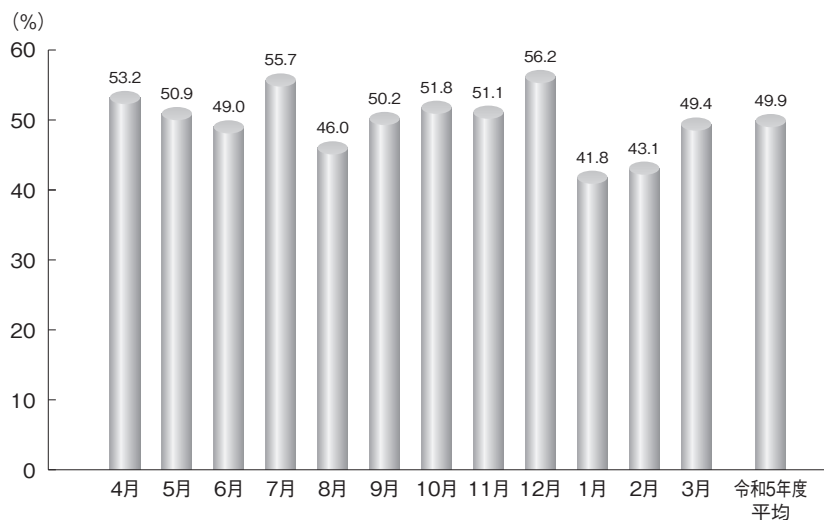
項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和5年度平均
脳神経内科・内科・総診・和漢診療科・放射線科・麻酔科	82.5	80.3	86.1	79.2	84.3	85.9	87.8	87.7	86.9	84.3	81.6	80.6	83.9
脳卒中内科	4.6	4.9	5.0	5.9	5.7	6.6	6.3	6.0	6.2	6.4	7.2	5.0	5.8
整形外科	113.9	126.1	117.9	121.2	131.5	137.3	128.7	137.7	124.1	134.4	133.4	123.7	127.5
脳神経外科	31.8	31.3	33.0	32.5	33.0	36.7	38.0	36.5	36.7	36.9	35.1	34.5	34.7
リハビリテーション科	0.8	1.1	1.1	1.6	1.3	1.1	0.8	0.7	0.1	0.2	0.3	0.1	0.8
消化器科	22.0	23.7	22.7	23.6	22.7	23.3	24.9	24.0	25.1	23.2	24.4	23.3	23.6
循環器科	23.8	21.8	20.4	22.7	22.1	24.2	22.2	23.2	22.8	22.8	24.4	20.0	22.5
呼吸器科	12.4	11.5	10.8	13.0	13.7	13.1	14.0	13.5	12.0	14.3	12.2	12.0	12.7
耳鼻咽喉科	25.1	26.0	23.5	20.8	26.5	22.7	24.5	27.0	25.0	26.2	28.2	25.6	25.1
眼科	22.9	21.9	20.8	20.5	21.2	22.3	21.3	19.7	22.3	20.9	22.4	21.9	21.5
皮膚科	12.4	10.9	13.6	12.2	11.9	12.8	12.3	9.8	12.6	12.5	12.1	12.6	12.1
生活習慣病センター	23.6	21.5	23.3	19.2	23.2	24.6	24.9	21.1	25.8	23.3	24.5	21.9	23.1
総合美容センター（美容・形成）	15.2	18.5	22.1	21.5	21.8	22.9	20.5	20.3	20.7	18.1	21.4	22.6	20.5
総合美容センター（婦人）	5.1	5.7	6.1	6.9	6.8	8.9	9.3	9.4	10.0	10.0	10.8	12.5	8.5
総合美容センター（乳腺）	7.5	8.0	7.4	8.5	7.2	10.4	9.7	8.0	9.5	9.0	9.8	8.8	8.6
歯科	20.7	21.0	21.6	22.6	20.8	21.5	21.8	23.0	23.5	24.0	24.0	23.7	22.3
合計	424.2	434.2	435.3	431.9	453.4	474.3	467.1	467.6	463.3	466.5	471.9	448.7	453.2

(表示は小数第一位まで)

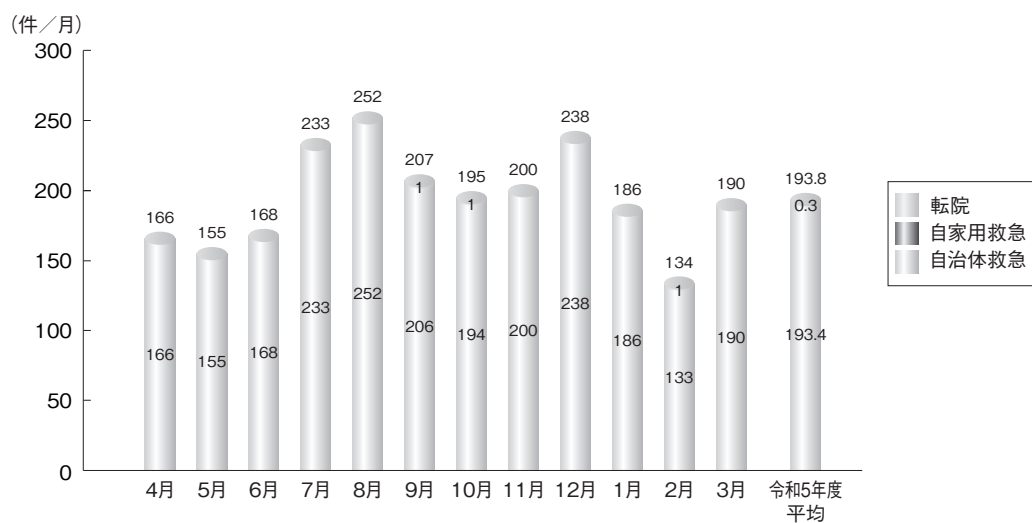
3) 新患者数



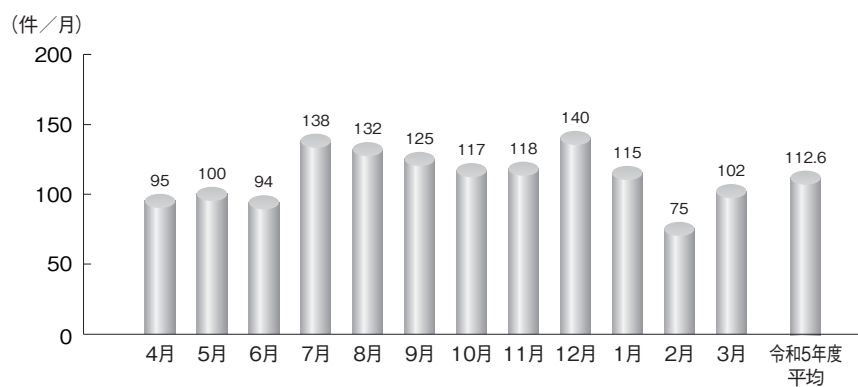
4) 紹介率



5) 救急搬入件数



6) 救急搬入件数（夜間・休日）



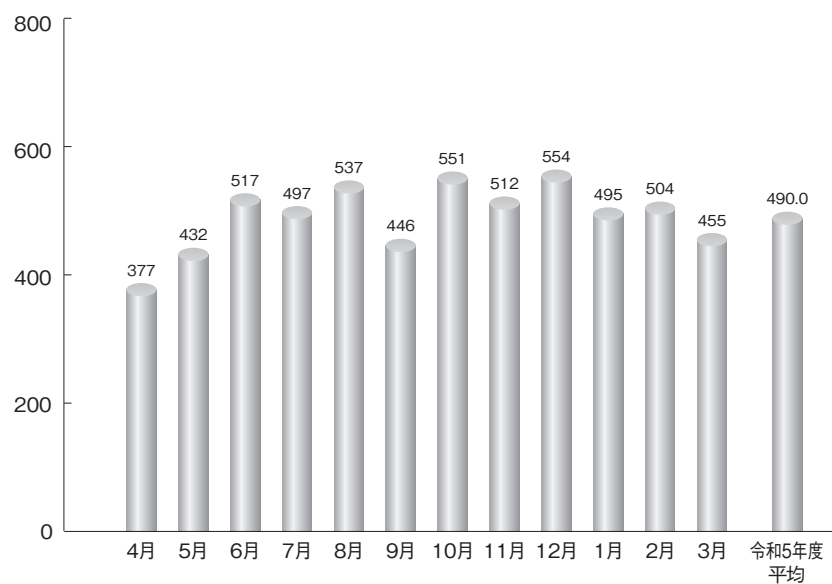
7) 基本健診件数

(件／月)

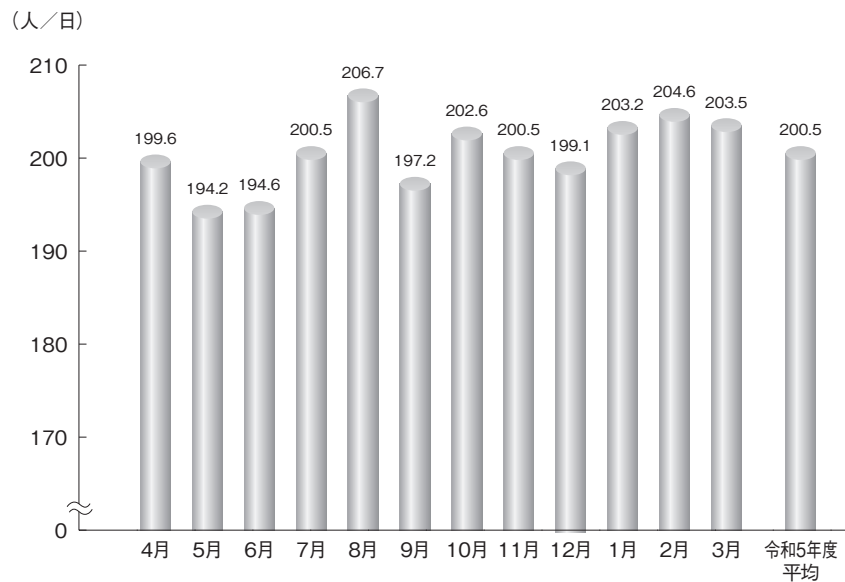
項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数
子宮がん	0	0	21	21	11	24	12	21	14	19	15	12	170
乳がん	0	0	0	0	0	30	30	32	32	31	34	30	219
特定健診	0	0	12	23	48	35	40	39	41	29	0	0	267
大腸がん	0	0	17	22	23	20	19	30	23	21	0	0	175
胃がん	0	0	2	7	5	4	9	3	4	9	0	0	43
婦人健診	0	0	4	6	3	4	1	1	4	5	0	0	28
前立腺がん	0	0	6	12	9	11	5	9	12	8	0	0	72
肺がん	0	0	8	15	18	22	21	15	17	16	0	0	132
肝炎ウイルス	0	0	2	1	3	1	6	3	1	4	0	0	21
合計	0	0	72	107	120	151	143	153	148	142	49	42	1,127

8) 脳ドックセンター受診者数

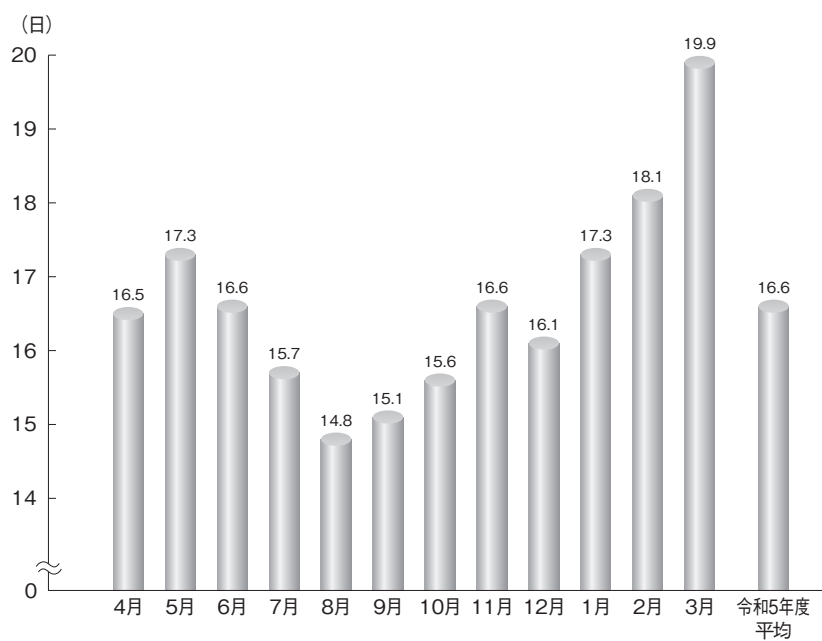
(人／月)



9) 入院患者数



10) 平均在院日数



11) 令和5年度病床編成

	2 F	3 西	3 東	4 西	4 東	ドック		
R5.2 ~	一般急性期 : 50	一般急性期 : 39	一般急性期 : 40	回復期リハビリ : 47	回復期リハビリ : 44	—	一般急性期 : 129 回復期リハ : 91	計 : 220

12) 疾患別退院患者数 (DPC分類による)

12-1 主要診断群別統計 (MDC)

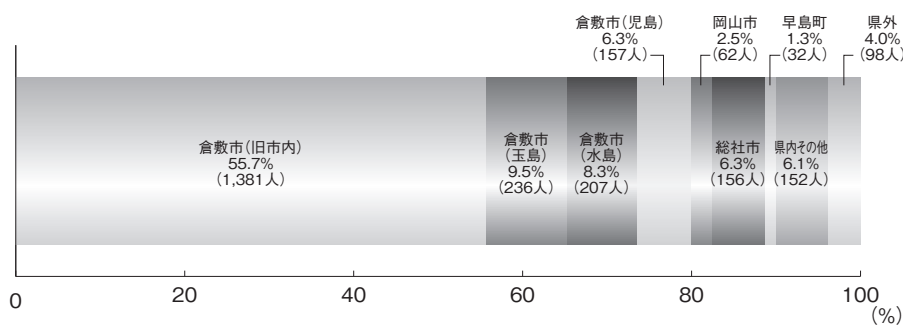
MDC2 コード	名 称	件数	平均 在院日数	入院期間率				DPC1日 当り平均
				期間Ⅰ	期間Ⅱ	期間Ⅲ	期間Ⅲ超	
01	神経系疾患	620	18.1	14.2%	40.3%	37.9%	3.4%	59,920
02	眼科系疾患	1	6	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	48,057
03	耳鼻咽喉科系疾患	207	3.7	26.1%	55.6%	18.4%	0.0%	80,012
04	呼吸器系疾患	227	26.3	16.7%	23.3%	52.0%	7.5%	38,011
05	循環器系疾患	43	17.6	18.6%	20.9%	58.1%	2.3%	41,907
06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	118	14.8	9.3%	20.3%	61.0%	9.3%	37,972
07	筋骨格系疾患	222	18.5	13.1%	34.7%	44.1%	4.1%	50,000
08	皮膚・皮下組織の疾患	24	30.8	8.3%	29.2%	58.3%	4.2%	33,974
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	62	22.5	19.4%	16.1%	46.8%	14.5%	35,487
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖系疾患	51	17.2	11.8%	35.3%	41.2%	11.8%	37,493
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患	31	23.8	22.6%	25.8%	38.7%	12.9%	45,063
16	外傷・熱傷・中毒	690	18	15.5%	36.7%	39.0%	4.5%	53,707
17	精神疾患	9	3.1	66.7%	11.1%	0.0%	0.0%	51,198
18	その他	83	21.8	6.0%	3.6%	9.6%	3.6%	43,647
計		2,388	17.8	15.6%	34.7%	39.3%	4.7%	50,546

12-2 診断群分類 (DPC上位6桁) TOP20

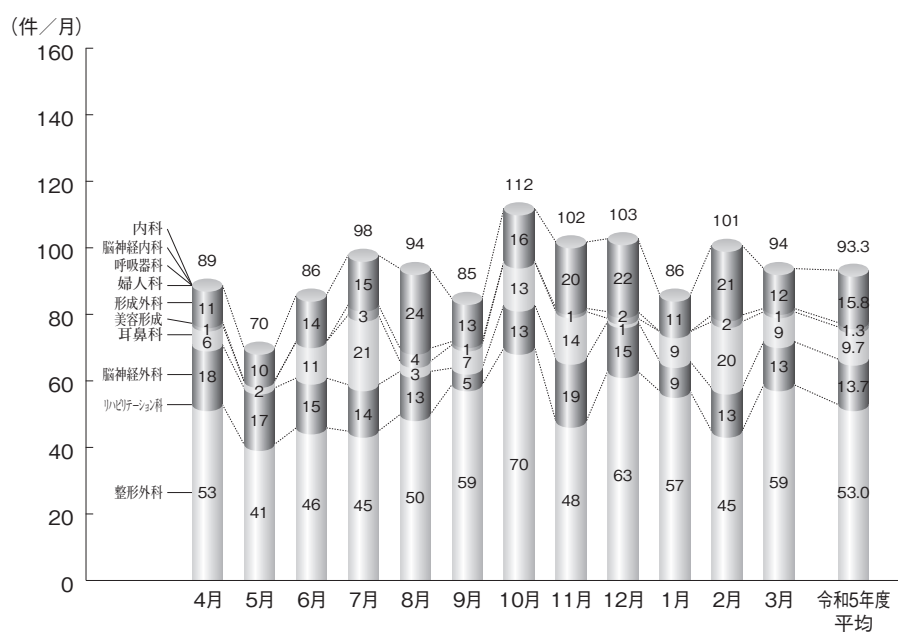
	MDC6 コード	名 称	件数	平均 在院日数	入院期間率				DPC1日 当り平均
					期間Ⅰ	期間Ⅱ	期間Ⅲ	期間Ⅲ超	
1	010060	脳梗塞	222	19.9	12.6%	39.6%	41.4%	2.3%	46,621
2	040081	誤嚥性肺炎	133	32.3	13.5%	23.3%	53.4%	9.0%	37,663
3	010160	パーキンソン病	130	17.4	16.9%	54.6%	24.6%	3.1%	84,906
4	160800	股関節・大腿近位の骨折	126	19.1	11.1%	56.3%	24.6%	0.8%	71,632
5	160690	胸椎・腰椎以下骨折損傷 (胸・腰髄損傷を含む。)	101	18.6	16.8%	29.7%	43.6%	0.0%	44,369
6	160620	肘・膝の外傷 (スポーツ障害等を含む。)	92	11.8	4.3%	70.7%	17.4%	7.6%	81,959
7	160100	頭蓋・頭蓋内損傷	90	12.3	33.3%	22.2%	38.9%	2.2%	46,024
8	030400	前庭機能障害	78	3.4	42.3%	38.5%	19.2%	0.0%	48,699
9	070370	脊椎骨粗鬆症	74	23.7	9.5%	36.5%	44.6%	1.4%	39,936
10	180030	その他の感染症 (真菌を除く。)	61	16.7	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%	47,612
11	040080	肺炎等	55	18.7	25.5%	29.1%	41.8%	3.6%	40,430
12	010040	非外傷性頭蓋内血腫 (非外傷性硬膜下血腫以外)	53	22.5	15.1%	43.4%	32.1%	3.8%	52,714
13	030250	睡眠時無呼吸	45	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	53,342
14	110310	腎臓又は尿路の感染症	42	16.7	7.1%	38.1%	47.6%	7.1%	37,458
15	160980	骨盤損傷	41	24	7.3%	31.7%	51.2%	2.4%	36,697
16	010230	てんかん	39	19.8	12.8%	35.9%	43.6%	7.7%	39,454
17	010200	水頭症	37	12.8	5.4%	48.6%	29.7%	2.7%	70,435
18	060100	小腸大腸の良性疾患 (良性腫瘍を含む。)	36	3.8	0.0%	8.3%	88.9%	2.8%	47,511
19	010050	非外傷性硬膜下血腫	34	15.2	2.9%	32.4%	58.8%	5.9%	53,147
20	160610	四肢筋腱損傷	34	28.2	8.8%	2.9%	73.5%	14.7%	49,663
全 体			2,388	17.8	15.6%	34.7%	39.3%	4.7%	50,546

13) 地域別入院患者数

	(人)	(%)
倉敷市 (旧市内)	1,381	55.66
倉敷市 (玉島)	236	9.51
倉敷市 (水島)	207	8.34
倉敷市 (児島)	157	6.33
岡山市	62	2.50
総社市	156	6.29
早島町	32	1.29
県内その他	152	6.13
県外	98	3.95
合計	2,481	100.00



14) 診療科別手術件数



15) 疾病別・診療科別・患者数（大分類）

コード	国際分類 大項目分類	総数	内科	脳神経内	循環器	消化器	小児科	外科	整形	脳外科	皮膚科	呼吸器	リハ	眼科	耳鼻科	麻酔科	放射線	歯科	和漢	形成	婦人科	脳卒中	救急
	総数	計	2,481	254	515	6	—	—	—	609	546	—	187	92	—	165	—	3	—	—	—	103	1
		男	1,162	130	240	2	—	—	—	250	280	—	104	21	—	88	—	1	—	—	—	45	1
		女	1,319	124	275	4	—	—	—	359	266	—	83	71	—	77	—	2	—	—	—	58	—
I	感染症及び 寄生虫症	計	33	15	6	—	—	—	—	—	3	—	3	—	—	6	—	—	—	—	—	—	—
		男	12	2	3	—	—	—	—	—	2	—	2	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—
		女	21	13	3	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—
II	新生物<腫瘍> (悪性新生物 <腫瘍>)	計	48	15	5	—	—	—	—	2	7	—	18	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—
		男	29	11	2	—	—	—	—	2	3	—	10	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—
		女	19	4	3	—	—	—	—	—	4	—	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
III	血液及び造血 器の疾患 並びに免疫 機構の障害	計	15	8	4	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		男	5	4	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		女	10	4	4	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
IV	内分泌、栄 養及び代謝 疾患	計	53	27	25	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		男	31	15	16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		女	22	12	9	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
V	精神及び行 動の障害	計	15	—	8	—	—	—	—	1	3	—	2	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—
		男	7	—	2	—	—	—	—	1	2	—	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—
		女	8	—	6	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
VI	神経系の疾 患	計	326	2	113	—	—	—	—	5	163	—	4	—	—	34	—	—	—	—	—	5	—
		男	181	2	51	—	—	—	—	2	96	—	3	—	—	25	—	—	—	—	—	2	—
		女	145	—	62	—	—	—	—	3	67	—	1	—	—	9	—	—	—	—	—	3	—
VII	眼及び付属 器の疾患	計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		男	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		女	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
VIII	耳及び乳様 突起の疾患	計	110	—	28	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	79	—	—	—	—	—	1	—
		男	40	—	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	30	—	—	—	—	—	—	—
		女	70	—	18	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	49	—	—	—	—	—	1	—
IX	循環器系の 疾患	計	391	18	144	3	—	—	—	117	—	9	3	—	—	1	—	1	—	—	—	95	—
		男	204	13	76	1	—	—	—	67	—	4	2	—	—	—	—	—	—	—	—	41	—
		女	187	5	68	2	—	—	—	50	—	5	1	—	—	1	—	1	—	—	—	54	—
X	呼吸器系の 疾患	計	239	27	51	2	—	—	—	2	9	—	114	—	—	32	—	2	—	—	—	—	—
		男	138	13	25	—	—	—	—	1	4	—	70	—	—	24	—	1	—	—	—	—	—
		女	101	14	26	2	—	—	—	1	5	—	44	—	—	8	—	1	—	—	—	—	—
XI	消化器系の 疾患	計	96	83	8	—	—	—	—	—	1	—	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		男	54	49	3	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		女	42	34	5	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
XII	皮膚及び皮 下組織の疾 患	計	24	7	6	—	—	—	—	7	2	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		男	17	4	5	—	—	—	—	5	1	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		女	7	3	1	—	—	—	—	2	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
XIII	筋骨格系及 び結合組織 の疾患	計	175	4	20	—	—	—	—	136	10	—	3	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		男	82	2	9	—	—	—	—	66	4	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		女	93	2	11	—	—	—	—	70	6	—	3	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
XIV	腎尿路生殖 器系の疾患	計	59	27	21	—	—	—	—	2	2	—	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		男	15	7	2	—	—	—	—	1	2	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		女	44	20	19	—	—	—	—	1	—	—	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
XV	妊娠、分娩 及び産じょ く	計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		男	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		女	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
XVI	周産期に発 生した病態	計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		男	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		女	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
XVII	先天奇形、 変形及び染 色体異常	計	1	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		男	1	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		女	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
XVIII	症状、徴候及び異 常臨床所見・異常 検査所見で他に分 類されないもの	計	58	10	23	—	—	—	—	11	—	2	—	—	11	—	—	—	—	—	—	—	1
		男	27	4	12	—	—	—	—	5	—	1	—	—	4	—	—	—	—	—	—	—	1
		女	31	6	11	—	—	—	—	6	—	1	—	—	7	—	—	—	—	—	—	—	—
XIX	損傷、中毒及 びその他の外 因の影響	計	777	6	44	1	—	—	—	452	181	—	5	86	—	—	—	—	—	—	—	2	—
		男	289	3	20	1	—	—	—	172	72	—	1	18	—	—	—	—	—	—	—	2	—
		女	488	3	24	—	—	—	—	280	109	—	4	68	—	—	—	—	—	—	—	—	—
XXI	健康状態に影響を 及ぼす要因及び保 健サービスの利用	計	5	1	1	—	—	—	—	2	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		男	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		女	5	1	1	—	—	—	—	2	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
XXII	特殊目的用 コード	計	56	4	8	—	—	—	—	34	—	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		男	30	1	4	—	—	—	—	20	—	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		女	26	3	4	—	—	—	—	14	—	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

16) 疾病別・年齢階層別・患者数（大分類）

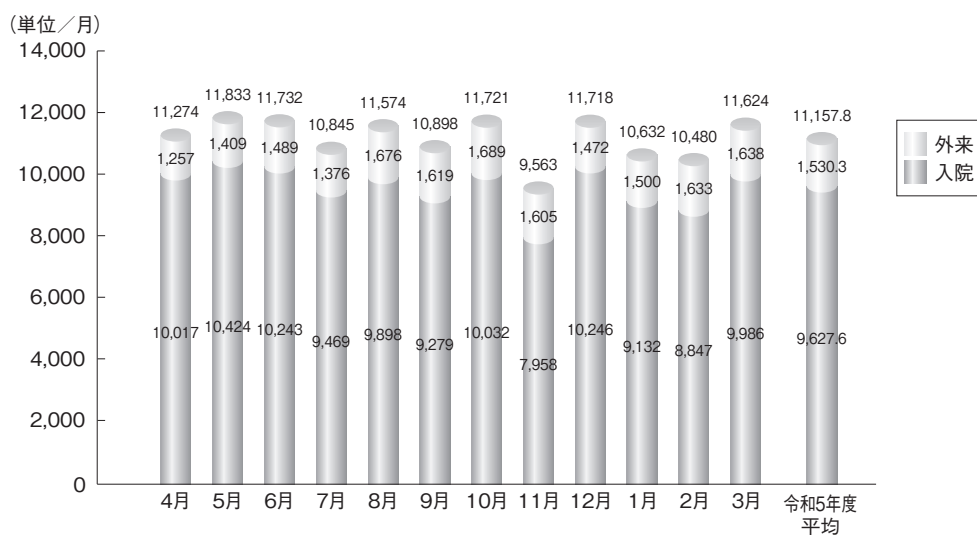
コード	国際分類 大項目分類		総数	0歳～ 11ヶ月	1歳～ 4歳	5歳～ 9歳	10歳～ 14歳	15歳～ 19歳	20歳～ 29歳	30歳～ 39歳	40歳～ 49歳	50歳～ 59歳	60歳～ 69歳	70歳～ 79歳	80歳～ 89歳	90歳～	平均年齢	
	総数	計	2,481	—	—	3	19	80	53	60	105	166	256	598	767	374	72.5	
		男	1,162	—	—	3	14	47	31	40	70	89	132	311	309	116	68.8	
		女	1,319	—	—	—	5	33	22	20	35	77	124	287	458	258	75.8	
I	感染症及び 寄生虫症	計	33	—	—	—	—	3	—	1	1	4	3	8	10	3	68.0	
		男	12	—	—	—	—	2	—	1	1	1	—	3	4	—	60.0	
		女	21	—	—	—	—	1	—	—	—	3	3	5	6	3	72.6	
II	新生物<腫瘍> (悪性新生物 <腫瘍>)	計	48	—	—	—	—	—	—	1	1	1	5	16	16	8	76.8	
		男	29	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	5	7	10	6	77.4
		女	19	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	9	6	2	75.8
III	血液及び造血 器の疾患 並びに免疫 機構の障害	計	15	—	—	—	—	—	—	—	—	2	2	1	6	4	80.3	
		男	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—	3	—	77.6
		女	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	3	4	81.7
IV	内分泌、栄養 及び代謝 疾患	計	53	—	—	—	—	—	1	1	1	3	5	12	23	7	77.4	
		男	31	—	—	—	—	—	1	—	—	3	4	9	10	4	75.6	
		女	22	—	—	—	—	—	—	1	1	—	1	3	13	3	79.9	
V	精神及び行動 の障害	計	15	—	—	—	—	—	1	2	—	—	3	5	4	—	67.0	
		男	7	—	—	—	—	—	1	2	—	—	2	1	1	—	55.0	
		女	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	4	3	—	77.5	
VI	神経系の疾 患	計	326	—	—	—	1	6	4	7	18	46	73	98	56	17	67.9	
		男	181	—	—	—	—	5	2	4	16	35	32	55	24	8	65.6	
		女	145	—	—	—	1	1	2	3	2	11	41	43	32	9	70.8	
VII	眼及び付属 器の疾患	計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		男	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		女	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
VIII	耳及び乳様 突起の疾患	計	110	—	—	—	—	1	—	4	8	13	24	40	15	5	68.3	
		男	40	—	—	—	—	—	—	3	1	2	9	21	4	—	68.9	
		女	70	—	—	—	—	1	—	1	7	11	15	19	11	5	67.9	
IX	循環器系の 疾患	計	391	—	—	—	—	1	—	3	5	24	35	105	144	74	79.1	
		男	204	—	—	—	—	—	—	2	4	17	25	66	62	28	76.5	
		女	187	—	—	—	—	1	—	1	1	7	10	39	82	46	81.9	
X	呼吸器系の 疾患	計	239	—	—	—	—	1	3	11	13	5	9	46	87	64	78.4	
		男	138	—	—	—	—	1	2	7	11	2	2	34	55	24	76.0	
		女	101	—	—	—	—	—	1	4	2	3	7	12	32	40	81.5	
XI	消化器系の 疾患	計	96	—	—	—	—	—	—	—	5	8	16	27	25	15	75.3	
		男	54	—	—	—	—	—	—	—	5	6	13	15	10	5	71.1	
		女	42	—	—	—	—	—	—	—	—	2	3	12	15	10	80.7	
XII	皮膚及び皮 下組織の疾 患	計	24	—	—	—	—	—	1	—	—	1	2	6	12	2	77.0	
		男	17	—	—	—	—	—	1	—	—	1	1	5	8	1	74.7	
		女	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	4	1	82.4	
XIII	筋骨格系及び結合組織 の疾患	計	175	—	—	—	4	8	7	8	17	22	12	40	45	12	64.2	
		男	82	—	—	—	4	5	3	7	8	8	6	23	16	2	59.3	
		女	93	—	—	—	—	3	4	1	9	14	6	17	29	10	68.5	
XIV	腎尿路生殖 器系の疾患	計	59	—	—	—	—	—	1	1	1	1	3	14	17	21	81.5	
		男	15	—	—	—	—	—	1	1	1	1	1	5	1	4	71.7	
		女	44	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	9	16	17	84.9	
XV	妊娠、分娩 及び産じょく	計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		男	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		女	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
XVI	周産期に発生した病態	計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		男	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		女	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
XVII	先天奇形、 変形及び染色体異常	計	1	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	38.0	
		男	1	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	38.0	
		女	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
XVIII	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	計	58	—	—	—	—	1	2	—	3	1	7	17	20	7	74.2	
		男	27	—	—	—	—	1	2	—	1	—	2	9	8	4	71.9	
		女	31	—	—	—	—	—	—	—	2	1	5	8	12	3	76.3	
XIX	損傷、中毒及びその他の外因の影響	計	777	—	—	3	14	59	33	18	32	35	53	151	258	121	69.3	
		男	289	—	—	3	10	33	18	10	22	12	28	52	75	26	60.9	
		女	488	—	—	—	4	26	15	8	10	23	25	99	183	95	74.3	
XXI	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	計	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	2	2	—	76.4	
		男	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		女	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	2	2	—	76.4	
XXII	特殊目的用コード	計	56	—	—	—	—	—	—	2	—	—	3	10	27	14	81.9	
		男	30	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1	6	18	4	81.2	
		女	26	—	—	—	—	—	—	—	1	—	2	4	9	10	82.8	

17) リハビリテーション部実績

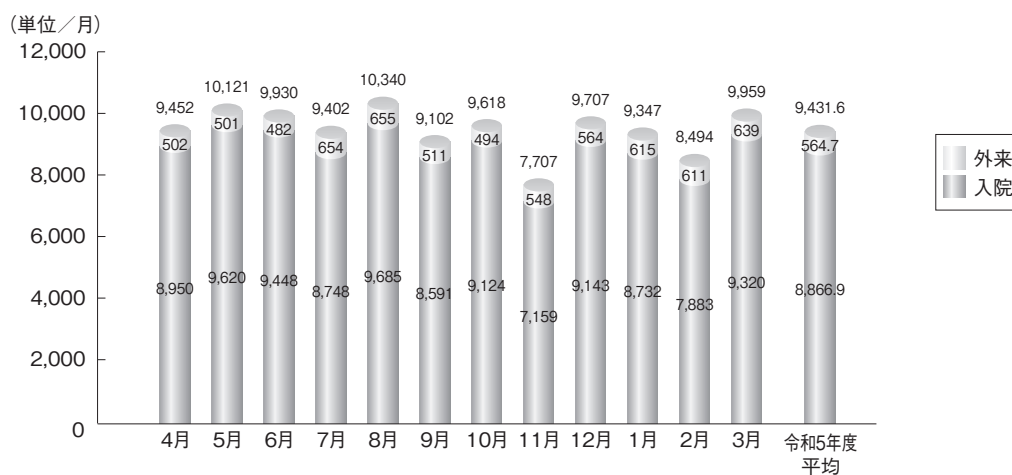
17-1 回復期リハビリテーション病棟 入院料1に係る報告

① 1年間の総退院患者数（2022年7月1日～2023年6月30日）	527名
② ①のうち、入院時に日常生活機能評価が10点以上の重症患者の数	281名
③ ②のうち退院時（転院時を含む。）に日常生活機能評価が4点以上改善した人数	186名
④ 重症患者回復率（③／②）	66%
⑤ 在宅復帰率	83%

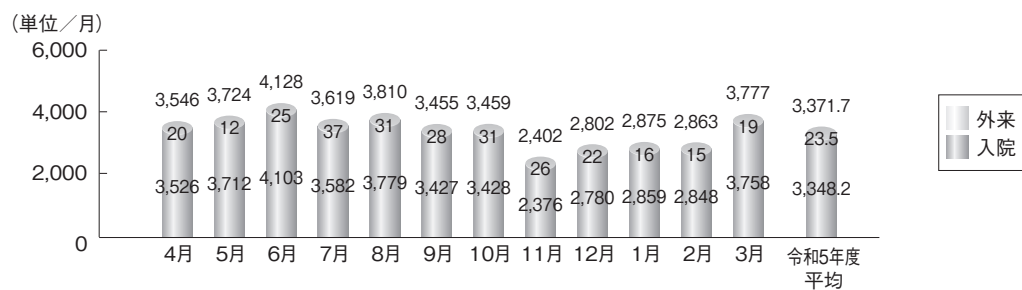
17-2 理学療法実施単位数



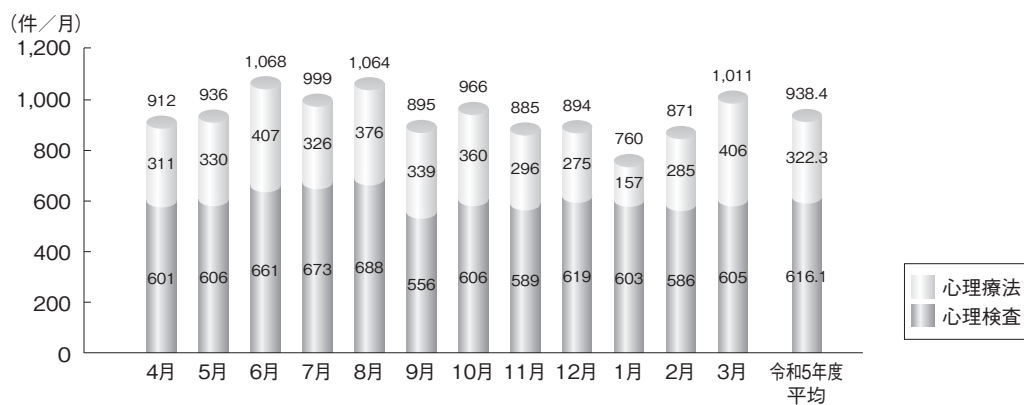
17-3 作業療法実施単位数



17-4 言語聴覚療法実施単位数

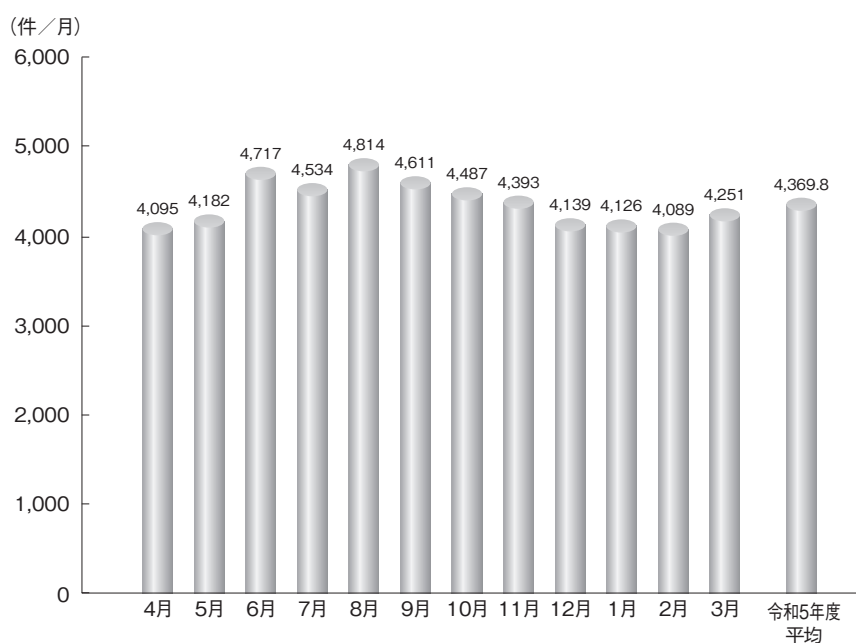


17-5 心理療法実績

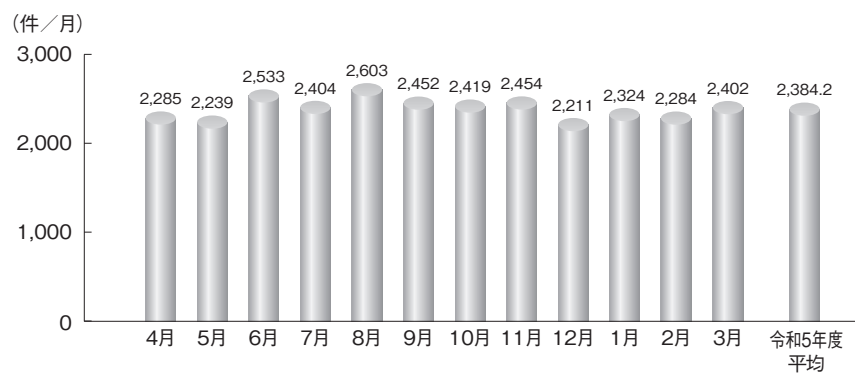


18) 放射線部実績

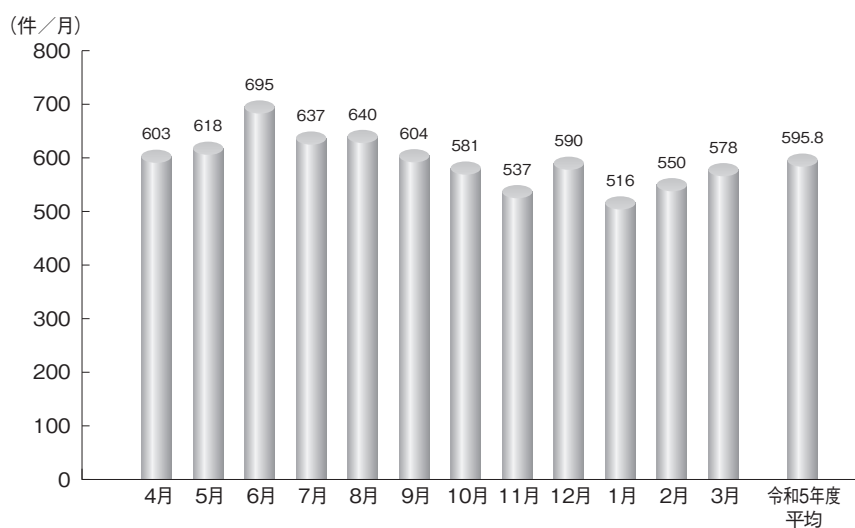
18-1 全件数



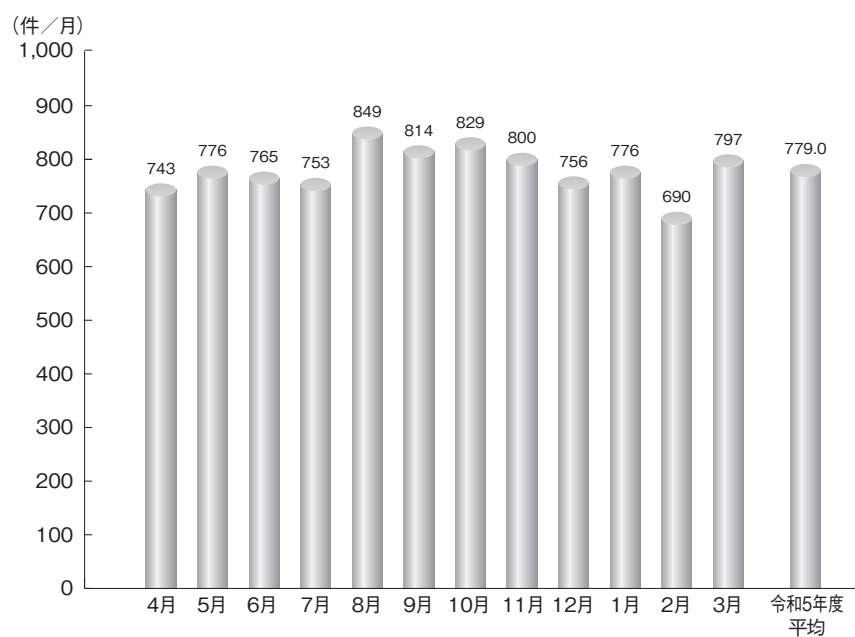
18-2 一般撮影件数



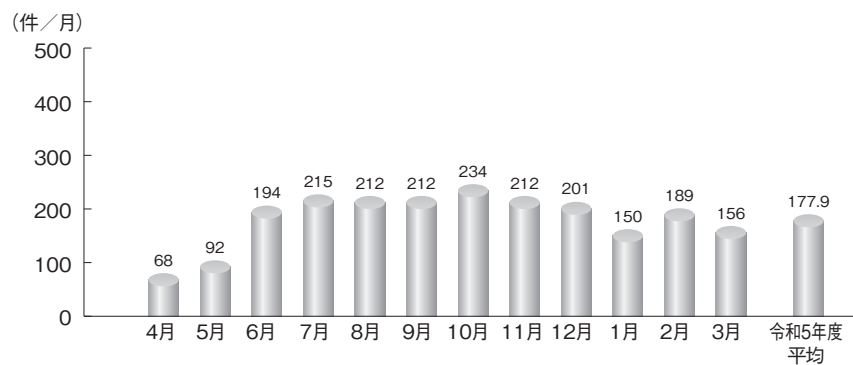
18-3 MR件数



18-4 CT件数

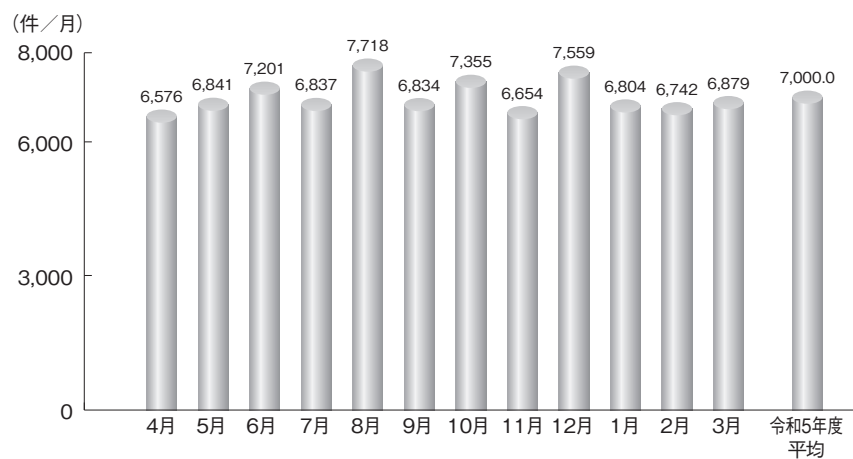


18-5 マンモグラフィ件数

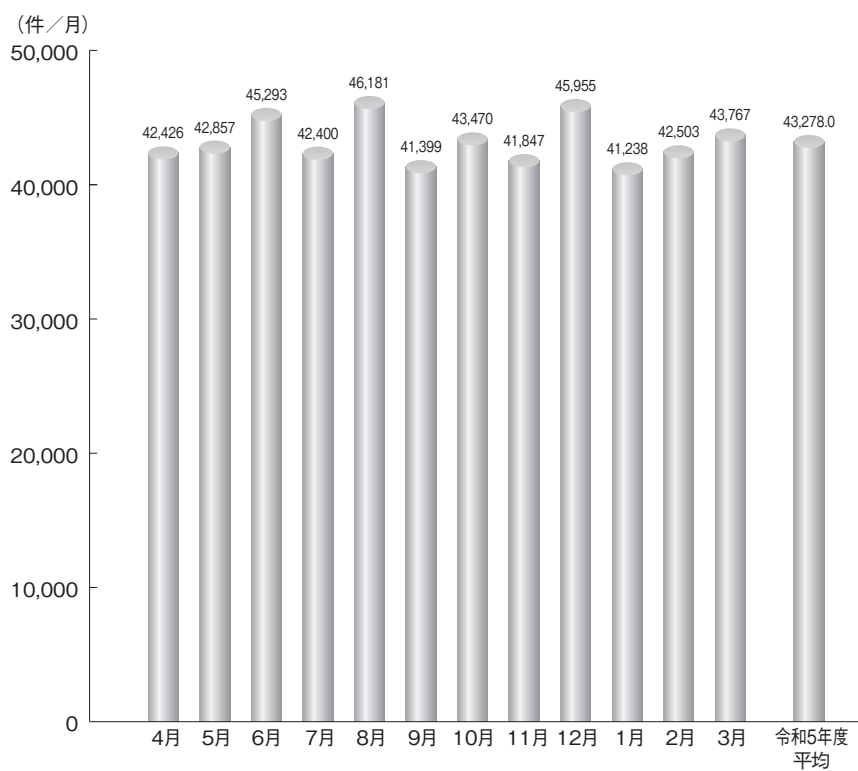


19) 臨床検査部実績

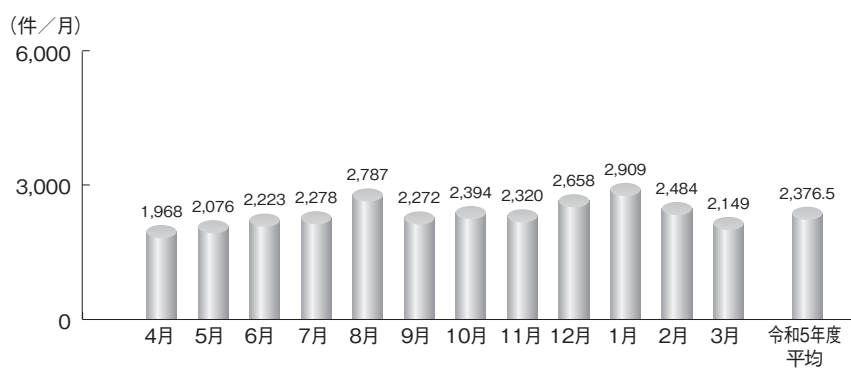
19-1 血液学的検査件数



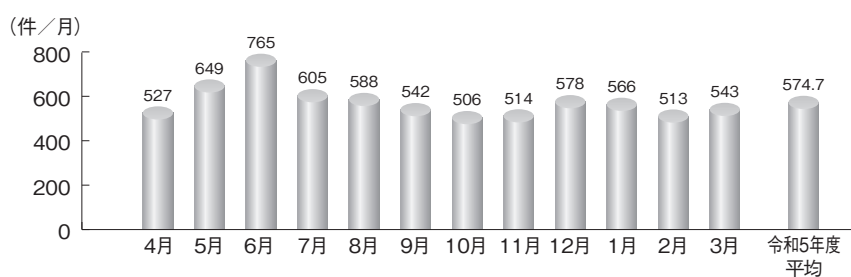
19-2 生化学検査件数



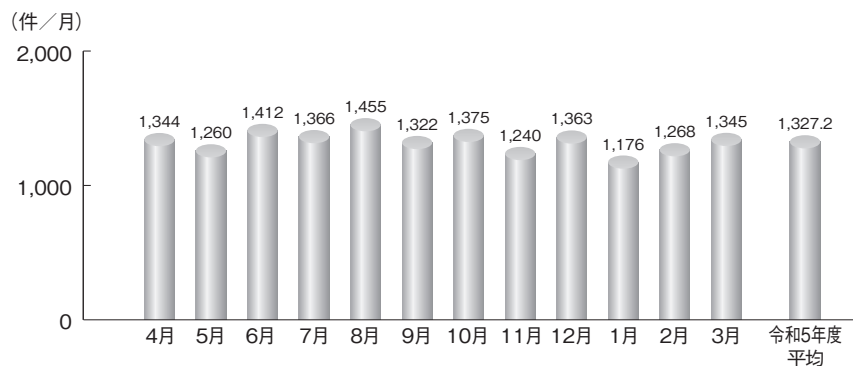
19-3 免疫学的検査件数



19-4 一般検査件数（尿、便、髄液など）



19-5 生理検査件数（心電図、肺機能、脳波、超音波、動脈硬化関連検査、聴力関連など）

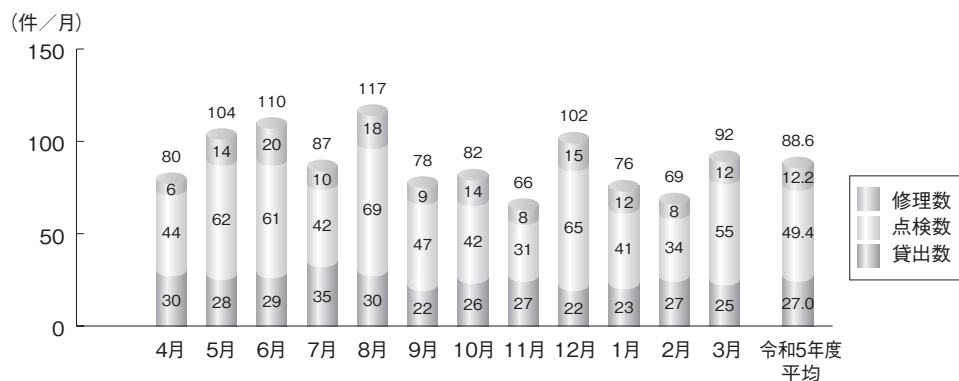


20) 臨床工学科実績

20-1 手術立ち合い件数

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
耳鼻咽喉科ナビゲーションシステム手術	1	1	2	0	2	3	4	2	1	2	1	0	19
DBS手術	3	1	2	2	3	2	1	2	2	2	1	2	23
DBSIPG交換手術	4	1	1	2	2	1	2	1	1	1	1	1	18
DBS抜去手術	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
熱凝固手術	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
SCS植込み手術	0	1	0	2	1	0	0	1	0	0	1	0	6
SCSトライアル手術	1	0	1	1	1	0	2	1	0	0	1	0	8
SCSIPG交換手術	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	3
SCS抜去手術	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
バクロフェン持続髄注療法手術	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
LPシャント手術	2	0	2	1	0	2	1	0	1	0	3	1	13
合計	11	7	8	9	10	8	12	8	6	6	8	4	97

20-2 貸出点検修理件数

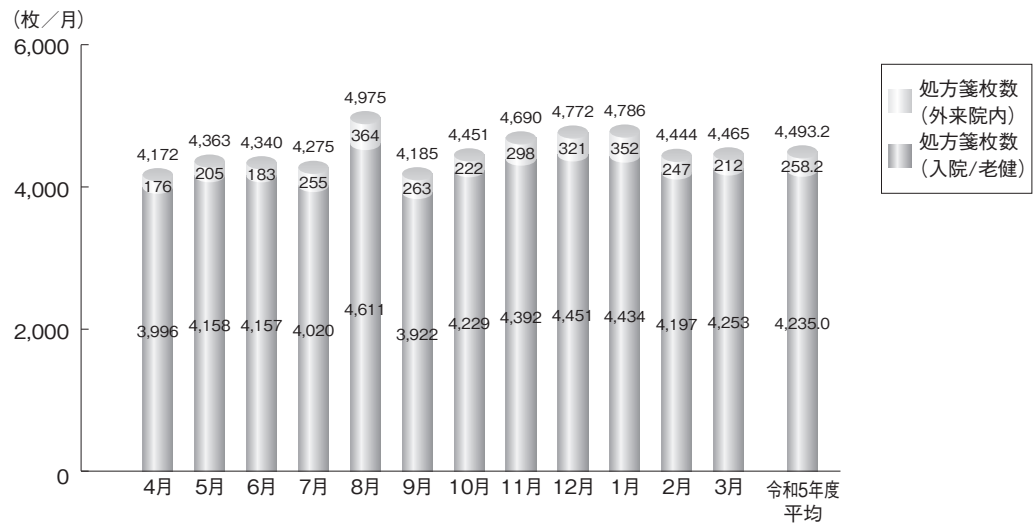


20-3 麻酔器・人工呼吸器点検数

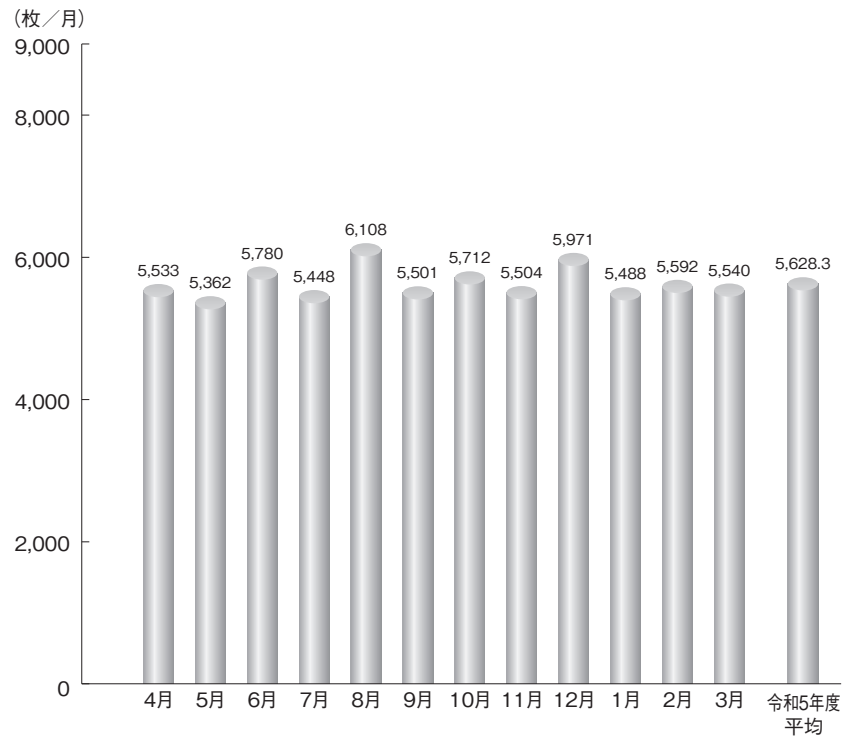
項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
麻酔器・人工呼吸器点検数	11	10	11	10	11	14	9	6	16	8	9	14	129

21) 薬剤部実績

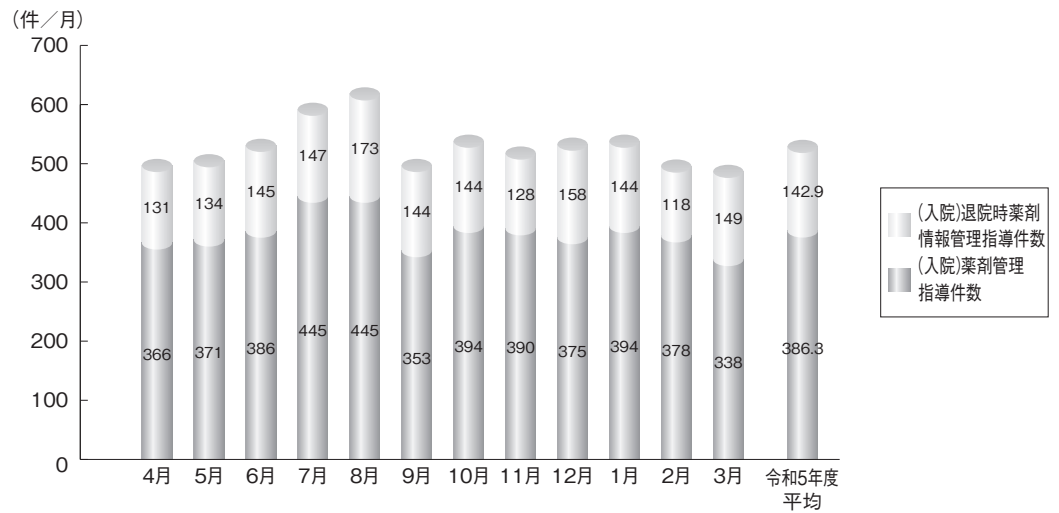
21-1 処方箋枚数（院内）



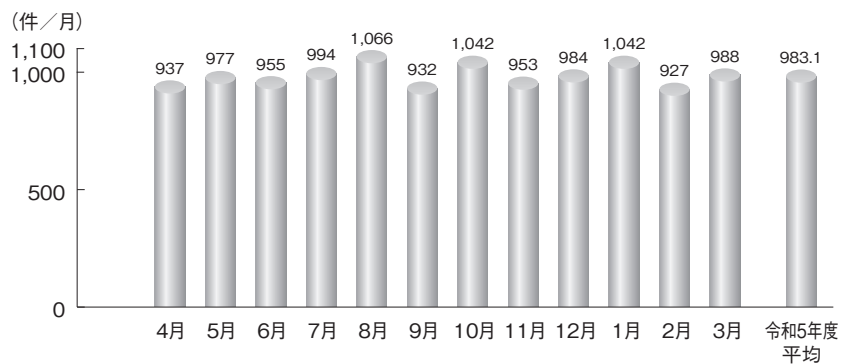
21-2 処方箋枚数（院外）



21-3 服薬指導件数

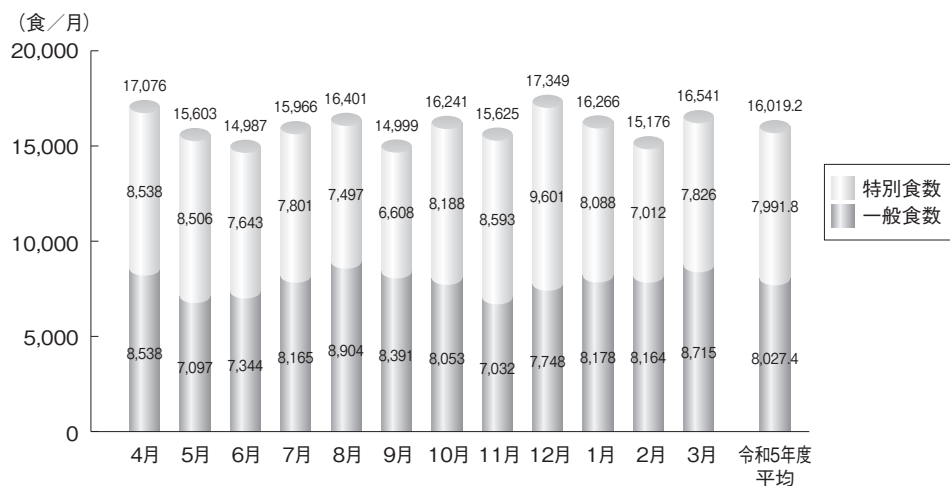


21-4 病棟薬剤業務実施加算件数

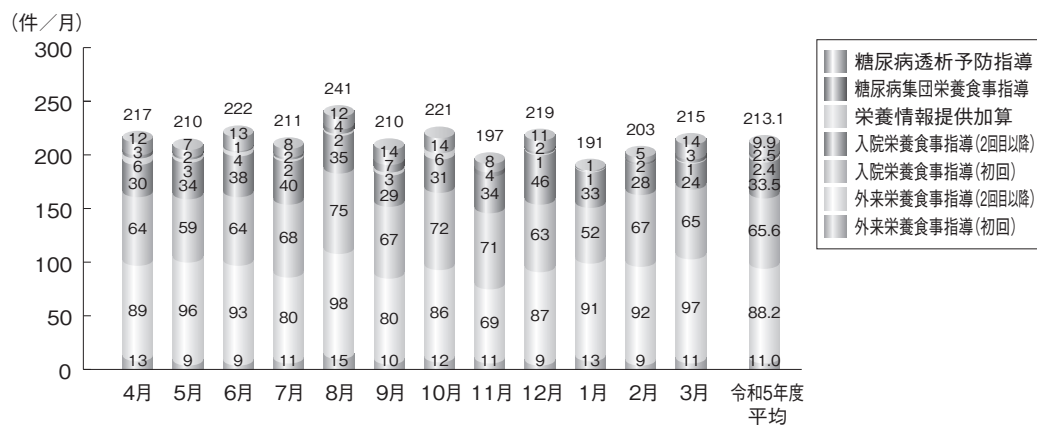


22) 栄養科実績

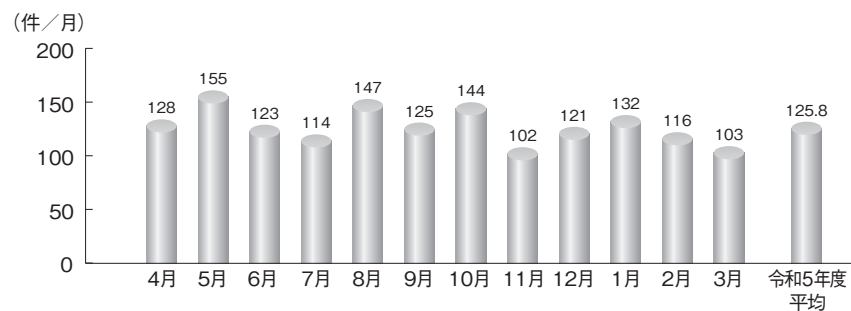
22-1 特別食と一般食の食数



22-2 栄養指導件数



22-3 NST加算件数

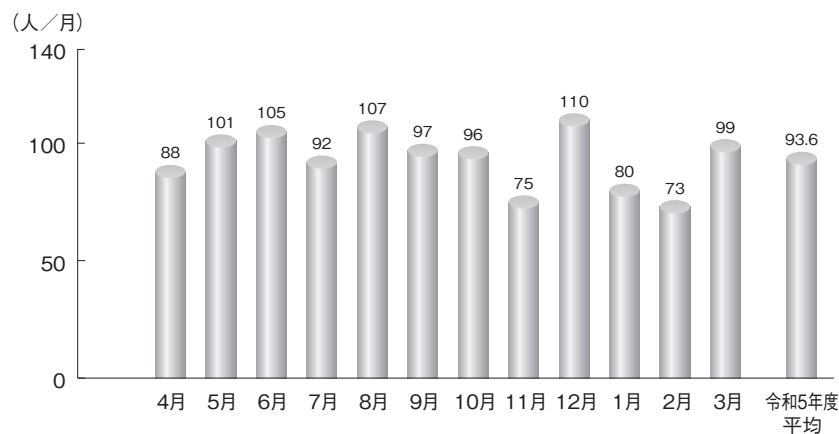


23) 地域医療連携センター

23-1 地域連携業務

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
①受診予約依頼・予約FAX対応（物忘れ外来以外）	39	45	45	40	25	40	36	44	41	39	44	42	480	40.0
②他院への受診予約対応	5	6	10	9	7	16	10	12	13	11	11	14	124	10.3
③他院からの緊急受診依頼	11	22	25	16	25	27	27	25	27	23	25	26	279	23.3
④他院からの情報提供依頼	5	13	12	10	14	10	11	11	13	20	7	9	135	11.3
⑤他院への情報提供依頼	5	8	4	5	2	2	12	3	4	3	4	6	58	4.8
⑥その他	0	1	3	3	4	1	0	1	2	3	3	6	27	2.3
合計	65	95	99	83	77	96	96	96	100	99	94	103	1,103	91.9

23-2 医療相談実績



24) 秘書課

24-1 書類・退院時要約 代行制作件数

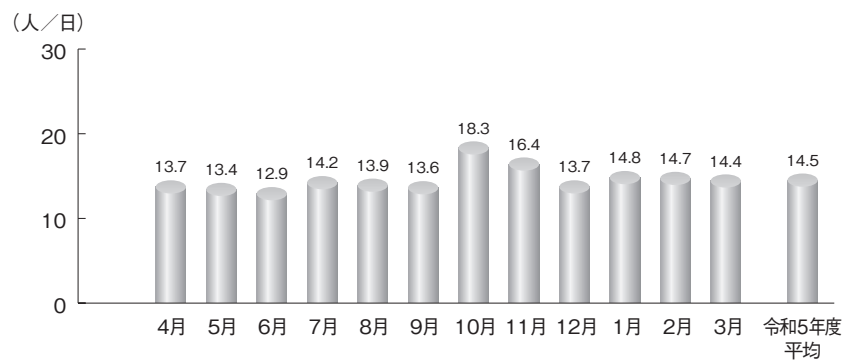
項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総件数
保険会社診断書等 ※1	108	105	116	111	108	121	125	132	126	90	79	92	1,313
主治医意見書	41	41	27	46	49	52	40	37	22	35	66	37	493
傷病手当書	15	22	18	20	27	21	37	30	24	20	26	25	285
訪問看護指示書等	14	13	10	15	20	14	12	11	21	20	21	18	189
成年後見人	0	2	4	6	5	4	2	0	2	4	2	4	35
障害診断書	13	14	8	4	8	10	13	7	15	13	12	3	120
臨床調査個人票	3	68	164	27	5	6	2	2	2	0	0	1	280
医療照会・公安委員	10	17	12	9	18	17	14	16	11	10	21	18	173
情報提供書・紹介返事	251	263	271	278	285	264	260	258	261	219	238	282	3,130
生活保護	24	60	0	42	28	46	60	41	58	65	47	55	526
自賠責	54	60	57	61	56	58	55	51	44	50	40	40	626
その他 ※2	42	29	30	26	48	26	35	27	29	18	28	32	370
退院時要約	62	62	89	93	100	80	77	82	78	61	55	75	914
月別合計	637	756	806	738	757	719	732	694	693	605	635	682	8,454

※1 保険会社診断書等：保険会社診断書・院内書式診断書・回答書・同意書・労災・寝たきり介護・おむつ証明

※2 その他：ケアプラン、明細書

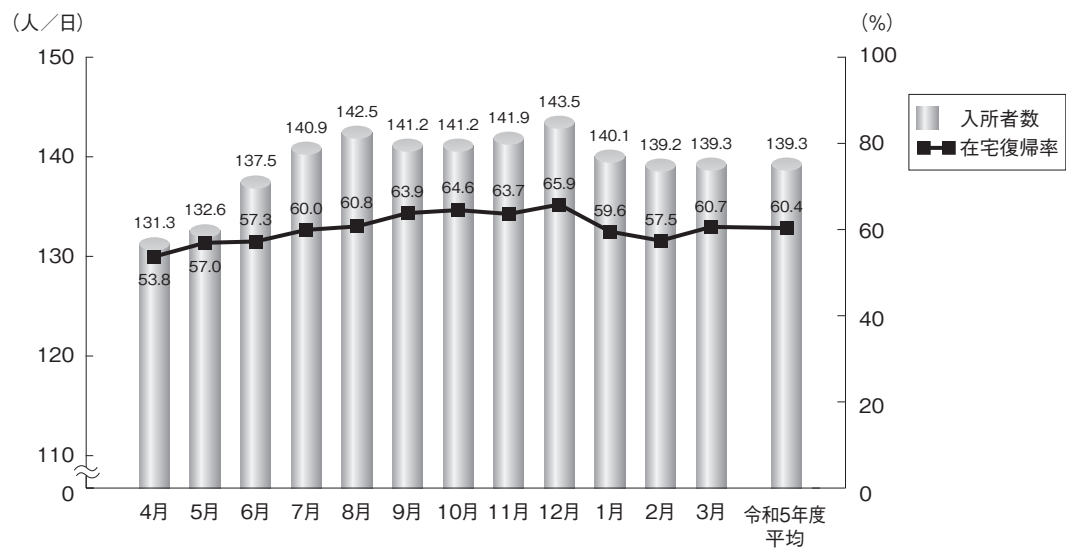
平成南町クリニック

25) クリニック外来患者数



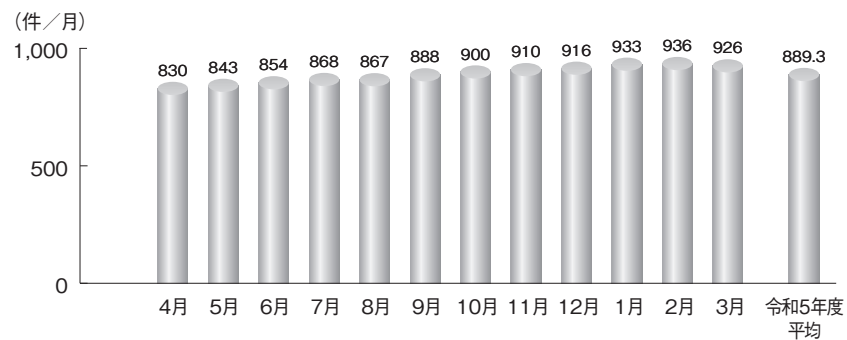
倉敷老健

26) 老健入所者数（定員150人）と在宅復帰率

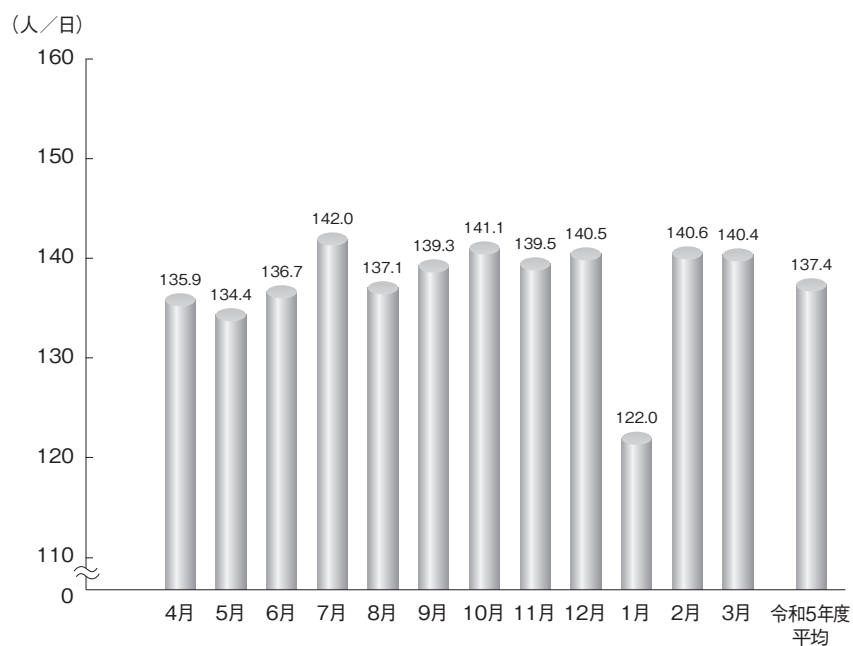


倉敷在宅総合ケアセンター

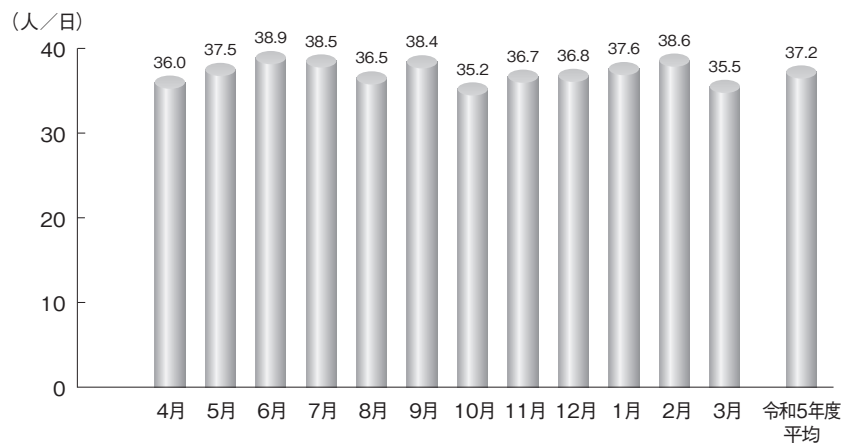
27) ケアプラン件数



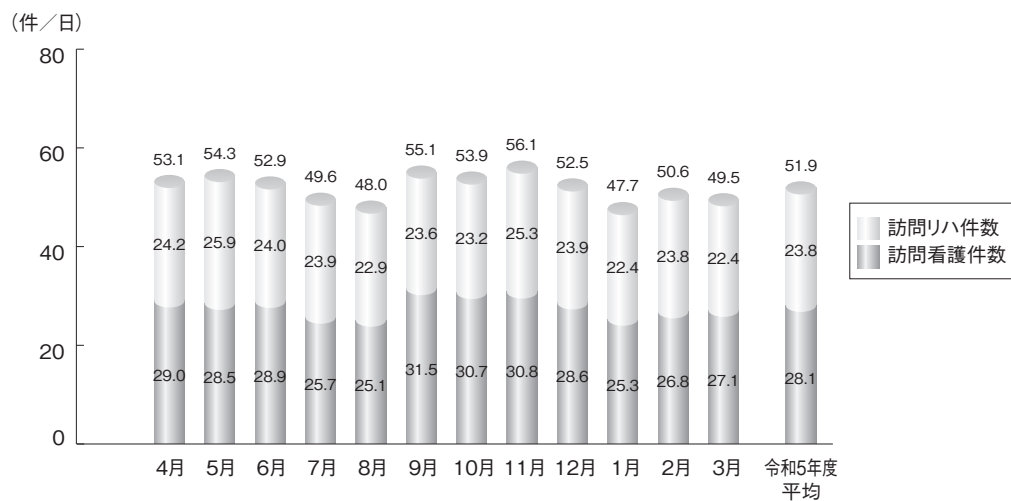
28) 通所リハ利用者数 (定員180人)



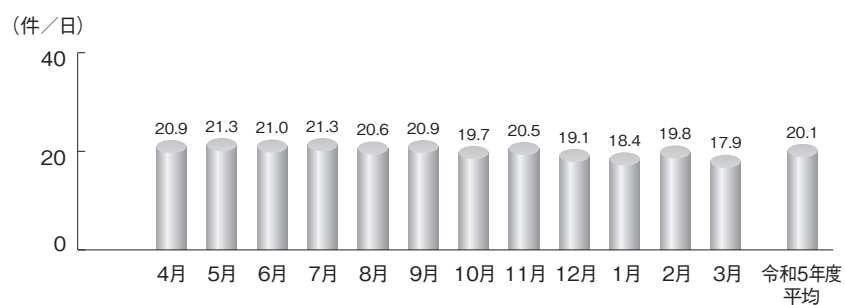
29) 予防リハ利用者数（定員40人）



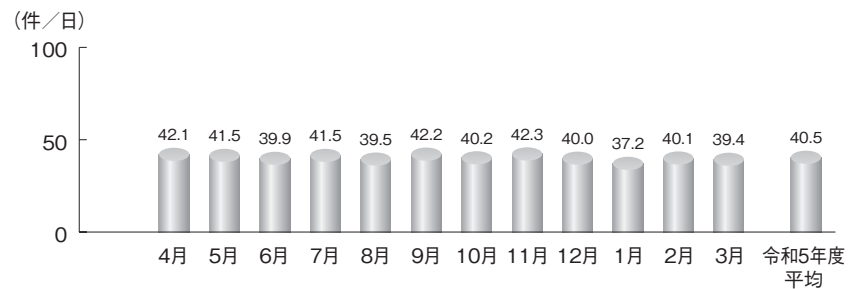
30) 訪問看護ステーション件数



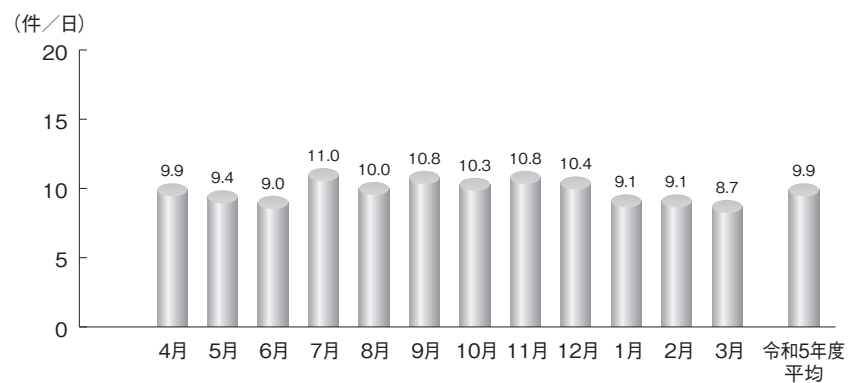
31) 訪問リハ（病院）件数



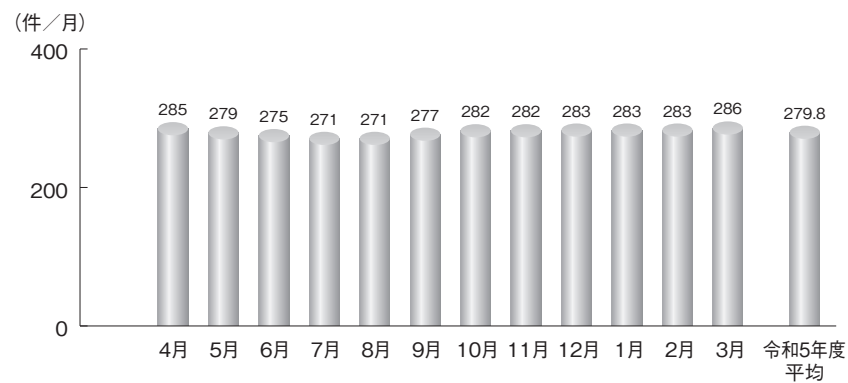
32) 訪問介護（老松）件数



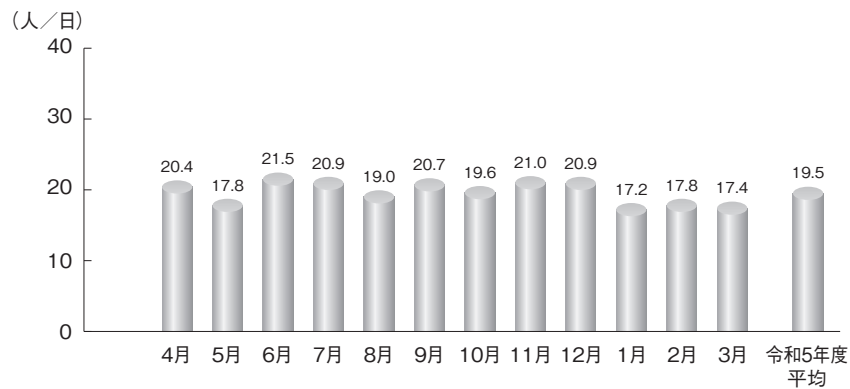
33) 訪問入浴件数



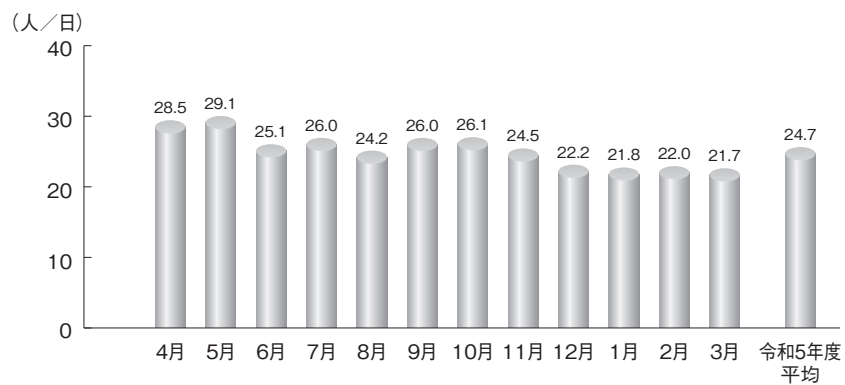
34) 福祉用具貸与件数



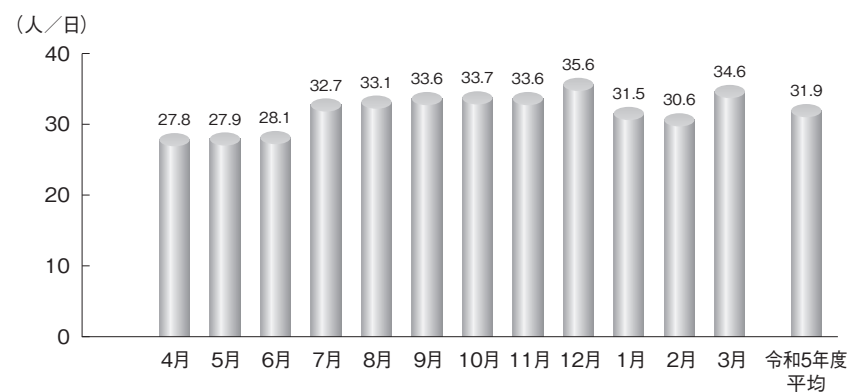
35) 介護タクシー利用者数



36) 鍼灸治療院患者数

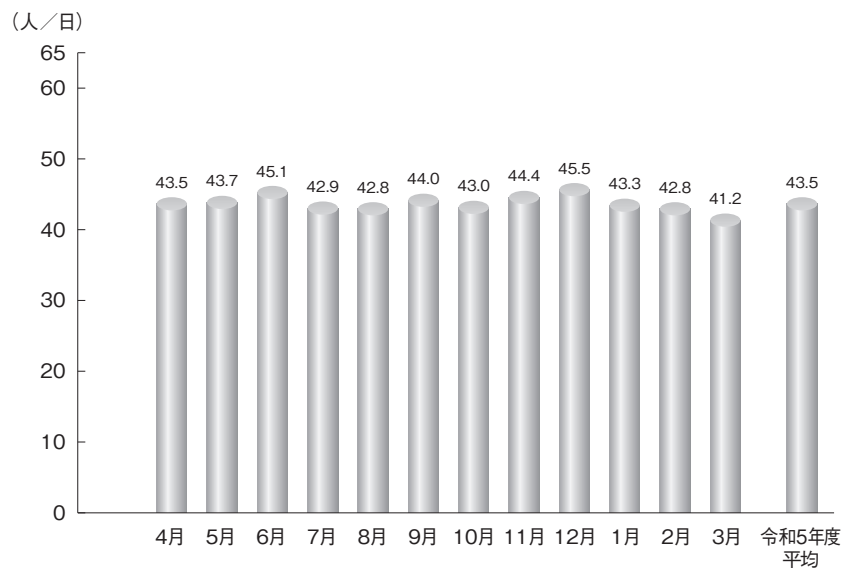


37) ショートステイ利用者数 (定員40人)

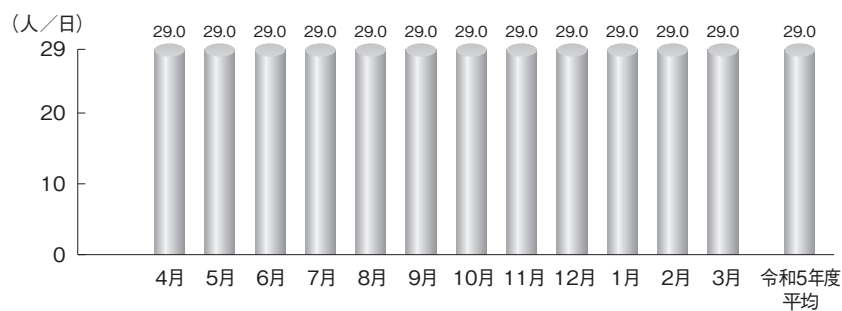


ピースガーデン倉敷

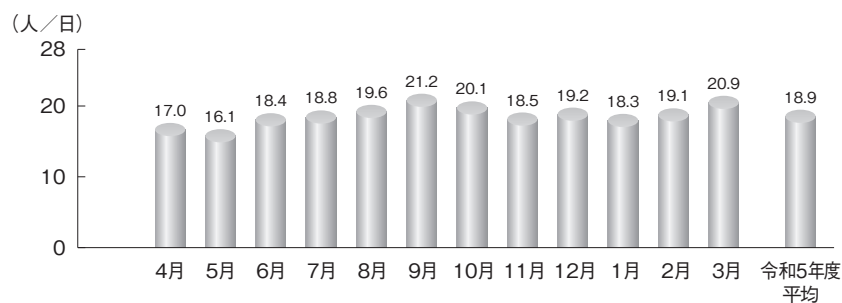
38) リハビリステーション ピース（デイサービス）利用者数（定員65人）



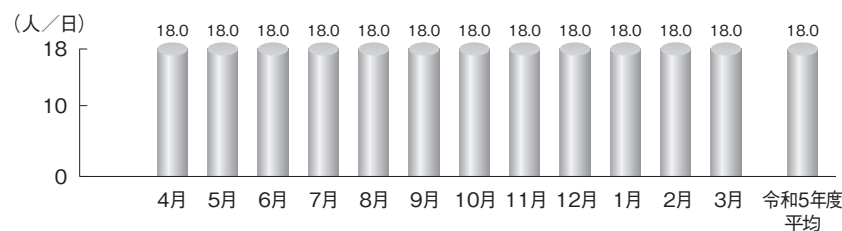
39) 地域密着型特養 ピースガーデン入所者数（定員29人）



40) ピースガーデン倉敷 ショートステイ利用者数（定員28人）

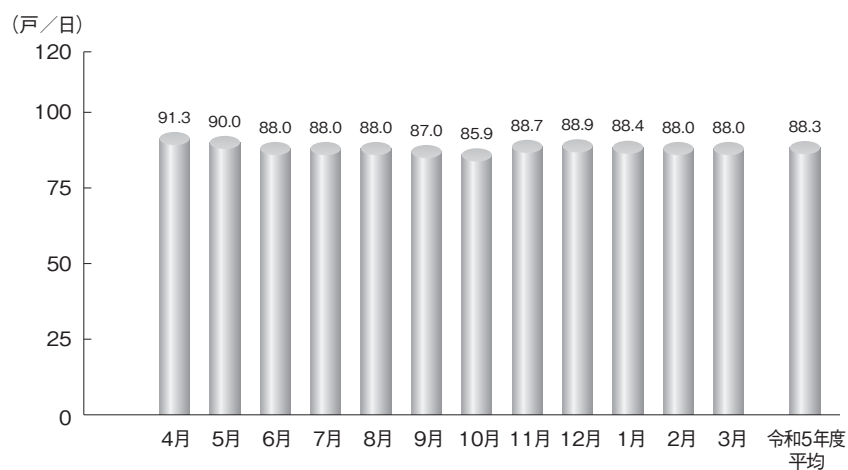


41) グループホーム のぞみ入居者数（定員18人）



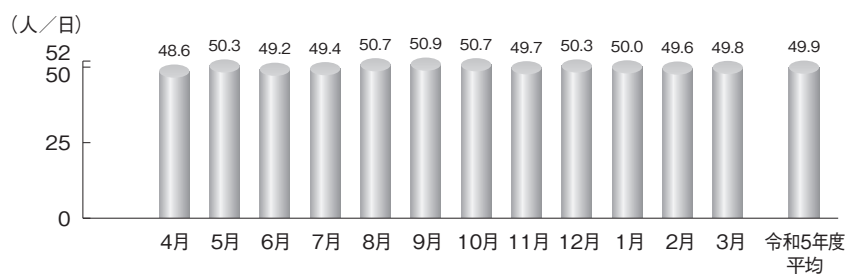
ローズガーデン倉敷

42) ローズガーデン倉敷入居者数（定員120戸）

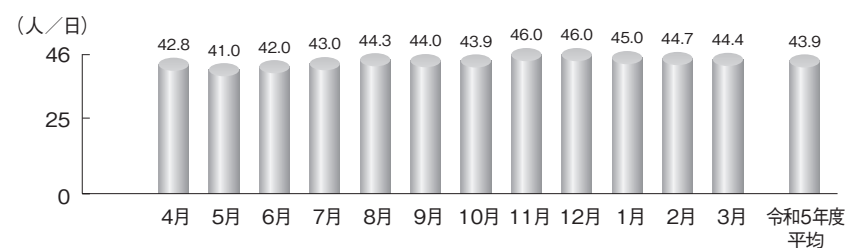


グランドガーデン南町

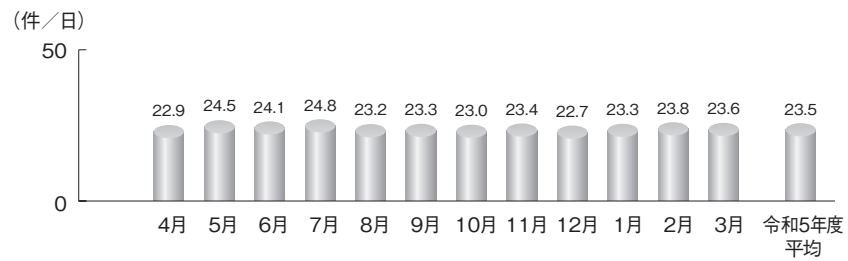
43) サービス付き高齢者向け住宅 グランドガーデン南町入居者数（定員52人）



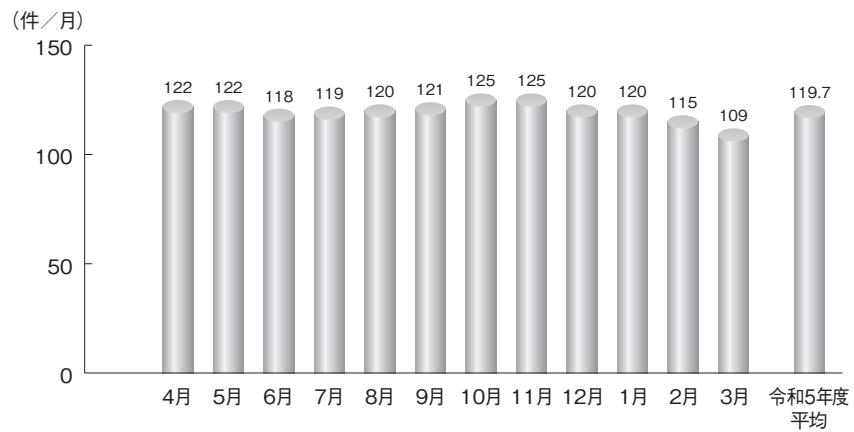
44) 特定施設入居者生活介護 グランドガーデン入居者数（定員46人）



45) ヘルプステーション南町（訪問介護）件数

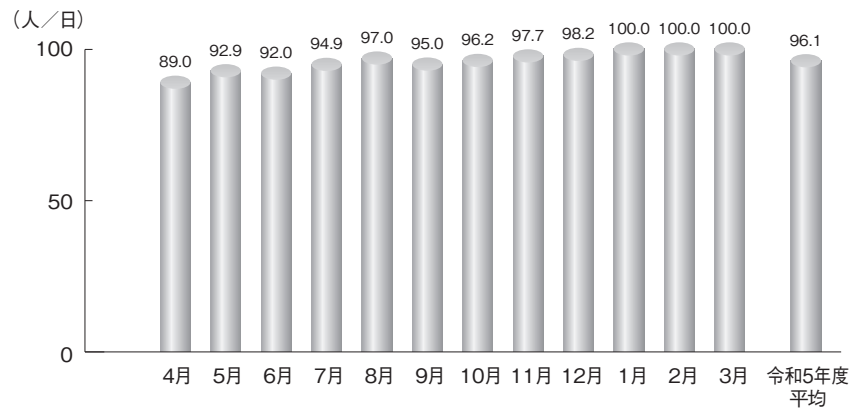


46) 南町ケアプラン室ケアプラン件数

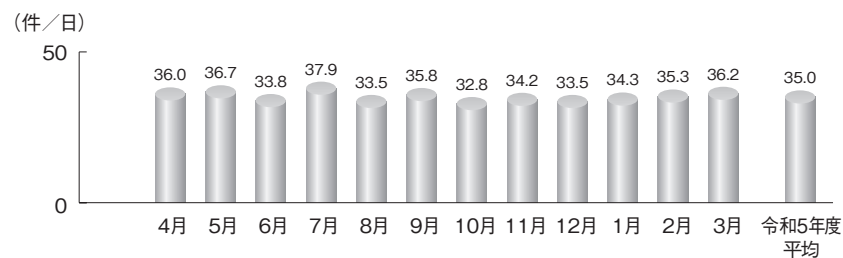


ケアハウス ドリームガーデン倉敷

47) ドリームガーデン倉敷入居者数（定員100人）



48) (社福) 全仁会ヘルプステーション（訪問介護）件数



	高尾聡一郎 (たかお そういちろう) 脳神経外科
【役職】 社会医療法人全仁会 理事長 社会福祉法人全仁会 理事長 脳神経外科部長 【資格・専門医・所属学会】 日本脳神経外科学会専門医 日本定位・機能神経外科学会機能的定位脳手術技術認定医	

	高尾 芳樹 (たかお よしき) 脳神経内科
【役職】 社会医療法人全仁会 倉敷平成病院院長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本神経学会専門医・指導医・代議員 日本認知症学会専門医・指導医 日本頭痛学会専門医 日本人間ドック学会健診専門医 日本内科学会認定内科医 日本脳ドック学会評議員 日本脳血管・認知症学会評議員 日本脳卒中学会 日本老年医学会	

(50音順)

	篠山 英道 (ささやま ひでみち) 脳神経外科
【役職】 社会医療法人全仁会 倉敷平成病院副院長 【資格・専門医・所属学会】 日本脳神経外科学会専門医 日本定位・機能神経外科学会機能的定位脳手術技術認定医 日本リハビリテーション医学会 日本脳卒中の外科学会	

	青山 雅 (あおやま まさこ) 糖尿病・代謝内科
【役職】 倉敷生活習慣病センター診療部長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本糖尿病学会専門医 日本老年病学会専門医 日本血液学会専門医・指導医 日本内科学会認定医 日本東洋医学会	

	石口奈世理 (いしぐち なより) 眼科
【役職】 眼科医長 【資格・専門医・所属学会】 日本眼科学会専門医 日本眼科学術学会	

	岩崎孝一朗 (いわさき こういちろう) 循環器科
【役職】 循環器科部長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本循環器学会専門医 日本心血管インターベンション治療学会 名誉専門医 日本内科学会認定医	

	植田 敏弘 (うえだ としひろ) 婦人科 (2023.8 着任)
【役職】 婦人科部長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本産科婦人科学会専門医 検診マンモグラフィ読影認定医 日本医師会認定産業医 乳がん検診超音波検査実施・判定医	

	大根 祐子 (おおね ゆうこ) リハビリテーション科
【役職】 リハビリテーションセンター長 リハビリテーション科医長 【資格・専門医・所属学会】 日本リハビリテーション医学会専門医・指導責任者 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 認定士 義肢装具等適合判定医・義肢装具専門医	

	大浜 栄作 （おおはま えいさく） 内科
	【役職】 倉敷老健施設長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本神経病理学会名誉会員 臨床神経病理懇話会名誉会員 日本脳腫瘍病理学会功労会員 日本末梢神経学会評議員 病理解剖資格認定医 日本老年医学会 日本病理学会 日本神経学会 日本小児神経学会 日本自律神経学会 日本高次脳機能障害学会 日本認知症学会 鳥取大学名誉教授

	小川 敏英 （おがわ としひで） 放射線科
	【役職】 神経放射線センター長 臨床研究教育長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本専門医機構放射線科専門医 日本医学放射線学会診断専門医・指導医 日本核医学会核医学専門医・PET核医学認定医 日本医学放射線学会名誉会員 日本神経放射線学会名誉会員 鳥取大学名誉教授

	甄 立学 （けん りつがく） 和漢診療科（2023.4より非常勤）
	【役職】 ヘイセイ鍼灸治療院所長 【資格・専門医・所属学会】 中医師（中国） 医学博士 鍼灸師 日本東洋医学会 日本鍼灸師学会

	重松 秀明 （しげまつ ひであき） 脳神経外科
	【役職】 脳神経外科部長 救急部長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本脳神経外科学会専門医 日本プライマリ・ケア連合学会指導医 日本定位・機能神経外科学会機能的定位脳手術技術認定医 日本脳ドック学会

	芝崎 謙作 （しばざき けんさく） 脳卒中内科
	【役職】 脳卒中内科部長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本脳卒中学会専門医・指導医・評議員 日本神経学会専門医・指導医 日本内科学会認定医 日本サルコペニア・フレイル学会

	清水 光春 （しみず みつはる） 放射線科
	【役職】 放射線科部長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本医学放射線学会診断専門医・指導医 日本核医学会専門医 検診マンモグラフィ読影認定医 第1種放射線取扱主任者

	高尾 公子 （たかお きみこ） 内科
	【役職】 社会医療法人全仁会 副理事長 社会福祉法人全仁会 理事 ローズガーデン倉敷顧問 ドリームガーデン倉敷顧問 【資格・専門医・所属学会】 医学博士

	高田 逸朗 （たかだ いつろう） 整形外科
	【役職】 整形外科部長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本整形外科学会専門医 日本手外科学会専門医

	玉田 二郎 (たまだ じろう)
	【役職】 平成南町クリニック院長 【資格・専門医・所属学会】 日本胸外科学会・関西胸外科学会評議員

	都築 昌之 (つづき まさゆき) 内科・消化器科
	【役職】 内科部長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本内科学会認定医・総合内科専門医 日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医

	中川 央彰 (なかがわ えいしょう) 整形外科 (2024.3 退職)
	【資格・専門医・所属学会】 日本整形外科学会

	菱川 望 (ひしかわ のぞみ) 脳神経内科
	【役職】 脳神経内科部長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本内科学会総合内科専門医 日本認知症学会専門医 日本認知症予防学会専門医 日本内科学会認定内科医 カリフォルニア州認定アーユルヴェーダ・ヒーリングコンサルタント カリフォルニア州補完医療大学認定 Ayurvedic Medicine Practitioner

	平川 訓己 (ひらかわ くにつぐ) 整形外科
	【役職】 社会医療法人全仁会 倉敷平成病院名誉院長 【資格・専門医・所属学会】 日本整形外科学会相談医 日本整形外科学会リウマチ医 運動器リハビリテーション医 義肢装具等適合判定医 日本整形外科学会

	平川 宏之 (ひらかわ ひろゆき) 整形外科
	【役職】 整形外科部長 【資格・専門医・所属学会】 日本整形外科学会専門医 日本整形外科学会認定スポーツ医 日本スポーツ協会公認スポーツドクター

	藤田 麻里子 (ふじた まりこ) 歯科
	【資格・専門医・所属学会】 歯学博士 日本歯科放射線学会専門医 日本口腔診断学会 日本口腔科学会 歯科医師臨床研修指導歯科医

	益子 晃子 (ましこ あきこ) 糖尿病・代謝内科 (2024.4 退職)
	【資格・専門医・所属学会】 日本医師会認定産業医 日本糖尿病学会 日本内科学会 日本内分泌学会

	増田 勝巳 （ますだ かつみ） 耳鼻咽喉科
	【役職】 耳鼻咽喉科医長 （2024.4.1より耳鼻咽喉科部長） 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本耳鼻咽喉科学会専門医 日本アレルギー学会専門医（耳鼻咽喉科） 補聴器相談医

	松尾 真二 （まつお しんじ） 整形外科
	【役職】 整形外科部長 【資格・専門医・所属学会】 日本整形外科学会専門医 日本整形外科学会認定脊髄病医

	松本 菜見子 （まつもと なみこ） 脳神経内科
	【役職】 （2024.4.1より脳神経内科医長） 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本神経学会認定神経内科専門医 日本脳卒中学会認定神経内科専門医 日本内科学会認定医

	光井 行輝 （みつい ゆきてる） 脳ドックセンター・婦人科
	【役職】 平成脳ドックセンター検診部長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本産科婦人科学会専門医 母体保護法指定医

	牟礼 英生 （むれ ひでお） 脳神経外科
	【役職】 倉敷ニューロモデュレーションセンター長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本脳神経外科学会専門医 日本脳卒中学会専門医 日本定位・機能神経外科学会機能的定位脳手術技術認定医 日本脊髄外科学会認定医 日本脳循環代謝学会評議員

	矢木 真一 （やぎ しんいち） 呼吸器科
	【役職】 呼吸器科部長 【資格・専門医・所属学会】 日本呼吸器学会専門医 日本呼吸器内視鏡学会専門医 日本内科学会総合内科専門医 ICD制度協議会 インフェクションコントロールドクター 緩和ケア研修会修了

	山岡 陽子 （やまおか ようこ） 脳神経外科（2023.11 着任）
	【資格・専門医・所属学会】 産業医 日本宇宙航空医学認定医 ボトックス

	山中 恵美子 （やまなか えみこ） 脳ドックセンター（2024.1 着任）
	【資格・専門医・所属学会】 日本人間ドック学会

	涌谷 陽介 (わくたに ようすけ) 脳神経内科
	【役職】 認知症疾患医療センター長 脳神経内科部長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本神経学会専門医・指導医 日本認知症学会専門医・指導医 日本認知症予防学会専門医 日本内科学会総合内科専門医 日本老年精神医学会理事

	渡辺 明良 (わたなべ あきら)
	【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本頭痛学会専門医・指導医 日本脳神経外科学会専門医 日本脳卒中学会専門医 老人保健施設管理認定医 日本脳神経外科コンgres 日本脳ドック学会 日本老年医学会

	和田 聡 (わだ さとし) 麻酔科
	【役職】 麻酔科部長 【資格・専門医・所属学会】 日本麻酔科学会標榜医・認定医

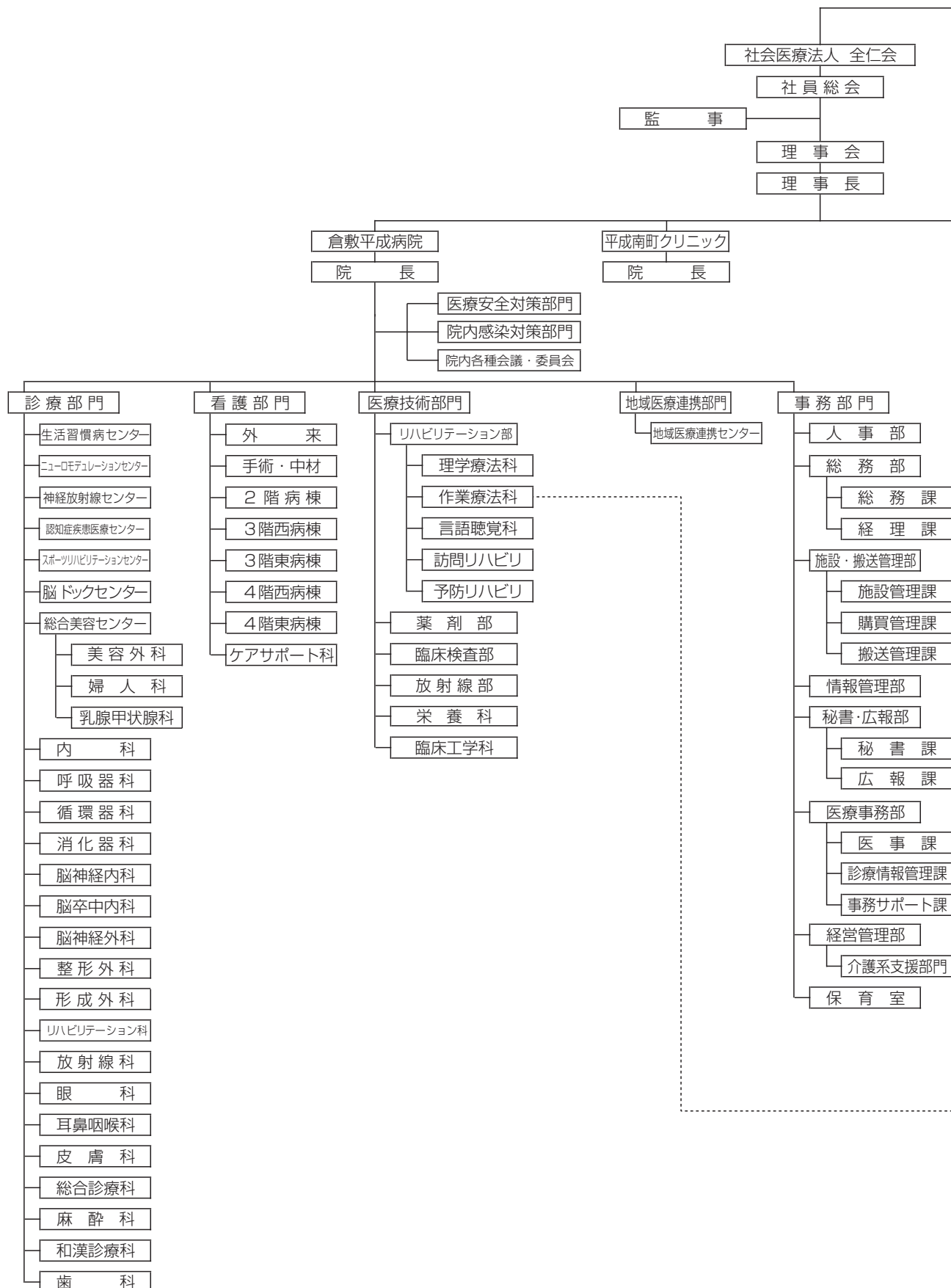
【2024.4 着任】

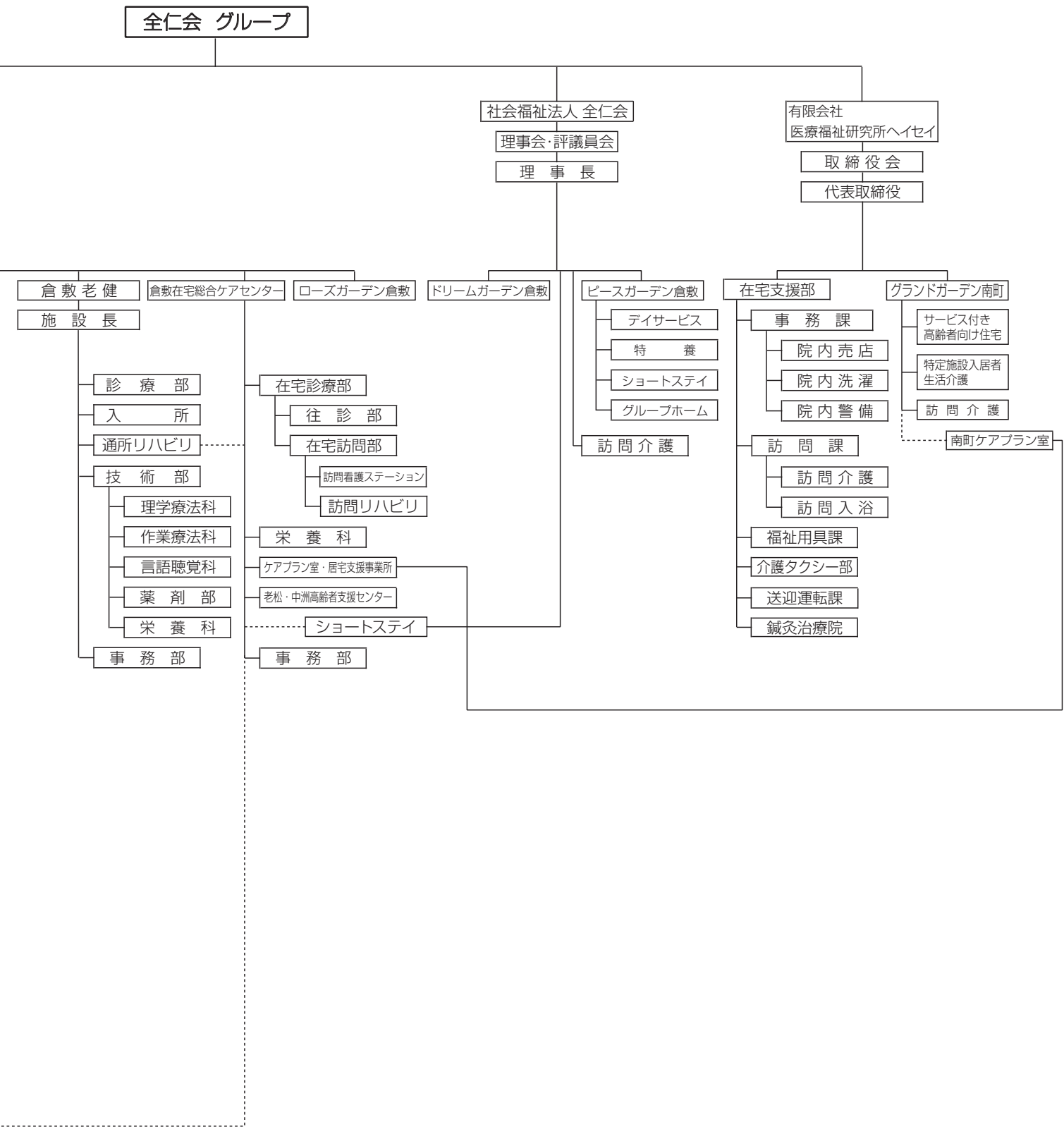
形成外科 部長 **安井 史明** (やすい ふみあき)
 形成外科 副部長 **福井季代子** (ふくい きよこ)
 脳ドックセンター **山中 義之** (やまなか よしゆき)

【2024.5 着任】

消化器科 部長 **高田 良江** (たかた よしえ)
 脳神経外科 部長 **山下 圭一** (やました けいいち)

全仁会グループ 組織図





編集後記

全仁会グループの年報第19巻をお届けします。

今年の活動報告を読むと、各部署での意欲的な活動がよく分かります。このような積極的な姿勢が、各部署のレベル向上、患者さんの信頼獲得、さらには経営状態の改善につながるものと思います。引き続き、よろしくお願いします。

全仁会グループ年報編集委員会

委員長 岩崎孝一郎

委 員	高尾 芳樹	青山 雅	大根 祐子	武森三枝子
	岡本なおみ	藤田 昌美	岩佐 暁子	板谷 尚昌
	福山 浩	三宅 裕代	吉富 春妃	有本 玲香

全仁会グループ 年報 第19巻（令和5年度）

発 行：令和6（2024）年9月30日

編 集：全仁会グループ年報編集委員会

発行者：社会医療法人全仁会

理事長 高尾聡一郎

〒710-0826 岡山県倉敷市老松町4丁目3-38

TEL(086)427-1111(代) FAX(086)427-8001(代)

印刷所：友野印刷株式会社